

あか ぎ  
赤木遺跡第8地点(第一次調査)

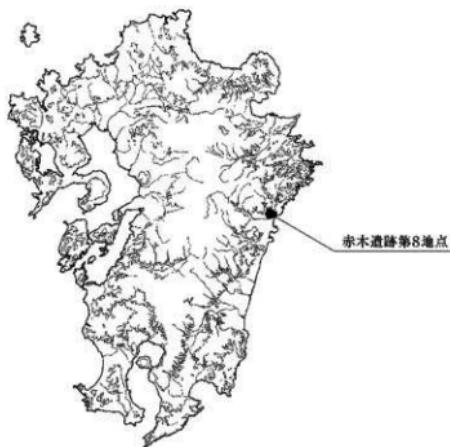
一般国道218号北方延岡道路建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書(6)

2009

宮崎県埋蔵文化財センター

あかぎ  
赤木遺跡第8地点(第一次調査)

一般国道218号北方延岡道路建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書(6)



2009

宮崎県埋蔵文化財センター

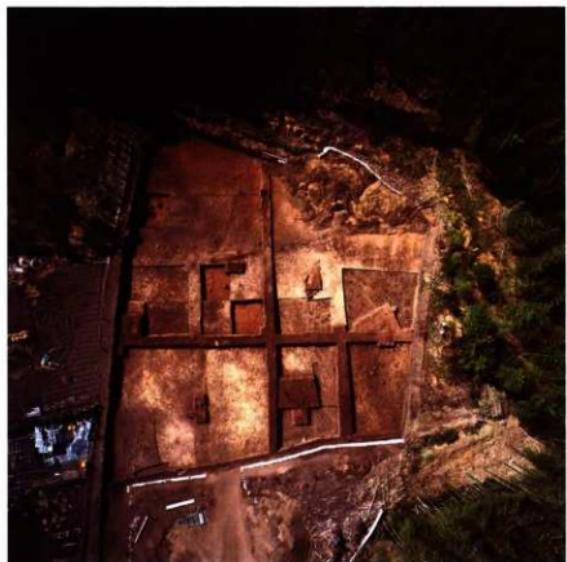


赤木遺跡遠景（遺跡東後方より）

巻頭図版2



縄文早期文化層の調査状況（縁と集石遺構の分布状況）（→北）



旧石器時代文化層の調査状況（→北）



旧石器接合資料（V-VI層）



旧石器各種【剥片尖頭器・角錐状石器・ナイフ形石器】（VI-VII層）

## 序

宮崎県教育委員会では、一般国道 218 号北方延岡道路建設に伴い、宮崎県延岡市舞野町に所在する赤木遺跡第 8 地点（第一次）発掘調査を行いました。

赤木遺跡は、昭和 60 年に延岡市教育委員会が行った発掘調査を嚆矢とし、以後複数回の発掘調査が行われました。調査成果の柱の一つに旧石器時代の遺構・遺物の発見があり宮崎県下の旧石器時代を語る上で外すことが出来ない主要遺跡となっています。

今回の調査では、旧石器時代から弥生時代にかけての遺構・遺物が多く検出されました。特に旧石器時代は、姶良 Tn 火山灰層（約 24,000 ~ 28,000 年前）の上下複数層で生活痕跡が確認され、旧石器時代複数次にわたって人々がこの地を好んで選択し、生活していたことがわかる貴重な資料を得ることができました。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言をいただいた先生方、ならびに地元の方々に心からの謝意を表します。

平成 21 年 3 月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 福永展幸

## 例言・凡例

- 1 本報告書は一般国道218号北方延岡道路建設工事に伴い、宮崎県教育委員会が行った赤木遺跡第8地点(第一次調査)の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所の委託を受けて、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は、平成15年10月28日から平成16年3月26日まで行った。
- 4 現地での実測・写真撮影等の記録は主に橋本英俊・丹後詞が行い、一部を近藤 協、柳田宏一、玉利勇二、赤崎広志、柳田晴子、柳田裕三が行った。
- 5 出土した主な旧石器の石材同定については、赤崎広志(宮崎県総合博物館)に依頼した。なお、すべての石材について同定依頼した訳では無いため最終責任は掲載した近藤にある。
- 6 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで実施し、図面の作成・実測・トレースなどは橋本英俊・丹後詞・近藤 協・橋本憲二が整理作業員の協力を得て行った。
- 7 次の業務はそれぞれ業者に委託した。
  - 空中写真撮影・・・スカイサーベイ九州(有)
  - 基準杭設置・・・(株)東九州コンサルタント
  - 石器遺物の実測図及びトレス図作成・・・大成エンジニアリング(株)、九州文化財研究所  
自然科学分析・・・(株)古環境研究所
- 8 本書で使用した第1図「赤木遺跡周辺図①」・第5図「赤木遺跡周辺地形図」は延岡市作成「延岡都市計画基本図29」を、第2図「赤木遺跡周辺図②」は国土地理院作成「川水流(1/25,000)」を、第3図「延岡市周辺遺跡分布図」は国土地理院作成「延岡(1/50,000)」を基に作成した。
- 9 土層断面等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に掲っているが、数字等記載のない色名はその限りではない。
- 10 本書で使用した方位は、「G.N」と記載しているものが座標北(座標第II系)であり、その他の記載の無いものが磁北(磁針方位は西偏約6.2°)である。レベルは海拔絶対高である。  
また、全体図等で使用した経緯度数値は世界測地系(WGS84)を使用している。
- 11 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。

SA…豎穴住居址 SP…炉穴 SI…集石遺構、礫群
- 12 本書の執筆は、第1章第3節を甲斐 貴充(現 西都原考古博物館)が担当し、その他は近藤 協が行った。
- 13 出土遺物・その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している

## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と歴史的環境	2
第Ⅱ章 調査の概要	6
第1節 調査の経過	6
第2節 基本層序	8
第3節 石材の分類基準	11
第Ⅲ章 調査の記録	12
第1節 旧石器時代	12
1 造構	
(1) 環群	
2 遺物	
(1) 旧石器時代 B 面の調査	
(2) 旧石器時代 C 面の調査	
(3) 旧石器時代 D 面の調査	
(4) 旧石器時代 E 面の調査	
(5) 旧石器時代 F 面の調査	
第2節 繩文時代	106
1 造構	
(1) 集石造構	
(2) 炉 穴	
2 遺物	
(1) 繩文土器	
(2) 石器	
第3節 弥生時代	125
1 造構	
(1) 1号竪穴住居跡	
2 遺物	
(1) 1号竪穴住居跡出土遺物	
第Ⅳ章 自然科学分析	130
第Ⅴ章 まとめ	145

挿図 目次

第1図 赤木遺跡周辺図①	2	第38図 V-VI層出土石器⑬	53
第2図 赤木遺跡周辺図②	3	第39図 V-VI層出土石器⑯	54
第3図 延岡市周辺遺跡分布図	5	第40図 V-VI層出土石器⑯	55
第4図 赤木遺跡グリッド配置図	6	第41図 V-VI層出土石器⑰	56
第5図 赤木遺跡周辺地形図	7	第42図 V-VI層出土石器⑱	57
第6図 C 4区南壁土層断面図	9	第43図 V-VI層出土石器⑲	58
第7図 土層断面図	10	第44図 V-VI層出土石器⑳-1,2	59・60
第8図 59号縄群実測図	13	第45図 V-VI層出土石器21	61
第9図 60,61,62号縄群実測図	14	第46図 V-VI層出土石器22	62
第10図 63,64,65,66,67,68,69号縄群実測図	15	第47図 V-VI層出土石器23	63
第11図 70,71号縄群実測図	16	第48図 V-VI層出土石器24	64
第12図 IV-V層検出状況図(B面)	18	第49図 V-VI層出土石器25	65
第13図 IV-V層出土石器①	19	第50図 VI-VII層検出状況図(E面)	70
第14図 IV-V層出土石器②	20	第51図 VI-VII層出土石器①	71
第15図 IV-V層出土石器③	21	第52図 VI-VII層出土石器②	72
第16図 V層検出状況図(C面)	25	第53図 VI-VII層出土石器③	73
第17図 V層出土石器①	26	第54図 VI-VII層出土石器④	74
第18図 V層出土石器②	27	第55図 VI-VII層出土石器⑤	75
第19図 V層出土石器③	28	第56図 VI-VII層出土石器⑥	76
第20図 V層出土石器④	29	第57図 VI-VII層出土石器⑦	77
第21図 V層出土石器⑤	30	第58図 VI-VII層出土石器⑧	78
第22図 V層出土石器⑥	31	第59図 VI-VII層出土石器⑨	79
第23図 V層出土石器⑦	32	第60図 VI-VII層出土石器⑩	80
第24図 V-VI層検出状況図(D面)	39	第61図 VI-VII層出土石器⑪	81
第25図 V-VI層出土石器①	40	第62図 VI-VII層出土石器⑫	82
第26図 V-VI層出土石器②	41	第63図 VII-IX層検出状況図(F面)	86
第27図 V-VI層出土石器③	42	第64図 VII-IX層出土石器①	87
第28図 V-VI層出土石器④	43	第65図 VII-IX層出土石器②	88
第29図 V-VI層出土石器⑤	44	第66図 VII-IX層出土石器③	89
第30図 V-VI層出土石器⑥	45	第67図 VII-IX層出土石器④	90
第31図 V-VI層出土石器⑦	46	第68図 VII-IX層出土石器⑤	91
第32図 V-VI層出土石器⑧	47	第69図 VII-IX層出土石器⑥	92
第33図 V-VI層出土石器⑨	49	第70図 VII-IX層出土石器⑦	93
第34図 V-VI層出土石器⑩	49	第71図 VII-IX層出土石器⑧	94
第35図 V-VI層出土石器⑪	50	第72図 VII-IX層出土石器⑨	95
第36図 V-VI層出土石器⑫	51	第73図 V-VI.VII層出土石器(轍石・磨石・台石)	96
第37図 V-VI層出土石器⑬	52	第74図 V-VI.VII層出土石器(磨石・台石)	97

第75図	集石遺構・炉穴・砾群検出状況	107・108	第88図	打製石鎚実測図	123
第76図	集石遺構実測図①	109	第89図	1号堅穴住居跡位置図	125
第77図	集石遺構実測図②	110	第90図	1号堅穴住居跡(SA1)実測図	126
第78図	集石遺構実測図③	111	第91図	1号堅穴住居跡出土弥生牛上器実測図	127
第79図	集石遺構実測図④	112	第92図	1号堅穴住居跡出土弥生土器・石器実測図	128
第80図	集石遺構実測図⑤	113	第93図	ナイフ形石器測定の推移	145
第81図	集石遺構実測図⑥	114	第94図	剥片尖頭器測定値の推移	145
第82図	集石遺構実測図⑦	115	第95図	角錐状石器測定値の推移	145
第83図	集石遺構実測図⑧	116	第96図	赤木遺跡第8地点(一次調査)石器様相	147
第84図	炉穴分布図	118	第97図	赤木遺跡1次の構成石材	148
第85図	炉穴(SP1.2.3.4)実測図	119	第98図	IV-V層の構成石材	149
第86図	炉穴(SP5.6.7.8.9)実測図	120	第99図	VI-VII層の構成石材	149
第87図	縄文早期土器・石器実測図	122	第100図	花粉分析による遺跡周辺環境推定図	150

#### 表 目 次

第1表	赤木遺跡基本層序	8	第6表	集石遺構計測表	124
第2表	石材分類表	11	第7表	堅穴住居跡(SA1)出土土器観察表	129
第3表	旧石器砾群計測表	12	第8表	各層における石材重量	147
第4表	旧石器計測表	98	第9表	接合資料構成剥片の出土層一覧	148
第5表	打製石鎚観察表	116			

#### 図 版 目 次

図版1	卷頭1 赤木遺跡遠景(遺跡東後方より)	154
図版2	卷頭2 ・縄文早期文化層の調査状況 (砾と集石遺構の分布状況)(→北) ・旧石器時代文化層の調査状況(→北)	
図版3	卷頭3 ・旧石器接合資料(V-VI層) ・旧石器各種(角錐状石器・剥片尖頭器・ナイフ形石器)	
図版4	153 ・一次調査区から二次調査区を望む ・縄文早期面の発掘状況 ・IV V VI層面の遺物出土状況 ・IV V VI層面の発掘作業状況 ・B 2区V層面の遺物出土状況 南西から ・IV V VI層面の遺物出土状況	
図版5	図版5 ・IV V VI層面の遺物出土状況(C4区)北東から ・VI層面の遺物出土状況(D4区)北西から ・V層面の遺物出土状況(C4区)北から ・V VI層面の遺物出土状況(A3区) ・V層からAT層面の遺物出土状況(A 1区・B 1区) ・V層からVI層面の遺物出土状況(B4区)	
図版6	155 ・V層からVI層面(AT直上)の遺物出土状況(B4区) ・V層からVI層面(AT直上)の遺物出土状況(B3区) ・V層からVI層面(AT直上)の遺物出土状況 (C3区・D3区) ・石皿、磨石の出土状況 ・AT直下の遺物出土状況 ・VI層(AT直下)の遺物出土状況(D3区)	

図版 7 .....	156	・33号集石造構検出状況 ・33号集石造構の配石状況 ・34号集石造構検出状況 ・35号集石造構検出状況
		図版12..... 161
・1号、2号集石造構検出状況 ・3号集石造構検出状況 ・4号集石造構検出状況 ・5号集石造構検出状況 ・6号集石造構検出状況 ・7号集石造構検出状況 ・8号集石造構検出状況 ・9号集石造構検出状況	・36号集石造構検出状況 ・36号集石造構の配石状況 ・37号集石造構検出状況 ・37号集石造構の配石状況 ・38号集石造構検出状況 ・39号集石造構検出状況 ・40号集石造構検出状況 ・40号集石造構検出状況	
図版 8 .....	157	図版13..... 162
		・41号集石造構検出状況 ・41号集石造構の配石状況 ・42号集石造構検出状況 ・42号集石造構の配石状況 ・43号集石造構検出状況 ・44号集石造構検出状況 ・45号集石造構検出状況 ・45号集石造構の配石状況
図版 9 .....	158	図版14..... 163
		・46号集石造構検出状況 ・47号集石造構検出状況 ・47号集石造構の配石状況 ・48号集石造構検出状況 ・48号集石造構の配石状況 ・49号集石造構検出状況 ・50号集石造構検出状況
図版10..... 159		図版15..... 164
		・52号集石造構検出状況 ・53号集石造構検出状況 ・54号集石造構検出状況 ・55号集石造構検出状況 ・56号集石造構検出状況 ・56号集石造構の配石状況 ・57号集石造構検出状況 ・57号集石造構の配石状況
図版11..... 160		
		・28号集石造構検出状況 ・29号集石造構検出状況 ・30号、31号集石造構検出状況 ・30号、31号集石造構の配石状況

図版16	165	図版26	175
・58号集石遺構検出状況		・Ⅷ-Ⅸ層出土石器(石核)	
・61号集石遺構検出状況		・水晶製石器(二次加工剥片) 235・241	
図版17	166	〔VI-VII層〕、310・311〔Ⅷ-Ⅸ層〕	
・1号炉穴検出状況(SP1)		図版27	176
・2,3,4号炉穴検出状況(SP2,3,4)		・V-VI層出土石器(敲石・磨石)	
・5号炉穴検出状況(SP5)		・VI-VII層出土石器(台石・敲石・磨石)	
・5,6,7号炉穴検出状況(SP5,6,7)		図版28	177
・6号炉穴断面状況(SP6)		・接合資料54・55・56	
・7号炉穴検出状況(SP7)		図版29	178
・8号炉穴断面検出状況(SP8)		・接合資料57・58・59	
・8号炉穴底の焼跡検出状況(SP8)		図版30	179
図版18	167	・接合資料183・184	
・一号堅穴住居跡(SA1)検出状況		図版31	180
・一号堅穴住居跡(SA1)の遺物散布検出状況		・接合資料185・188・189	
図版19	168	図版32	181
・IV-V層出土石器(細石刃・細石核)		・接合資料186	
・IV-V層出土石器(細石刃・黒曜石製細石核)		図版33	182
・IV-V層出土石器(細石核・剥片)		・接合資料187	
・IV-V層出土石器(尖頭器)		図版34	183
・V層出土石器(ナイフ形石器・角錐状石器・接器・削器)		・接合資料190・191・192	
図版20	169	図版35	184
・V層出土石器(削器・剥片)		・接合資料193・194・195	
・V-VI層出土石器(ナイフ形石器)		図版36	185
図版21	170	・接合資料256・257・258	
・V-VI層出土石器(ナイフ形石器・角錐状石器)		図版37	186
・V-VI層出土石器(角錐状石器・剥片尖頭器)		・接合資料259・260・261	
図版22	171	図版38	187
・V-VI層出土石器(搔器・削器・二次加工剥片)		・接合資料262	
・V-VI層出土石器(二次加工剥片・使用痕のある剥片)		図版39	188
図版23	172	・接合資料321・322・323	
・V-VI層出土石器(石核・剥片)		図版40	189
・VI-VII層出土石器(ナイフ形石器・角錐状石器・剥片尖頭器)		・接合資料324・325・326	
図版24	173	図版41	190
・V-VI層出土石器(搔器・削器・二次加工剥片)		・縄文早期面出土の土器	
・V-VI層出土石器(石核・剥片)		・縄文早期面出土の石器	
図版25	174	図版42	191
・Ⅷ-Ⅸ層出土石器(ナイフ形石器・搔器)		・1号堅穴住居(弥生時代)出土の土器・石器	
・Ⅷ-Ⅸ層出土石器(搔器・削器・敲石・二次加工剥片)			



## 第Ⅰ章 はじめに

### 第1節 調査に至る経緯

一般国道218号北方延岡道路整備事業は、宮崎県北地域への高速交通サービスを提供し、地域活性化に寄与することを目的として、建設省（現国土交通省）九州地方整備局延岡河川国道事務所が平成8年度に高規格道路（延岡道路・北方延岡道路）を事業化した。

宮崎県教育委員会は、平成6年度に国の補助を受けて延岡市～西都市周辺を対象とした遺跡詳細分布調査を実施し、この成果を踏まえ、同事業による埋蔵文化財への影響や保護の方法について協議を開始した。以来、現在も同事業に伴う協議・調査を継続している。この協議を基に工事によって影響を受ける埋蔵文化財包蔵地の試掘調査を実施した結果、今回報告する赤木遺跡において、旧石器時代から弥生時代にかけての遺物が数多く確認され、記録保存の措置をとることになった。

用地買収等の関係上、調査は複数年・複次にかけて実施することとなり、第一次調査は調査対象区西側の3,800m<sup>2</sup>を平成15年10月28日～平成16年3月26日の約5ヶ月間（調査実施日87日）、第二次調査は調査対象区中央部1,500m<sup>2</sup>を平成16年6月14日～平成16年12月14日の約6ヶ月間（調査実施日97日）、第三次調査は調査区東部1,000m<sup>2</sup>を平成17年12月12日～平成18年3月17日の約4ヶ月間（調査実施日60日）調査を実施した。また、今回報告する第一次調査における遺物整理作業と報告書作成作業を平成16年度から平成20年度にかけて宮崎県埋蔵文化財センターで実施した。

### 第2節 調査の組織

赤木遺跡第8地点（第一次調査）における調整・試掘及び発掘調査、整理・報告書作成作業は下記の組織で実施した。

調査主体：宮崎県教育委員会

試掘・事業調整：宮崎県教育委員会文化財課 調査機関：宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県教育委員会文化財課

課長

福島 順二（平成15～16年度）

米良 弘康（平成16～18年度）

井上 貴（平成19年度）

清野 魁（平成20年度）

課長補佐

鶴元 雅彦（平成15～16年度）

菫子野 信男（平成16～18年度）

野中 一則（平成19～20年度）

主幹兼埋蔵文化財担当リーダー

右川 悅雄（平成15～18年度）

谷口 武範（平成19～20年度）

埋蔵文化財係主任主事

松林 豊樹（平成15～16年度）

埋蔵文化財担当 主査

飯田 博之（平成17～20年度）

宮崎県埋蔵文化財センター

所長

米良 弘康（平成15年度）

宮園 淳一（平成16～17年度）

清野 魁（平成18～19年度）

福永 展幸（平成20年度）

副所長兼総務課長

大畠 和博（平成15～16年度）

副所長

加藤 悟郎（平成18～20年度）

長友 英詞（平成20年度）

副所長兼調査第二課長

岩永 哲夫（平成15～18年度）

総務課長

宮越 尊（平成17～19年度）

長友 英詞（平成20年度）

総務課主幹兼総務担当リーダー

右川 悅史（平成15～17年度）

高山 正信（平成18～19年度）

調査第二課長

右川 悅雄（平成19～20年度）

調査第二課主幹兼調査第四担当リーダー

近藤 協（平成15～20年度）

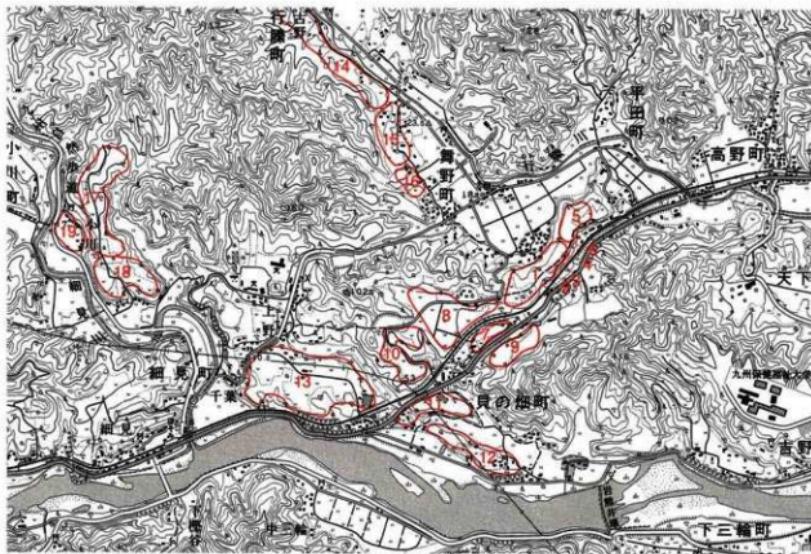
調査第二課調査第四担当 主査

橋本 美俊（平成15～18年度）

### 第3節 遺跡の位置と環境

#### (1) 赤木遺跡の立地と周辺の遺跡（第1図）

赤木遺跡は宮崎県北部の延岡市舞野町字赤木に所在する。延岡市西部の北方町との隣接側に位置し、行謙山（標高 829m）から五ヶ瀬川に向かって一度南へ延び、更に東へ派生する丘陵上尾根筋（標高 46 ~ 48m）に立地している。北側斜面下には五ヶ瀬川の支流である行謙川が東流し、同じ丘陵上先端部には旧石器～近世までの複合遺跡である眞藤遺跡が存在し、遺跡南側には国指定史跡南方古墳群舞野支群の第 21 号～第 23 号が分布している。また、丘陵周辺を見てみると、五ヶ瀬川・五ヶ瀬川支流の行謙川・細見川流域付近の谷平野や河岸段丘上には、豊かな自然を背景に旧石器時代から現代まで連続と生活が営まれていたと考えられ、それを証明するように旧石器時代から現代に至るまでの複合遺跡が数多く存在している。遺跡の西側の丘陵下の平野部には、弥生～古墳時代の石棺墓が出土した多々羅第 2 遺跡をはじめ、多々羅第 1 遺跡（旧石器～古墳時代）・多々羅第 3 遺跡（縄文～古墳時代）が存在する。遺跡南西側の現在の高千穂鉄道や国道 218 号線を挟んだ独立丘陵の北西斜面上には、竹下第 1 遺跡（旧石器～古墳時代）・竹下第 2 遺跡（弥生時代）が存在する。遺跡南西側の河川に開拓された平野部には、貝ノ畠遺跡（縄文時代）・黒土田遺跡（旧石器～古墳時代）が存在する。



第1図 赤木遺跡周辺図① (1 : 25,000)

- |                   |                   |                   |                   |
|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1 赤木遺跡            | 2 南方古墳群舞野支群第 21 号 | 3 南方古墳群舞野支群第 22 号 | 4 南方古墳群舞野支群第 23 号 |
| 5 南方古墳群舞野支群第 24 号 | 6 南方古墳群舞野支群第 19 号 | 7 多々羅第 2 遺跡       | 8 多々羅第 1 遺跡       |
| 9 多々羅第 3 遺跡       | 10 竹之下第 1 遺跡      | 11 竹之下第 2 遺跡      | 12 貝ノ畠遺跡          |
| 13 黒土田遺跡          | 14 行謙小切畠遺跡群       | 15 舞野遺跡           | 16 美土ノ内遺跡         |
| 17 山田遺跡           | 18 番山遺跡           | 19 山口遺跡           |                   |

現在の九州保健福祉大学がある遺跡南東側の独立丘陵付近にも多数の遺跡が存在する。遺跡北西側の五ヶ瀬川支流行勝川の河岸段丘上には行勝小切畑遺跡群（旧石器～弥生時代）・舞野遺跡（弥生～古墳時代・近世）・美土ノ内遺跡（旧石器～古墳時代）が存在する。遺跡西側には五ヶ瀬川支流の細見川があり、近年発掘調査が行われた山田遺跡（旧石器～古墳時代）・畠山遺跡（旧石器～中世）・山口遺跡（弥生～中世）が存在する。

また、国土交通省は平成6年度から北川町大字長井字上迫から延岡市伊形町までの全長20.6kmの国道10号線延岡道路の事業に着手し、それに伴い当センターは、林遺跡・吉野第2遺跡・今井野第2遺跡・天下城山遺跡の発掘調査を行った。林遺跡は平成9～12年度の4か年調査を行い、旧石器時代から近世にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。吉野第2遺跡は、平成12・13・15年度に調査を行い、旧石器時代から近世にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。天下城山遺跡は近世の遺構・遺物が検出された。平成8年度からは、北方町大字蔵田から延岡市天下町の全長11.0kmの国道218号北方延岡道路事業にも着手した。それに伴い、山田遺跡・山口遺跡第2地点・野門遺跡・赤木遺跡第8地点の発掘調査を行った。山田遺跡は主に旧石器時代や縄文時代早期の遺構や遺物が、山口遺跡第2地点は弥生時代後期から古墳時代中期にかけての集落跡が、野門遺跡は縄文時代から古代にかけての幅広い時代の遺構・遺物が検出された。

延岡道路・北方延岡道路の両事業は現在も進行中であり、今後更に発掘調査增加の可能性がある。

## (2) 赤木遺跡調査の歴史(第2図)

赤木遺跡は古くから旧石器時代から古墳時代にかけての表採資料が確認されている「周知の埋蔵文化財包蔵地」であり、平成15年に第8地点として発掘調査を実施する以前に7回の発掘調査を行っている。昭和60年(1985年)に保育園建設に伴い延岡市教育委員会が赤木遺跡第1地点として発掘調査を実施した。この発掘調査により始良Tn火山灰層上位からナイフ形石器を中心とする包含層(赤木遺跡第1文化層)と細石器を中心とする包含層(赤木遺跡第II文化層)の2枚の良好な旧石器時代の包含層が



第2図 赤木遺跡周辺図② (S=1/5,000)

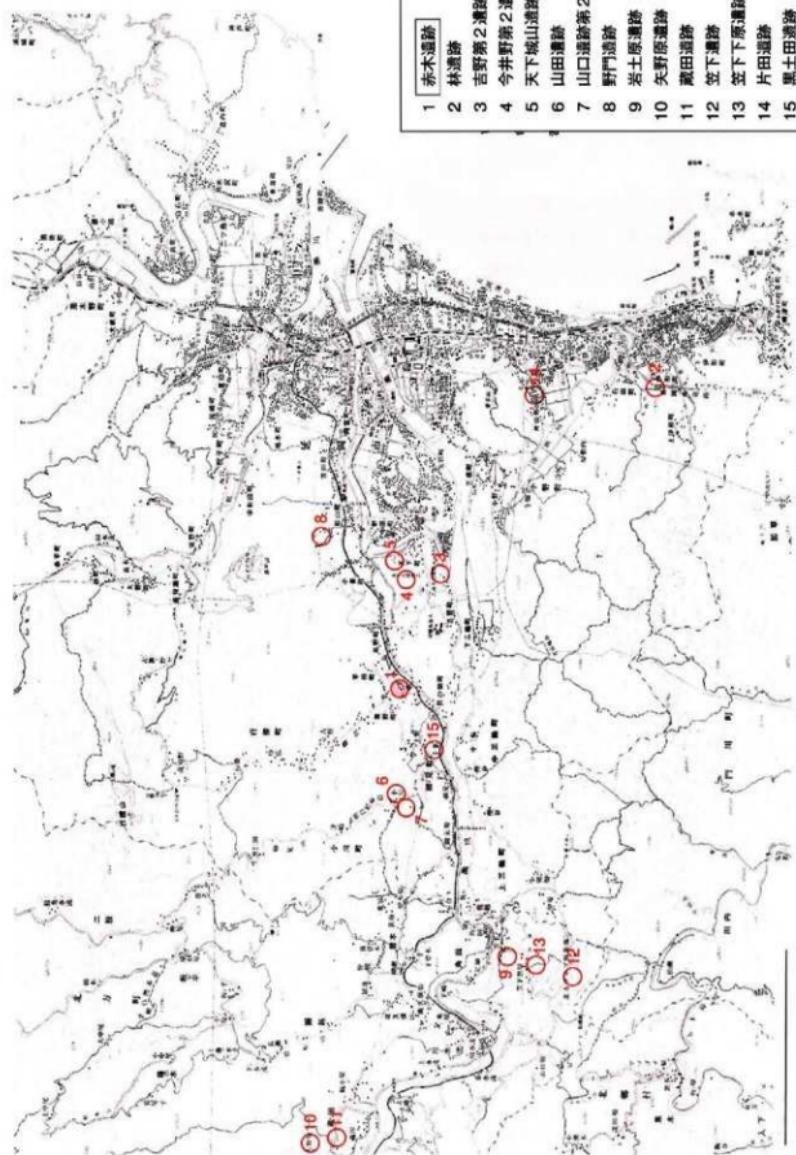
確認され、宮崎県下の旧石器時代を語る上で外すことが出来ない主要遺跡となった。その後、平成6年（1994年）に延岡市教育委員会が第2地点として、保育園駐車場建設に伴い国指定史跡南方古墳群第21号・第22号の墳丘範囲確認調査を実施し、平成9年（1997年）には第3・4地点として携帯電話無線基地局建設に伴い丘陵中央平坦部の発掘調査を実施し、旧石器時代遺物約320点が出土した。さらに平成11年（1999年）には第5・6地点として、延岡市教育委員会が同じく携帯電話無線基地局建設に伴い丘陵西部北斜面の発掘調査を実施し、旧石器時代遺物約220点が出土し、平成13年（2001年）には第7地点として延岡市教育委員会が、宅地造成に伴い丘陵中央平坦部の発掘調査を実施し、主に始良Tn火山灰層上位の旧石器時代の遺物が多く出土し、部分的ながら始良Tn火山灰層下位の調査も実施し、ナイフ形石器をはじめとする石器類が出土した。

今回、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した第8地点の第一次～第三次調査は赤木遺跡全体の第8次調査にあたる。第8地点の調査が終了した後も延岡市教育委員会が調査を行っており、平成15年（2003年）の第9地点の調査では国指定史跡南方古墳群第22号墳の周溝と須恵器が、平成16年（2004年）の第10地点と平成17年（2005年）の第11地点では繩文～旧石器時代の遺物が確認されている。

#### 【引用・参考文献】

- \*調査面積や出土遺物の量などから整理作業に時間を要したため、第二・三次調査の報告書が先に刊行された。同じ遺跡内であるため第一章については2007年『赤木遺跡第8地点（第二次調査）』を基本的に引用し、一部については改編・補足をしている。
- 1987「延岡市の歴史的環境・赤木遺跡・多々羅遺跡」『延岡市文化財調査報告書第3集』延岡市教育委員会
- 1990「片出遺跡（楓葉）」『延岡市文化財調査報告書第5集』延岡市教育委員会
- 1992「上南方地区遺跡」『延岡市文化財調査報告書第8集』延岡市教育委員会
- 1995「黒上田遺跡・赤木遺跡第2地点・上無田遺跡・平野遺跡・上菱野遺跡・淨土寺山古墳」『延岡市文化財調査報告書第13集』延岡市教育委員会
- 2002「上無田遺跡・赤木遺跡（第7次）」『延岡市文化財調査報告書第25集』延岡市教育委員会
- 2004「上多々良箱石棺群（第2次）・中川原町右衛門山地点・野田八田遺跡群（第3次）・木ノ下遺跡・赤木遺跡（第9次）・野地古墳」『延岡市文化財調査報告書第29集』延岡市教育委員会
- 2005「延岡城内遺跡（第10次）・仲道遺跡・赤木遺跡（第10次）・延岡城内遺跡（第11次）・木ノ下遺跡・上無田遺跡（第4次）・大式遺跡・上多々良遺跡（第2次）・延岡城内遺跡（第12次）・西階横穴」『延岡市文化財調査報告書第30集』延岡市教育委員会
- 2006「神田給遺跡・港山古墳・上無田遺跡（第5次）・赤木遺跡（第n次）・恒富中学校地点・栗野名町島田地点」『延岡市文化財調査報告書第32集』延岡市教育委員会
- 1990「笠下遺跡」『北方町文化財報告書第1集』北方町教育委員会
- 1992「笠下下原遺跡」『北方町文化財報告書第4集』北方町教育委員会
- 1995「打畠遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・戸田遺跡」一般国道218号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮崎県教育委員会
- 1990「林遺跡」一般国道10号土々呂バイパス建設関係発掘調査報告書 宮崎県教育委員会
- 2005「山口遺跡第2地点」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第99集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 2006「今井野第2遺跡・天下城山遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第135集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 2006「野門遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第136集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 2006「山田遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第146集 宮崎県埋蔵文化財センター
- 1991「宮崎県史 資料編考古1」宮崎県
- 2002岩永哲夫「宮崎県の旧石器研究の歴史」「後半田遺跡」後半田遺跡調査團・川南町教育委員会
- 2002藤木聯「宮崎県域における旧石器時代研究の現状と課題」「宮崎考古」第18号
- 1967鈴木重治「宮崎県見立出羽洞穴」「日本の洞穴遺跡」平凡社
- 1985鈴木重治「日本の古代遺跡 25 岩崎」「岩崎」第10号 石器時代文化研究会
- 1973鈴木重治「宮崎県岩崎原追跡の調査－土器伴出石器文化の一例－」「石器時代」第10号 石器時代文化研究会

第3図 磐田市周辺遺跡分布図 (1 : 100,000)



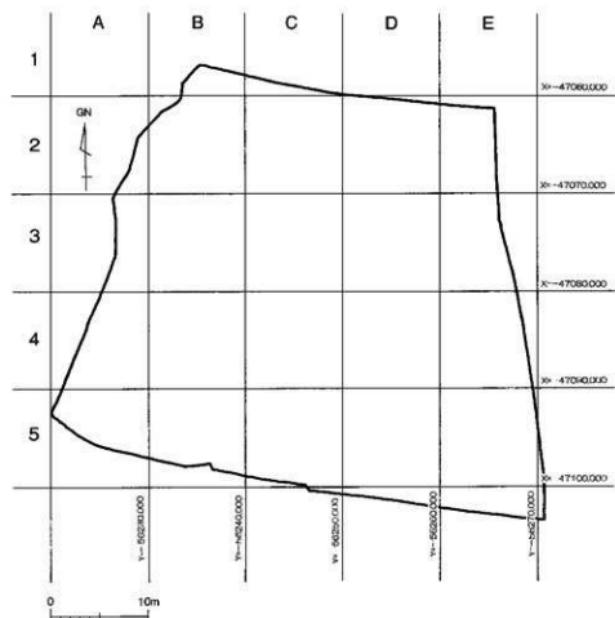
## 第Ⅱ章 調査の概要

### 第1節 調査の経過

調査対象である約3,800m<sup>2</sup>について、平成15年10月28日から調査を開始した。土層堆積を観察すると、現耕作土直下がアカホヤ火山灰層（Ⅲ層）上面となっており、既に土層上位はかなりの削平を受けているものと判断した。そのため、重機によって当該層上面まで掘り下げ、遺構の検出を試みることとした。調査区西側の三分の一は急斜面となるため、調査の主体は尾根部の平坦面から西斜面が中心となり、アカホヤ火山灰層上面において、弥生時代の竪穴住居跡1軒を検出している。アカホヤ火山灰層直下の黒褐色土層からは、無文土器や貝殻条痕文土器片、剥片、石礫などが出土し、縄文時代早期の包含層であることが明らかとなった。検出した遺構は焼けた散疊の散布と集石遺構で暗褐色土層（V層）上面で確認した。散疊は斜面となる西側を除いてほぼ一面に広がっており、分布範囲を記録した後、12月5日に空中撮影（1回目）を行い、記録の後、散疊の除去を行った。散疊を除去する過程で、集石遺構58基、炉穴9基を検出している。集石遺構の図面を取り終えたグリッドから旧石器時代の相当する層の掘削を開始した。調査は層順にグリッド法（10m単位）を用い、遺物の取り上げはトータルステーションを使用している。集石遺構下層の褐色土層は2枚に分層でき、各層の上面で疊群を確認した。上層からは細石刃や細石刃核が出土し、下層からはナイフ形石器などが出土した。さらに、始良Tn火山灰層の直上と直下からも遺物が確認できた。3月10日に始良Tn火山灰層直下面で空中写真撮影（2回目）を行っている。

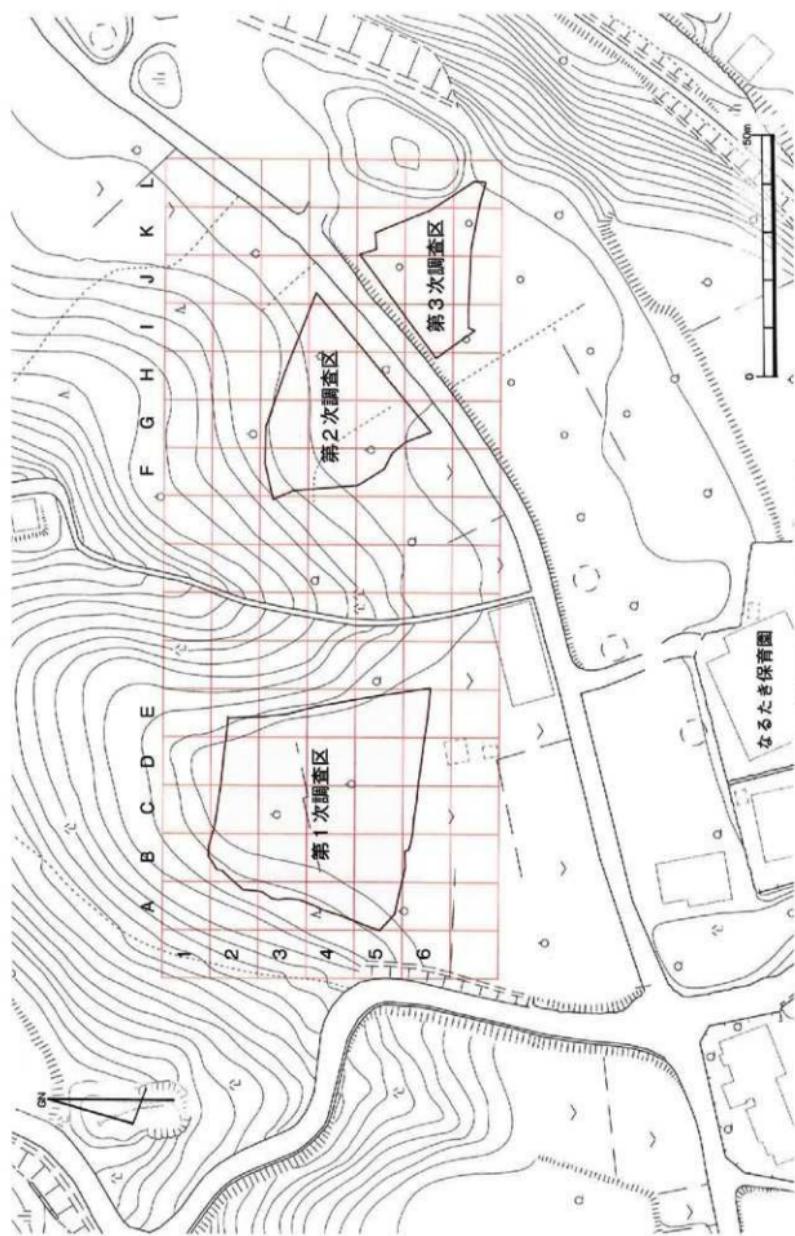
始良Tn火山灰層の直下からも遺物が出土したことから、以下の層についてもトレンチを設定し遺物の有無を確認した。結果、全部で20ヶ所設定したトレンチからは遺物の出土は無かった。3月22日から重機による埋め戻し及び事務所の撤去等を行い、3月26日に調査の全工程を終了している。

総調査日数は87日間である。



第4図 赤木遺跡グリッド配置図 (1/500)

第5図 赤木遺跡周辺地形図 (1 : 1,000)



## 第2節 基本層序

赤木遺跡第8地点（第一次調査）は、層上部が後世の削平を受けているものの、調査区の中央は尾根上の平坦地で、アカホヤ火山灰層から下層は比較的良好な堆積状況であった。しかし、西側は尾根の端となる傾斜地であり、表土の除去を行うと直下で縄文時代早期の暗褐色土層となった。基本層序は以下の第Ⅰ層～第Ⅺ層となる。また、遺跡の年代比定の基準となる鍵層である広城テフラは、約6,300～7,300年前の鬼界アカホヤ火山灰堆積物であるⅢ層と、約24,000～28,000年前の始良Tn火山灰堆積物であるⅤ層が存在する。その他の層にも広城テフラが含まれていることがテフラ分析により確認されている。（詳細は第Ⅳ章自然科学分析に記している。）なお、とくに旧石器遺物観察表における層序の標記にあたっては、同一層における深度に応じて1（浅い）から5（深い）までの数字を付加している。（例えば、V1、V2、V3、V4、V5と標記している。）

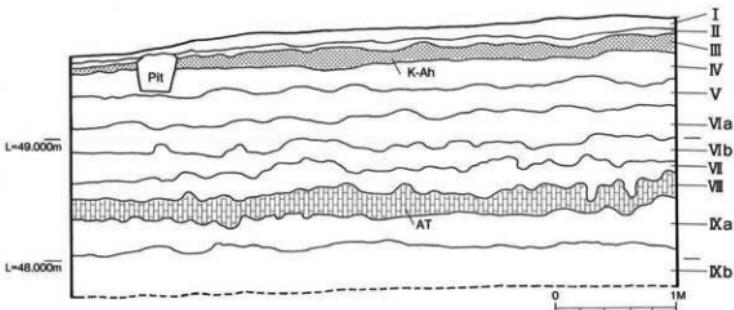
また、昭和60年（1985年）の第1地点と、先に刊行されている第8地点の二次・三次調査の基本層序と対比させるために、それぞれの層序も合わせて記載する。

表1 赤木遺跡基本層序

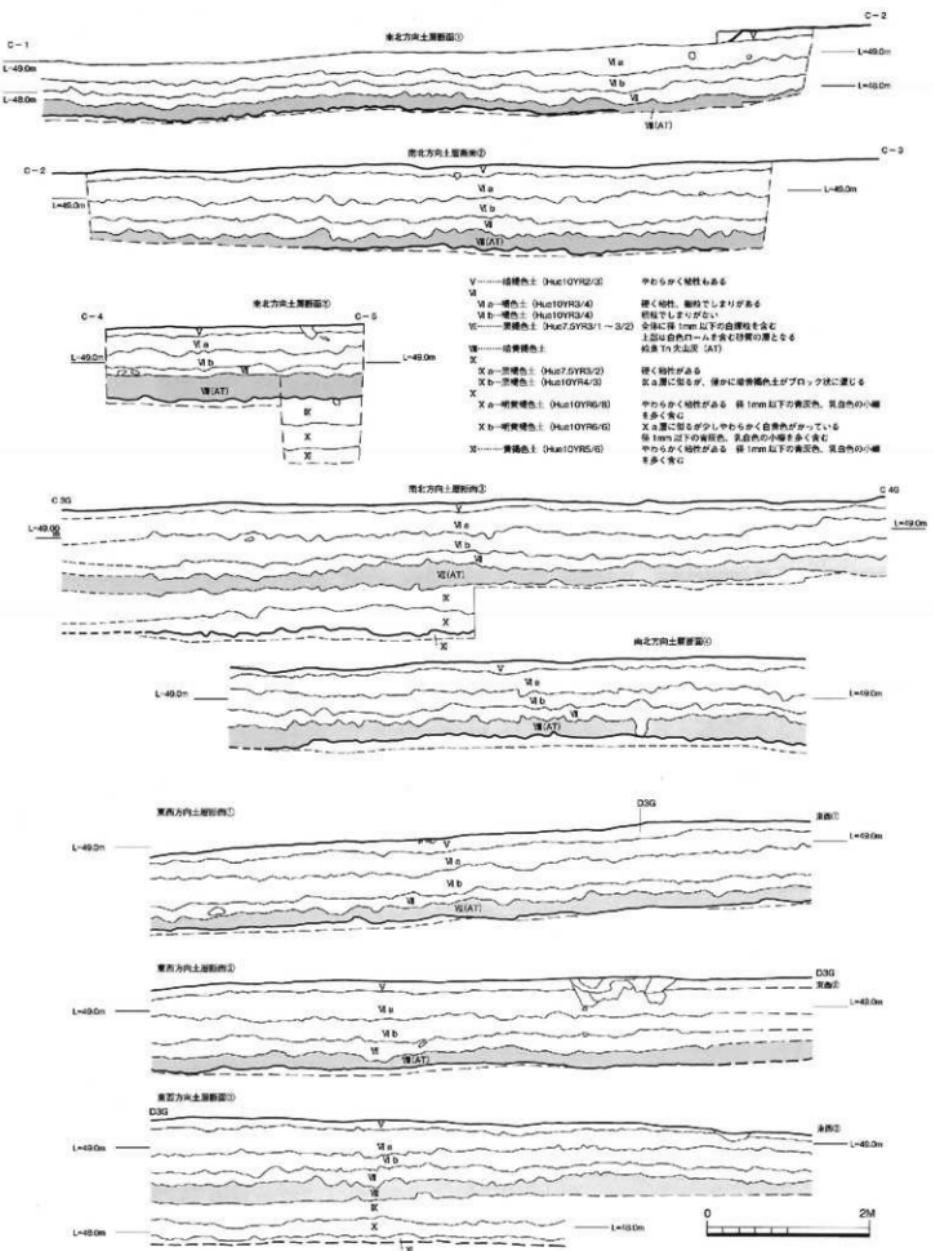
層序	土質	特徴	二次	三次
			I	II
第Ⅰ層	黒褐色土① (Hue 25Y2/1)	土質は粗粒でしまりがない。現地表面の表土。層厚約10cm。		
第Ⅱ層	黒褐色土 (Hue7.5YR3/1～2/1)	土質は柔らかくしまりがない。黒ボクと呼ばれている層で、弥生～古墳時代の包含層と考えられる。層厚約10cm、西側は削平されている。	III	II
第Ⅲ層	明黄褐色土 (Hue10YR6/6)	鬼界アカホヤ火山灰層（K-Ah）全体的に細粒であり、風成堆積層と考えられる。層厚約0～20cmで、西側は削平され、調査区中央部にのみ堆積する。層上面より弥生時代の遺構を検出。	IV	III
<第1地点の第Ⅲ層>				
第Ⅳ層	黒褐色土 (Hue10YR3/1～2/1)	土質はやや硬く少し粘性がある。層厚約0～25cmで、調査区全体的に堆積する。層下部より縄文時代の遺物を検出する。縄文時代早期の包含層。	V	V
<第1地点の第Ⅳ層>				
第Ⅴ層	暗褐色土 (Hue10YR2/3)	土質は柔らかく粘性もある。層上面より縄文時代早期の集石遺構や遺物を検出する。層下部より縄文時代の遺物を検出する。旧石器時代の含層。層厚約20cmで、調査区全面に堆積する。	VI	VI
<第1地点の第Ⅴ層>				
第Ⅵ層	褐色土	土質は硬く、粘性がある。層厚約20～40cmで、調査区全体に厚く堆積する。層全体より旧石器時代遺物が出土する旧石器時代包含層である。a・b層に細分できる。	VII	VII
<第1地点の第Ⅵ層>				
第Ⅶa層	褐色土 (Hue10YR3/4)	層厚約20～30cmで粗粒でしまりがある。層上面より旧石器時代の遺存を検出。	VIII a	
第Ⅶb層	褐色土 (Hue10YR3/4)	層厚約20cmで粗粒でしまりがない。層下部より旧石器時代遺物が出土する旧石器時代包含層。	VIII b	
第Ⅷ層	黒褐色土 (Hue7.5YR3/1～3/2)	層1mm以下の白輝色を全体に、上部に白色ロームを含む砂質の層。層上面より旧石器時代の遺物や礫群などの遺構が検出される。層下部は旧石器時代の包含層。層厚約20cmで調査区全面に堆積する。	IX	IX
<第1地点の第Ⅷ層>				
第Ⅸ層	暗黃褐色 (Hue10YR6/8)	火山灰土。始良Tn火山灰層（AT）。層厚約20cmで、調査区全体に堆積する。	IX a・b	IX
<第1地点の第Ⅸ層>				
第Ⅹ層	黒褐色土	層厚60cmで、調査区全体に堆積する。層全体から旧石器時代の遺物が出土する旧石器時代包含層。含有物によってa・b層に細分できる。	X	X
<第1地点の第Ⅹ層>				
第Ⅺa層	黒褐色土① (Hue7.5YR3/2)	土質は硬く粘性がある。層厚は30cmである。	Xa	
第Ⅺb層	黒褐色土② (Hue10YR4/3)	第Ⅺa層と似ているが、わずかに暗黃褐色土とブロック状のユニットを形成する。層厚は30cmである。全体に1～5cm程度の自然縫を多く含む。	Xb	
第X層	明黃褐色土	調査区全面から検出。ただし、振り下げ箇所はトレチナの部分的のみである。層厚は約60cm。土質・色調・含有物によってA・bに細分できる。	XI	XI
第Xa層	明黃褐色土① (Hue10YR6/8)	土質はやや柔らかく粘性がある。全體に径1mm以下の青灰色・乳白色の小縫が多く含む。旧石器時代遺物が出土する。	XI a	
第Xb層	明黃褐色土② (Hue10YR6/6)	土質は第Xa層と似ているが、比して少し柔らかく色調も白黄色がかっている。第Xa層と同じく全體に径1mm以下の青灰色・乳白色の小縫を多く含む。旧石器時代遺物が出土するが、顕著地からの出土であり上層の可能性が高い。	XI b	
第Ⅺ層	黃褐色土 (Hue10YR5/6)	層厚は約35cm。土質はやや柔らかく粘性がある。全體に径1mm以下の青灰色・乳白色の小縫を多く含む。		



- 第Ⅰ層 黒色土 (Hue2.5Y2/1) 植生のみられる表土である。
- 第Ⅱ層 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1 ~ 2/1) 柔らかくしまりのないクロボク土である。
- 第Ⅲ層 明黄褐色土 (Hue10YR6/8) 鬼界アカホヤ火山灰層 (K-A h) である。
- 第Ⅳ層 黒褐色土 (Hue10YR3/1 ~ 2/1) やや硬く少し粘性がある。
- 第Ⅴ層 暗褐色土 (Hue10YR2/3) 柔らかく、粘性がある。
- 第Ⅵa層 褐色土 (Hue10YR3/4) 細粒でしまりがある。
- 第Ⅵb層 褐色土 (Hue10YR3/4) 細粒でしまりがない。
- 第Ⅶ層 黑褐色土 (Hue7.5YR3/1 ~ 2/1) 白色鉱物粒を全体に含み、砂質となる。
- 第Ⅷ層 暗黄褐色土 (Hue10YR6/8) 始良 Tn 火山灰層 (AT) である。
- 第Ⅸa層 黒褐色土 (Hue7.5YR3/2) 硬く粘性がある。
- 第Ⅸb層 黒褐色土 (Hue10YR4/3) 暗黄褐色土とブロックを形成する。1~5 cmの円礫を含む。
- 第Ⅹ層 明黄褐色土 (Hue10YR6/8) 柔らかく粘性がある。土質によって a, b に分けられる。



第6図 C4区南壁土層断面図 (1/40)



第7図 土層断面図 (1/60)

### 第3節 石材の分類基準

石器製作に用いられる石材は、層位を問わず遺跡周辺、特に五ヶ瀬川河床や段丘疊層から採取可能な祖母・傾山系の流紋岩類が主体である。その他は、礫石器や礫群・散礫には砂岩・凝灰岩・頁岩などが用いられ、当然のことながら石材は使用目的に応じて使い分けられているようである。

以下、肉眼観察による石材毎の分類（流紋岩とホルンフェルスは細分類も）を行い、各石材の分類基準について解説を加える。なお、以降の表記にはこの分類の略号を用いることがある。

表2 石材分類表

【流紋岩類】	
1類	略号「R1」。白色系（Hue5Y8/1）、灰白色（HueN8/1）、灰黄色系（Hue25YR8/1～8/2）の色調がある。幾筋もの縞模様（流離構造）がみられるのが普通であるが、無いものもある。この白色、灰白、灰黄色系は風化によるもので、通常、岩体内部は暗灰色をしている。表面は比較的緻密でツルツルするものから粗くザラツクるものまである。表面が粗いものは、時に砂岩様の様相をみせることがある。これらは本遺跡の主体を占める石材である。
2類	略号「R2」。灰色系（Hue 7.5Y5/1～6/1）で幾筋もの縞模様（流離構造）がある。また、この縞模様の無いものがある。表面は比較的緻密でツルツルするものから粗粒でザラザラ感じるものまで幅がみられる。また、時に白色雲状の斑文がみられる。これらは本遺跡の主体を占める石材である。
3類	略号「R3」。褐色系（Hue 10YR4/1～5/1、Hue 7.5YR5/1）の流紋岩類で、色調以外の特徴はR2石材と同様である。
4類	略号「R4」。黒色系（Hue N2/1、Hue7.5Y2/1、Hue 10YR2/1周辺）の流紋岩である。とくに漆黒で緻密なものについては、熱変成を受けた流紋岩（すなはちホルンフェルス）の可能性がある。
【ホルンフェルス類】	
1類	略号「H1」。暗青色（Hue10YR6/1）で、手触りがザラザラする。風化しているものが多い。
2類	略号「H2」。暗灰色（Hue10Y5/1）で、手触りがザラザラする。風化しているものが多い。
【チャート】	略号「Ch」。半艶の光沢をもち、乳白色系、赤色系、暗青系、暗灰色系の各色がある。
【砂 岩】	略号「Sa」。洞片石器として使用されることはあるが、礫群構成礫や磨石・敲石などに用いられる。灰白色や灰黄色系があり、ザラザラした手触りがする。
【凝灰岩】	略号「Tu」。磨石・敲石・台石などの製品や礫群の構成礫などに用いられることが多い。
【頁 岩】	略号「Sh」。黒色で硬く、手触りがツルツルとしているものから、風化してもろいものまで様々である。
【花崗斑岩】	略号「Gr」。灰白～肌色～ピンク色で原材は板状を呈する。礫群の構成礫に多く見られるため、被熱による変色の可能性がある。
【黒 眼 石】	略号「Ob」。繊石刃核、打製石器の素材に用いられている。桑ノ木沖留産である。
【石 英】	略号「Qz」。透明（水晶）および不透明（石英）の剥片がある。製品は出土していない。
【安 山 岩】	略号「An」。暗灰色で鏡が無くザラザラした肌を呈する。
【レ キ 岩】	略号「Co」。灰色を基色として、白色から暗灰色の小岩片を含んでいる。

## 第Ⅲ章 調査の記録

### 第1節 旧石器時代

#### 1 遺構

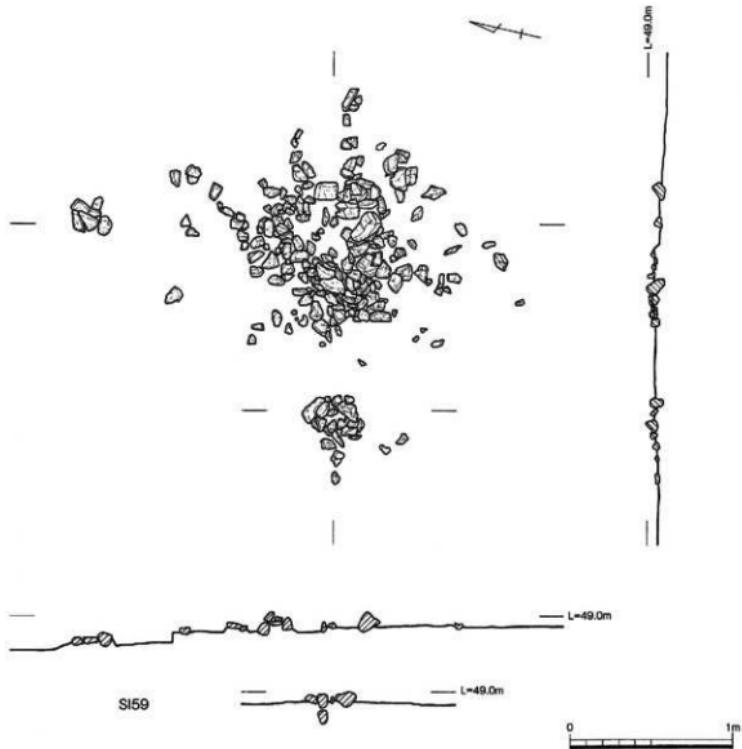
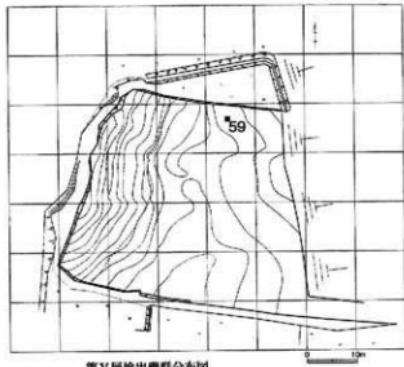
##### (1) 磨群 (SI59～SI71) [第8-11図]

火を受けて赤化した拳大内外の円磨、角磨が径1m内外に集積する旧石器時代の遺構である「磨群」を各層合わせて13基検出した。磨群は、旧石器時代の炉跡等と考えられている遺構である。各遺構の磨が分布する範囲の計測値、検出した層序、磨集積の特徴については表3に示した。また、磨群の全体分布図は第75図に示している。

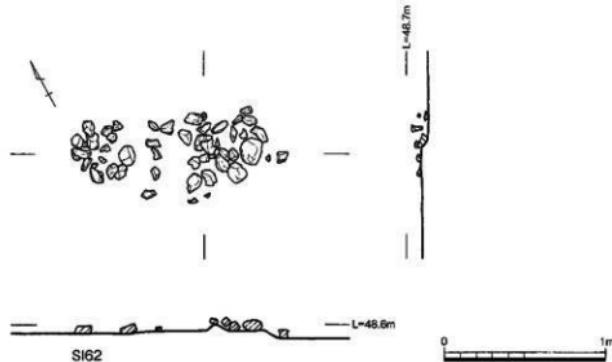
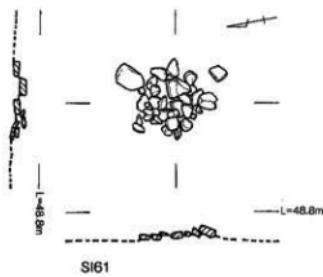
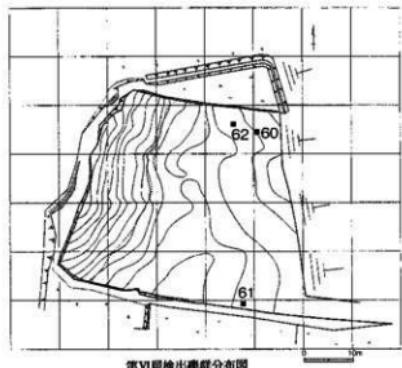
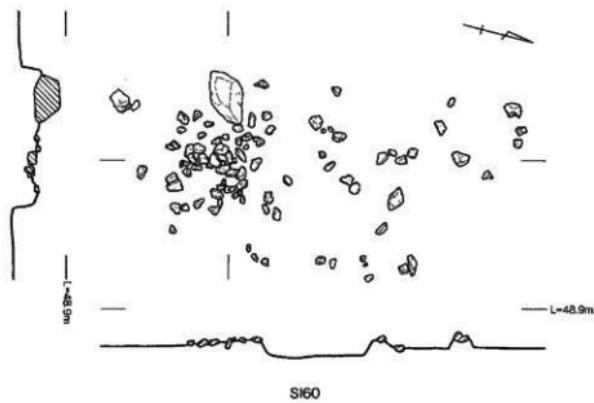
各磨群はV層(1基)、VI層(3基)、VII層(7基)、IX層(2基)の複数層から検出されている。V層の1基(SI59)は、縄文時代早期の遺構である「集石遺構」を検出したIV層に上下に極めて近接するため縄文早期の「集石遺構」である可能性も残しておきたい。VI層検出の二基(SI60・SI62)は互いに5mの距離を置いてD2区、E2区に位置し、SI61は二基から南に35mの位置にある。磨群のうち最も検出基数の多いVII層の7基は、うち4基がE5区に集中し、他の3基は西端から東北にかけて10mから25mの間隔をもって単独に営まれていた。とくに、SI67は緩斜面にかかるB5区に位置し西端に単独で離れている。IX層から検出された2基はC2区に営まれ互いに南北方向に9mの距離をおく。磨群の形態は、すべて掘り込みを持たず磨が平面に集積するものであり、縄文時代の集石遺構に比べて磨の集積状態が規格的な円形をとらずに不定形であり集石の状態も極めて「疎」である。磨の平面集積の状況は、円形よりも不整な円形、梢円形が多い。構成石材は、砂岩、レキ岩、頁岩、石英斑岩、流紋岩等から成り、各磨群間において磨の大小や石材の種類において大きな差異を認めない。遺構周辺から出土する遺物である旧石器との関係を積極的に示唆しうる資料に欠けるのであるが、遺物出土量の多いVI、VII層に比例して磨群基数も増えているという相関関係を指摘することができる。

表3 旧石器磨群計測表

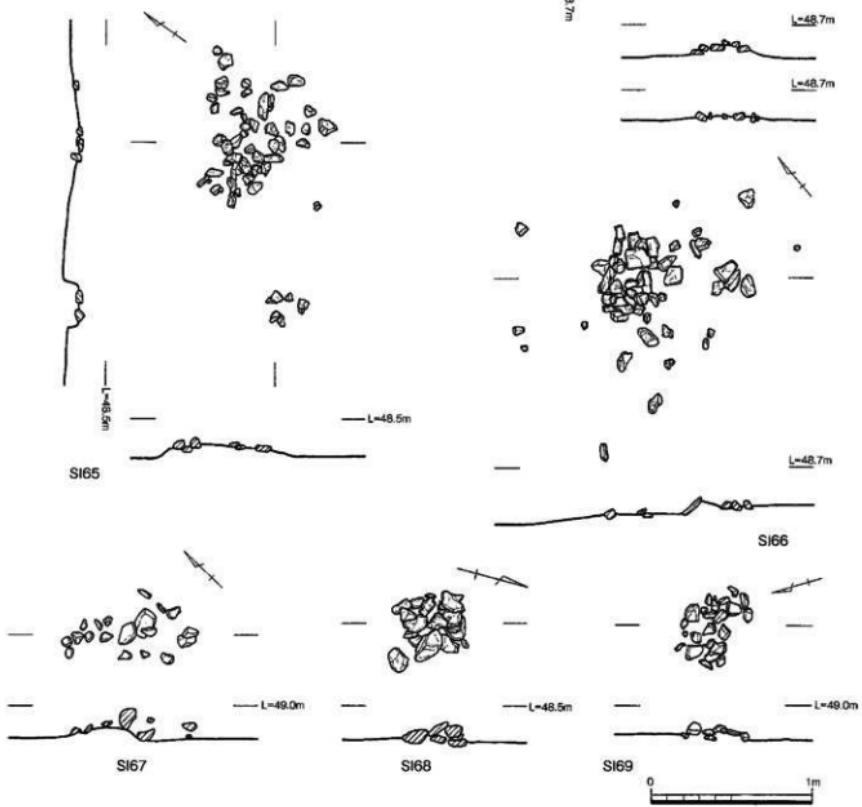
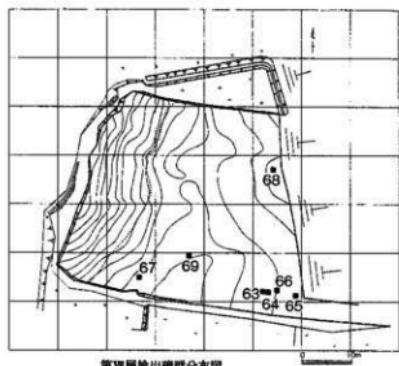
遺構 No. SI	時期	検出層	検出グ リッド	規模(磨の範囲) 最大長×最大幅 (m)	平面 集積 形状	掘り 込み の 有無	配石	集石 の密 度	構成 磨数 (個数)	特 徴
59	旧石器	V層上面	D2	2.50×2.50	円	×	×	密	160	比較的広範囲に集積し、西側 にもう一つ小規模な集石をと らねばならぬ
60	旧石器	VI層上面	E2	2.50×1.20	梢円	×	×	疎	85	大磨1点を伴う
61	旧石器	VI層下面	D6	0.55×0.50	円	×	×	密	35	
62	旧石器	VI層下面	D2	1.10×0.50	長梢円	×	×	疎	45	東西方向に細長い範囲に集積 する
63	旧石器	VII層上面	E5	0.50×0.55	円	×	×	疎	32	小規模に集積
64	旧石器	VII層上面	E5	0.40×0.30	不定形	×	×	疎	14	小規模に集積 SI64に隣接
65	旧石器	VII層上面	E5	0.95×0.85	不正円	×	×	疎	45	
66	旧石器	VII層上面	E5	1.50×1.00	不定形	×	×	疎	50	
67	旧石器	VII層上面	B5	0.80×0.40	長梢円	×	×	疎	22	
68	旧石器	VII層上面	E3	0.40×0.40	円	×	×	密	20	
69	旧石器	VII層下面	C4.5	0.40×0.40	不定形	×	×	疎	24	
70	旧石器	IX層	C2	0.35×0.50	長梢円	×	×	疎	11	
71	旧石器	IX層	C2	2.00×1.55	不定形	×	×	疎	62	北辺に付属した散磨を伴う



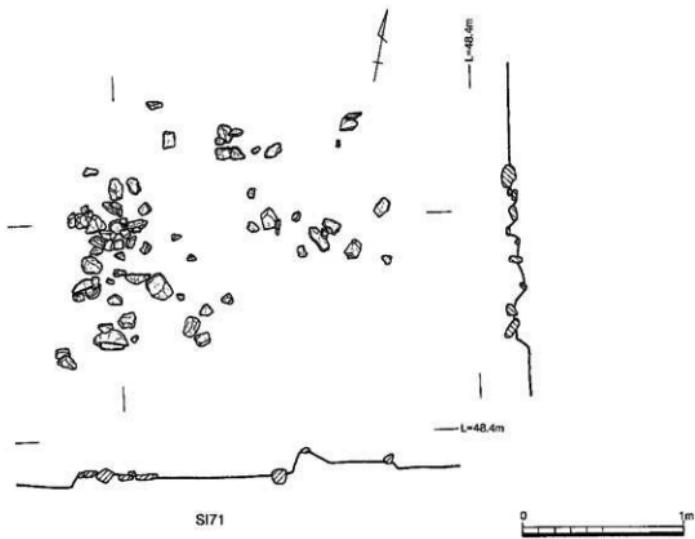
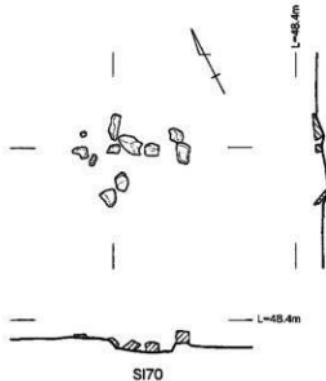
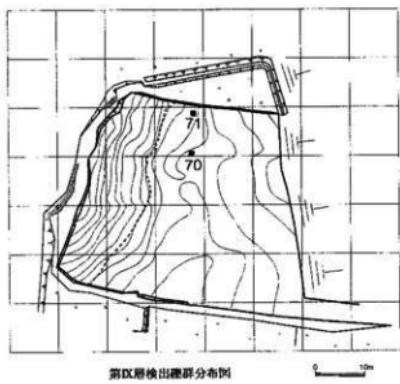
第8図 59号砾群実測図 (1/30)



第9図 60.61.62号発群実測図 (1/30)



第10図 63.64.65.66.67.68.69号株群実測図 (1/30)



第11図 70.71号砾群実測図 (1/30)

## 2 遺 物

旧石器遺物の取り上げ経過順に沿ってB面からF面に分けて出土遺物を報告する。(なお、A面は縄文早期の集石遺構検出面に相当)。旧石器時代に対応するBからF面は、それぞれB面がIV層からV層、C面がV層主体、D面がV層下部からVI層、E面がVI層からVII層、F面がVII層からVIII層に相当する。

### (1) 旧石器時代面Bの調査 (IV層からV層面) ···· 細石器文化相当

第13図掲載の細石刃、細石刃核、石核、尖頭器はIV層を主体としながら一部V層にかけて出土したものである。石材は、流紋岩のR1、R2類を主体とするが、細石刃核の1点(掲載番号3)に桑ノ木津留産の黒曜石を用いている。

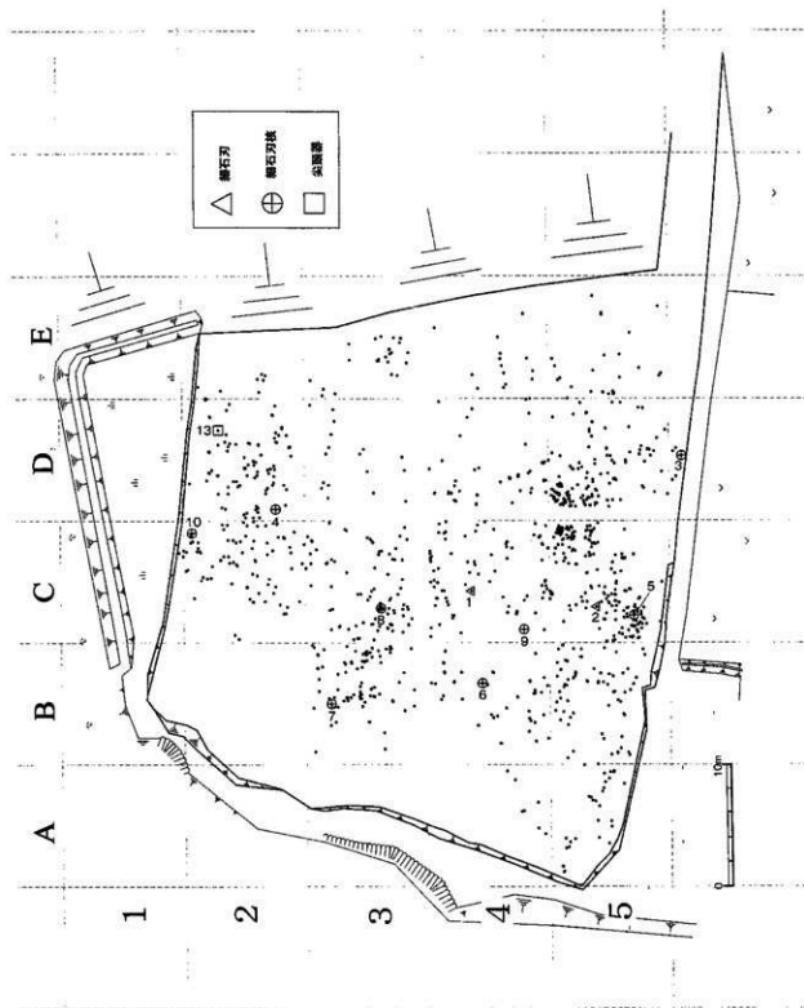
#### 細石刃(第13図12)

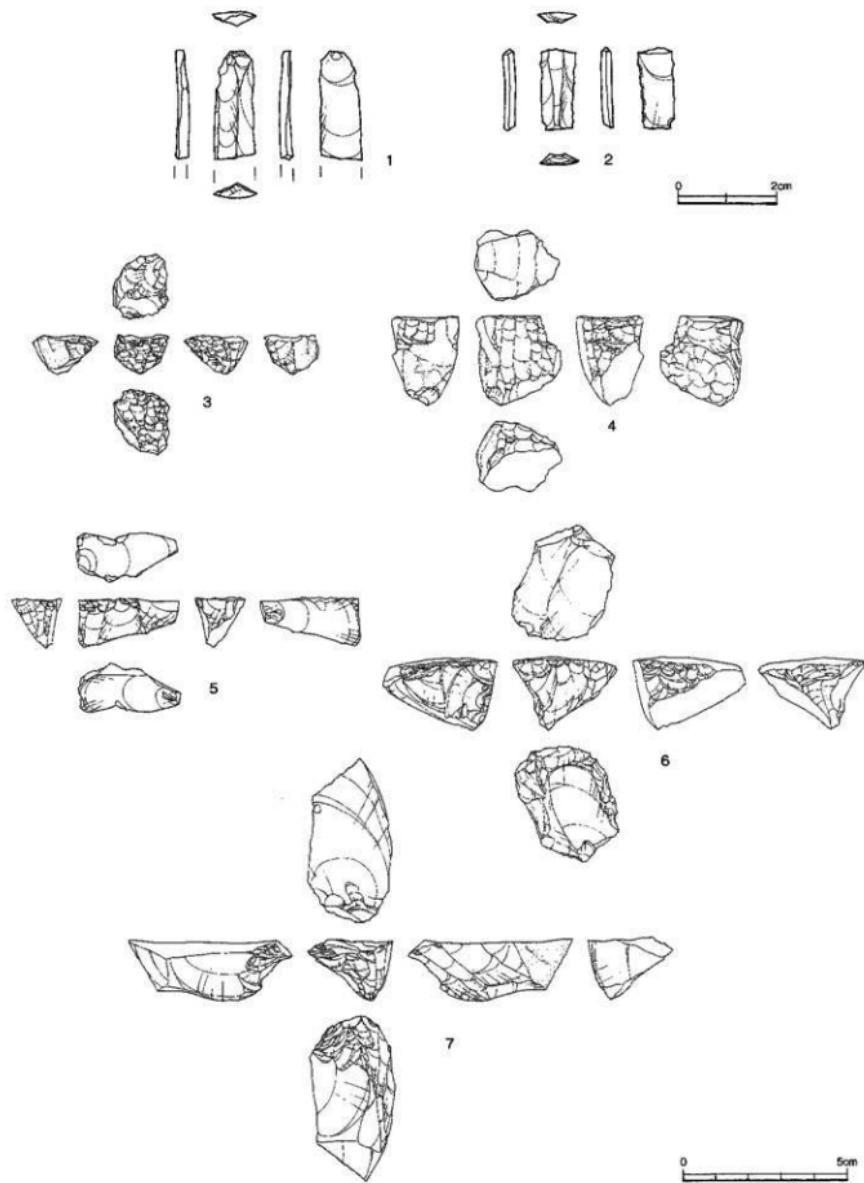
1、2は細石刃である。1は、復面の上端に打点をその儘のこすもので、下部は折損したか、あるいは意図的に折り取られた可能性がある。2は、上端の打点部分と下端の湾曲部が折り取られており上辺と下辺、両側刃がそれぞれ並行している。右側縁に背面からの微細な剥離痕がみられる。いずれも、白色系の流紋岩である。

#### 細石核(第13図3-7、第14図8-10、第20図406)

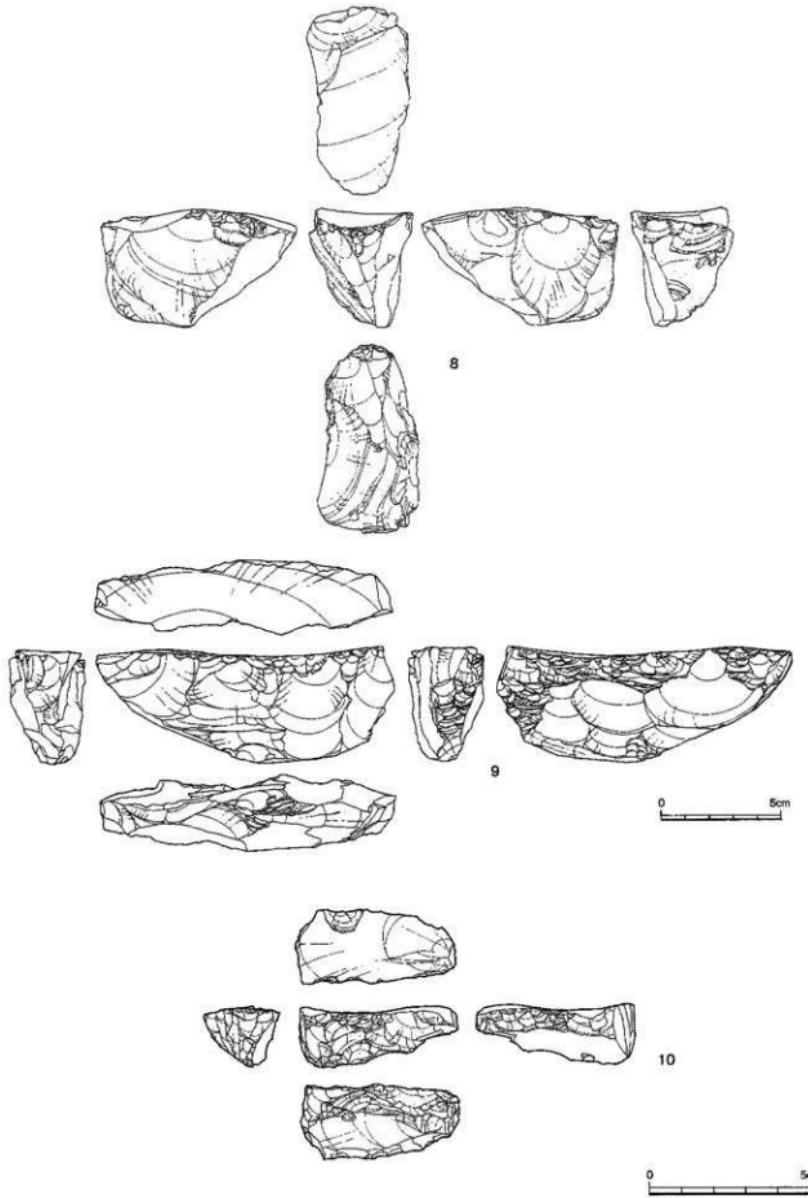
3は、黒曜石製(桑ノ木津留産)の細石核で半円錐状を呈する。打面は、2箇所から調整がなされ平坦面を形成している。側面は一部に自然疊面をのこし、その自然面を除く全周が細石刃剥離作業面となって細石刃が細かく連続的に剥ぎ取られた痕跡が残る。4は、一回の打面調整で打面を作っている細石核で、下方の一端を大きく欠損しているが、円錐状あるいは円柱状を呈していたものであろう。細石刃剥離作業のあとが前面の一部に残っている。全体に風化が進んでおり剥離面すべてのエッジが鈍い。5は、船野型細石刃核を側面上端から加撃して剥離した剥片であり、側面に主要剥離面が明瞭にのこる。原核の平坦打面と打面調整痕、小口の細石刃剥離作業痕がのこっている。6は、比較的丁寧に側面調整された素材の一端から剥離された細石刃剥離痕が明瞭に観察されるもので半円錐状となる。しかし、作出剥離された細石刃は意図に反して屈曲した形状となってしまったことが残核にのこる痕跡から観察できる。なお、打面は複数の剥離によって形成されている。7は、石核の打面を新設するために、下端部をねた際に生じた打面再生剥片であろう。端部に原石核の剥片剥離痕がのこっている。8は、細石刃核のプランクである。左側面に自然面をのこし、断面V字形を呈する。上面は複剥離打面となって、側面は打面上端から幅広の不整剥片を剥離した調整痕を多くのこしている。白く風化するタイプの良質な流紋岩製である。9は、断面V字形を成す横長舟底状の大型細石刃石核のプランクである。側面表裏に打面上端から調整剥片を剥ぎ取った痕跡をのこす。上面にある打面は1回の調整で平坦面を形成している。石材はやや粗粒となる流紋岩製である。10は、比較的に厚形の剥片を素材とした極めて小型の横長舟底形を呈する細石刃石核である。打面は1回の打撃で剥ぎ取られておりバルブがのこる。両側面には打面上端からの素材調整のための丁寧な剥離作業が施されている。細石刃剥離作業面は図の左端のみに設けられ、連続的に短く小さな細石刃を剥ぎ取った痕跡がのこる。石材は良質の白く風化するタイプの流紋岩製である。第20図406は、平坦な自然疊面に調整を加えずにそのまま細石刃剥離作業面とする細石核で、側面の一部と底面も自然疊面となっている。細石刃剥離作業は、全周の約1/2において、側面観は逆台形を呈する。石材は、本遺跡では唯一となる無斑晶安山岩である。

第12図 IV-V層検出状況図(8面) (1/400)

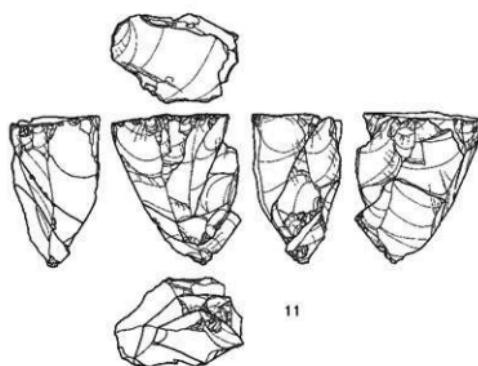




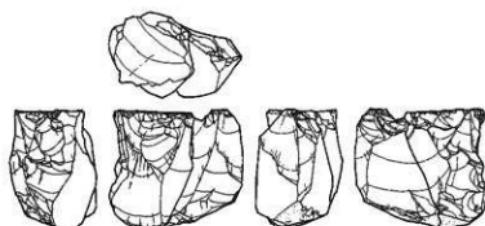
第13図 N-V層出土石器①



第14図 N-V層出土石器②

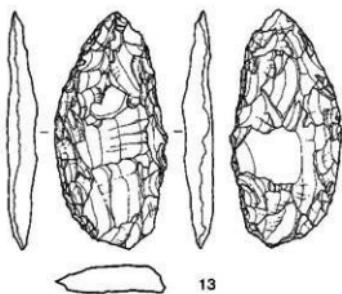


11



12

0 5cm



13

0 5cm

第15図 IV-V層出土石器③

### 石核（第15図11.12）

11、12は、単打面を有する綫長剥片石核である。全周に頭部調整がみられ、幾点かの綫長剥片が作出された痕がのこっている。12は全周にわたって剥離がみられる石核で、調整のため剥離された厚い剥片1点が接合したもので、いずれも石核の末端に自然面が残っている。いずれも白く風化するタイプの良質な流紋岩製である。

### 尖頭器（第15図13）

13は流離構造の著しい青白色系流紋岩の綫長剥片を素材にした長さ7.5cmの木葉形の両面加工尖頭器で、今時の遺跡で唯一の出土品である。弧状のきつい左側縁には細かな調整が多く加えられているのに対し、右側縁は直線的で調整も比較的粗く、大まかな調整となっている。先端部、下端部とともに尖端部を形成するが下端の尖端はやや鈍く作られている。石材は、流離構造のため良質とは言いがたい。

## （2）旧石器時代面Cの調査（V層面）・・・・ナイフ形石器文化1

第V層のうち、その主体となるV1-V4層から出土した石器群である。ナイフ形石器が主体となり、角錐状石器、搔器、削器その他で構成される。細石器、尖頭器は姿を消す。

### ナイフ形石器（第17-18図14-36）

第17、18図の14から36はナイフ形石器である。これらは、綫長剥片と横長剥片を利用したものに二分することができる。綫長剥片利用のものはさらに、一側縁加工のもの15、18、一側縁の一部のみに加工をえたもの14（先端の一部）、17（基部の一部）、二側縁加工のもの16、20、21、22、23、25、26、27、28、29、30がある。この中には、切出形20、25、狸谷型といわれる29がある。横長剥片利用のものもさらに一側縁加工の32、33、34、35と二側縁加工の31、36に二分できる。

14は復面に打点をのこす石刃様の剥片を素材とし、基部と基部付近の側縁には全く調整を加えず尖端の左側縁の一部のみにプランディングを加えるもので、右側縁のすべてを刃部に供する他にあまり類例のないナイフとなる。16は打点部分を除去したあと、先端と下端共に尖頭に整形する二側縁加工タイプのナイフで、刃部に比べてより両側縁に施されたプランディングの占める割合が多い。20、25は、右側縁の上部の一辺を刃部とし、他辺にすべて復面からプランディング加工する三角形状を呈する切り出し形のナイフである。26は尖頭器状を呈して左縁全面にわたる腹面からのプランディングと右下右縁に同じくプランディングがみられる木葉形のナイフである。28、30は、基部を中心に調整を加えるもので腹面に明瞭な打点をのこす典型例である。29は極小型の製品でいわゆる狸谷型になろう。31～36は横長剥片を利用したナイフで32は翼状剥片となる。32、33、34、35は左側縁片側のみの加工がなされる。なお、33～36は、三稜尖頭器、角錐状石器と分類する考え方もある。なお、34は53の石核と接合している。これらナイフの完形品全16点の平均長、幅、重量は各々4.3cm、1.74cm、5.9gであった。石材はすべて流紋岩類（R1、2、4）である。

### 角錐状石器（第18図37,38）

37、38は素材の縁部と尖頭部が厚形の連続細部剥離を用いて加工され尖った先端部が形成される角錐状石器である。37は、横長剥片を素材として腹面以外の二面に加工を加えるもの。38は綫長剥片の1面に急傾斜の剥離を加えたもので、腹面以外のもう一面は流離面となっているためか調整を加えていない。ともに、角錐状石器としては小型の範疇に入る。いずれも、白く風化するタイプの流紋岩である。

### 搔器（第18図39,42）

39、42は搔器である。39は、自然面をのこす分厚い剥片を使用する半円弧状に刃部をつくる搔器である。刃部は打面を含む端部に背面から急角度の剥離面を弧状に並列させながら打ち欠くことによってつくられている。42は幅広の剥片を折りとり、その裁断部に刃部を弧状につけてラウンドスクレーバー状に成形するものである。刃部は背面を階段状に剥離してつくられている。腹面に明瞭な打面、バルブをのこしている。いずれも、白く風化するタイプの流紋岩である。

### 削器（第18-19図40-44）

40、41、43、44は削器である。40は横長剥片を素材とするもので尖った下端の左側縁に背面から細かい剥離を連続させて刃部を形成している。41は幅広の分厚い剥片の一側縁に腹面からの調整によって連続する刃部を形成するものである。もう一方の側縁は、自然面となる。腹面に明瞭な打面、バルブをのこしている。43は、腹面に打面、バルブをのこす比較的大きな幅広の剥片を素材としている。下端部に浅く大まかな剥離が連続し、両サイドは比較的急な角度で調整される細かな剥離が連続して施されている。44は、打面とバルブをのこす。44は、幅広の不定形剥片を利用するもので、右側縁の全縁と左側縁の上部に剥離を加えて刃部をつくるものである。左側縁の下半分は自然面をのこしている。

### 剥片（第19-20図45-52）

45、46、47、48、49、50、51、52は剥片である。45、51を除く7点は腹面に平坦な打面とバルブをのこす縦長剥片で、52の大剥片は背面に自然面をのこす。46、47、48、49、50には、背面に先過程において縦長剥片を剥ぎ取った痕がのこる。49は、左右両側縁の下部に使用痕を観察できる。いずれも、白く風化するタイプの流紋岩である。

### 敲石・磨石（第73図330,331,333,336 第74図407）

330、333、336は敲石、331は敲石と磨石の機能を合わせもった石器である。

330は棒状の敲石で、両端部の頂部に潰痕と一端（頭部）には打撃を加えた際に生じたと思われる長軸方向の割れが観察される。333はこれも棒状の敲石であり両端部とその周辺に著しい潰痕、石器中央の表裏一部分に潰痕が観察される。336は平坦面を3面有する平球形状の敲石で頂部には打撃によるとみられる剥がれがある。石質は軟質であり細かな粒がボロボロ落ちる。331は、平球状の原石を半割れしたものの断面と表裏面に磨面がみられる。また、側面全面に潰痕がみられる。第74図407は、花崗岩製の扁平棒円形磨石で、熱を受けて半壊したものと思われる。

### 接合資料（第21-23図）

#### 接合資料54

剥片7点、石核1点からなる大人の拳大の接合資料である。出土地点は4C区で、それぞれ7m以内に出土した。出土層位はIV、V、VI層の3層に涉っている。現状は疊の表皮をはぎ取った状態であり、母岩はさらに大きな素材であったと推定する。立方体状に一定の形に整えた石核調整のあと、平坦に打面を調整し、上面と側面の二方面からの打撃で剥片を作出している。側面からの打撃は幅広の不定形調整剥片となり、上面から打撃された剥片の1点のみが、長さのある木葉形の剥片（長90mm）となっている。残核には多数の剥片剥離の痕跡がのこっている。石材は表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

#### 接合資料 55

剥片 6 点からなる接合資料である。出土地点は 5D 区を中心に 4C, 5C に及んで出土中心から最高で約 10 m 離れて出土している。出土層位は、V、VI 層下位、VII 層下位であり複数層に及んでいる。径 10cm ~ 15cm (推定) の円礫を母材として、石核調整の過程で作出された (表皮が剥ぎ取られた) 不定形の調整剥片で、順序よく連続して剥ぎ取られた状況が把握できる接合資料である。表面に自然面がのこっている。石材は良質の灰色を呈する流紋岩でやや珪質である。

#### 接合資料 56

剥片 4 点、石核 1 点からなる接合資料である。出土地点は 5C 区を中心に、1 点のみ約 15 m 離れて 3B 区で出土している。出土層位は、V、VI 層、VII 層の複数層に及んでいる。上面に打面作成作業によつて作られた平坦打面を有する石核である。平坦面の一方向から次々に打撃を加えて剥片を作出しようとした様子を窺うことができるが、石材の節理方向によって横方向の割れが生じている。残核には打撃によって長 20mm ほどの二点の小さな剥片が作出された痕がのこっている。石材は表面が白く風化するタイプの流紋岩である。

#### 接合資料 57

剥片 2 点、石核 1 点からなる接合資料である。出土地点は 4C 区と 5B 区で出土し、最大 10 m 離れている。出土層位は、V 層の上位から下位に及んでいる。子供の拳大の円礫 (球形に近い) を母材としてほとんど調整を加えず、母材の平坦面をそのまま打面として打撃を加え数点の剥片を作出している。石材自体の流離面が複雑であるためか予期したほど良形の剥片が作出されたようすはみられない。石材は流離面の複雑な流紋岩である。

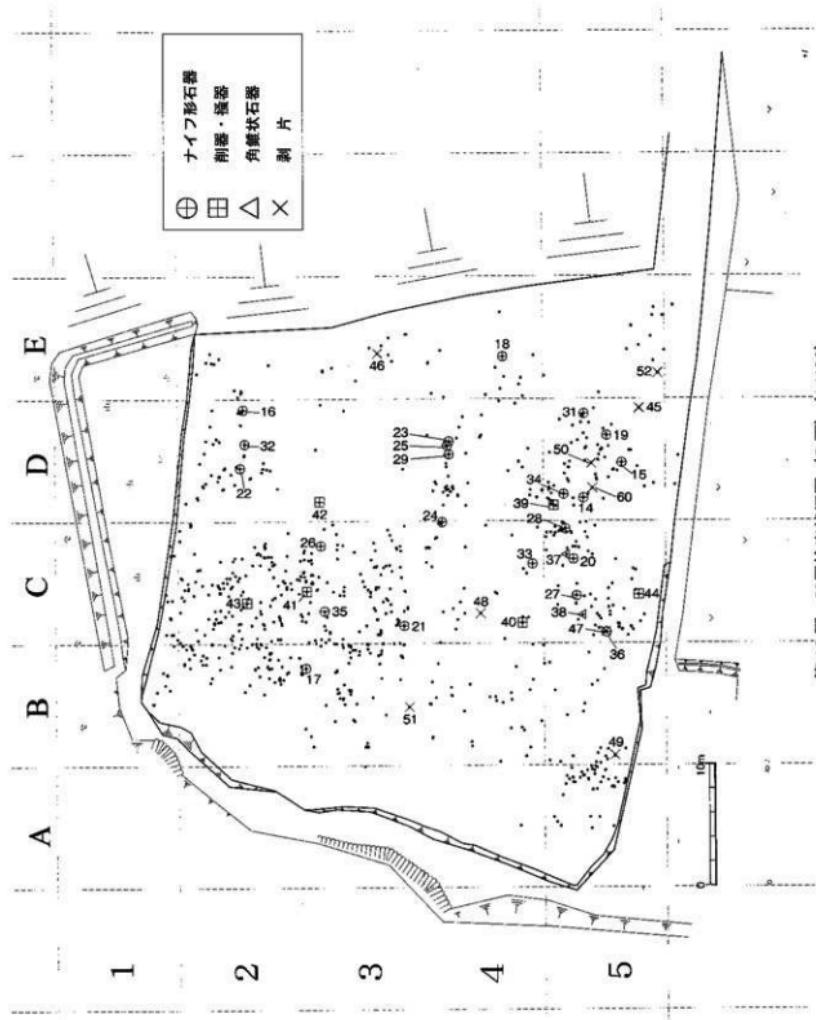
#### 接合資料 58

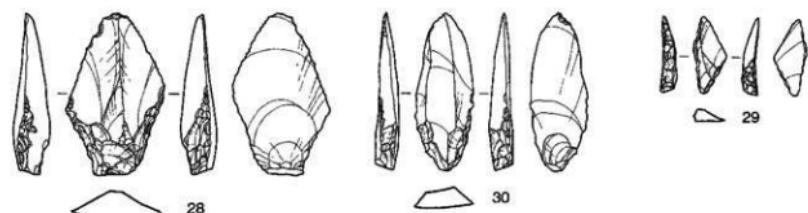
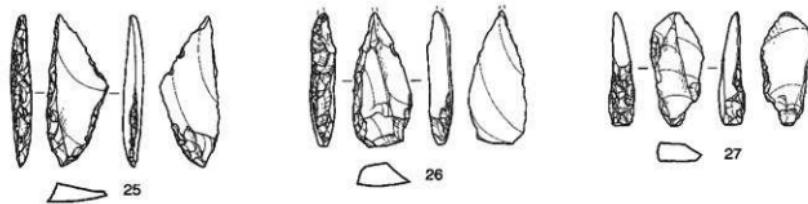
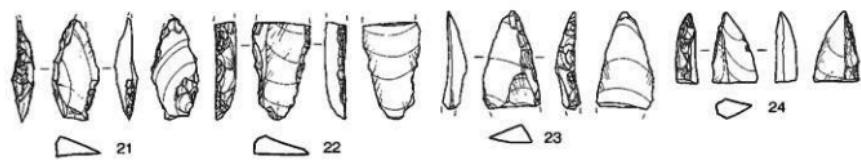
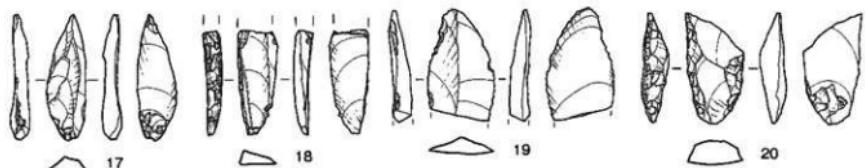
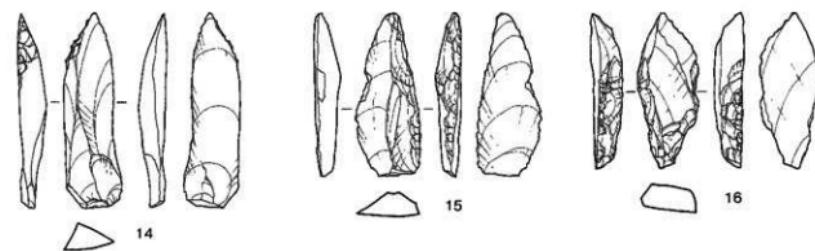
剥片 13 点からなる接合資料である。出土地点は 5C 区と 5B 区の境にあり、ほとんどが 2 m 以内に検出された。もっとも遠いもので約 6 m 離れて出土している。出土層位は、IV、V、VI 層下位に及んでいる。母岩の原型は円礫、角礫いづれであるか不明であるが、礫の表皮を剥いで箱形に近く調整されている。あらゆる平坦面から連続して剥片の作出を試みているが、縦長の薄い剥片は皆無である。流離構造の複雑なチャート製の石材のせいか不定形で短く厚い剥片しか獲得できなかつた状況が看取できる。

#### 接合資料 59

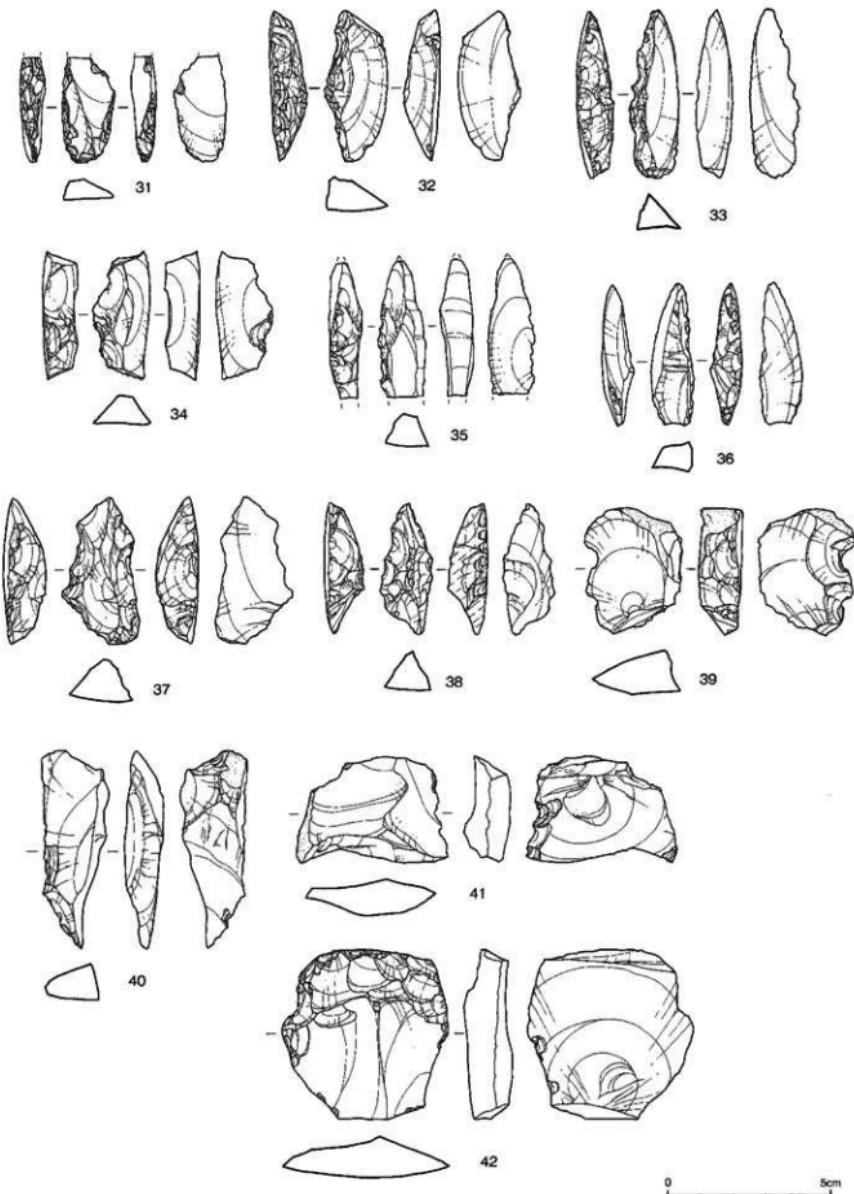
剥片 8 点からなる接合資料で、大人の手のひら大の大きさである。出土地点は 5C 区と 5D 区であり、5 m 以内に分布する。出土層位は、V 層下位から VI 層上位である。打面調整のために多方向から連続的に剥ぎ取られた不定形の調整剥片が接合した資料と思われる。石材は表面が白く風化するタイプの流紋岩であるが平均的なものより硬度が低く良質とは言えないものである。

第16図 V層検出状況図（C面）(1/400)

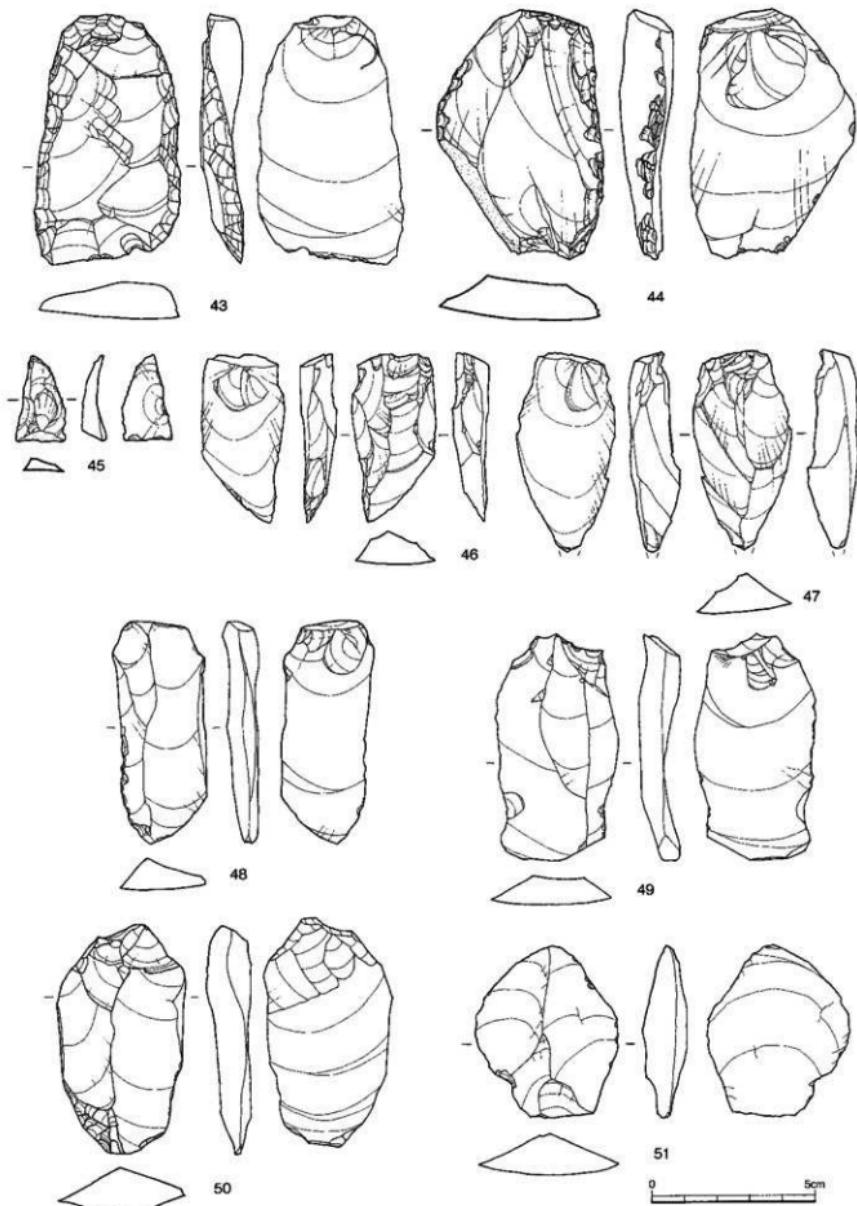




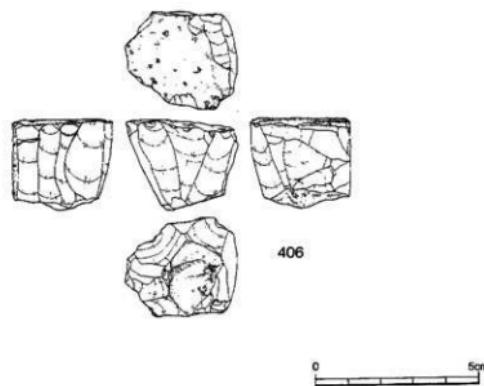
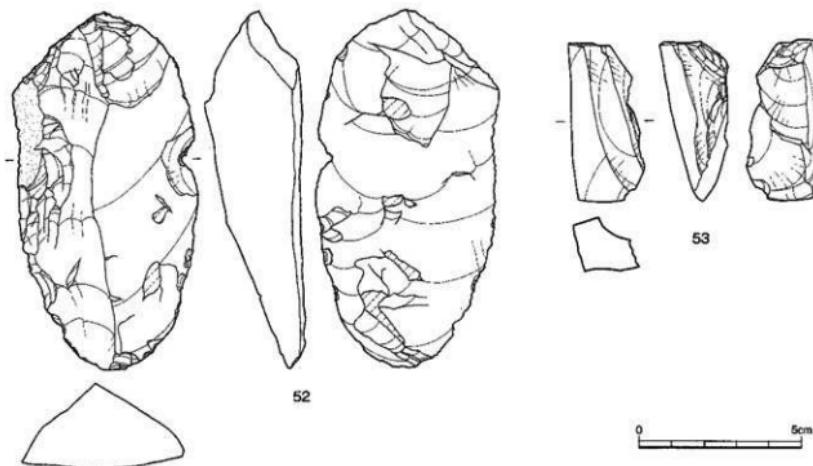
第17図 V層出土石器①



第18図 V層出土石器②

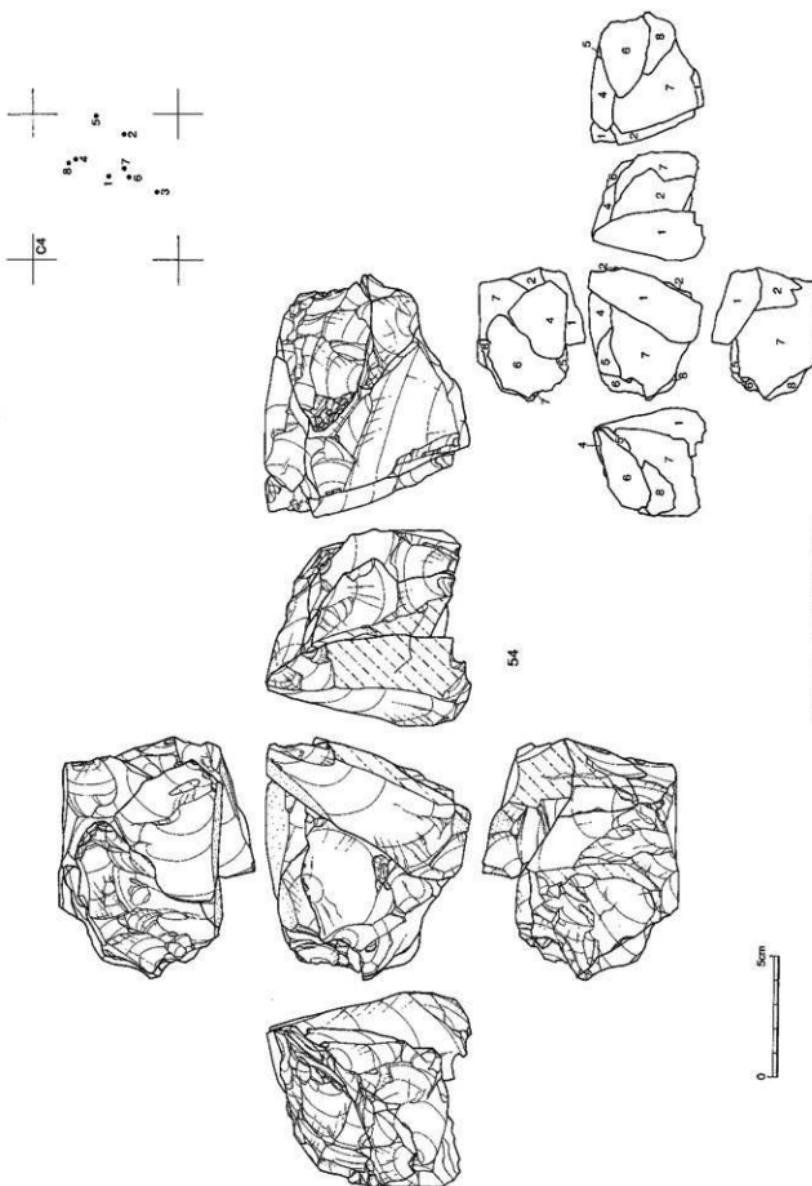


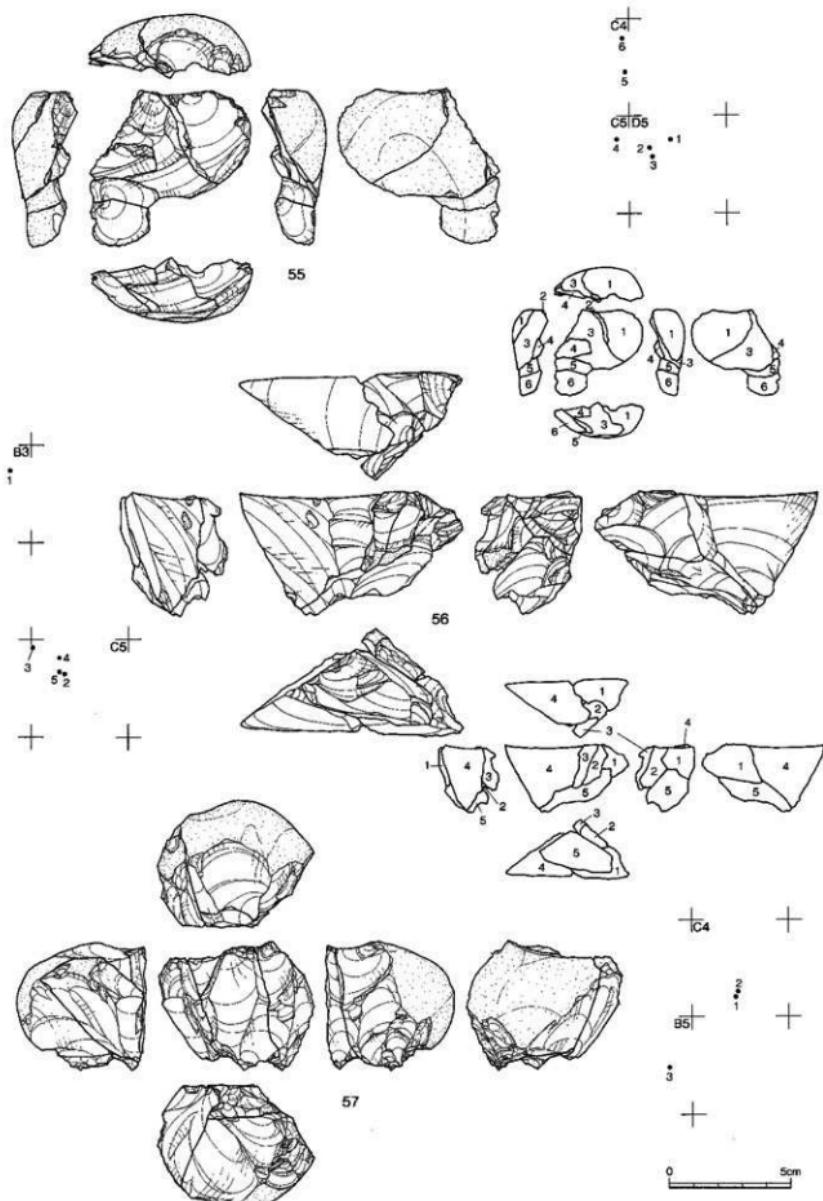
第19図 V層出土石器③



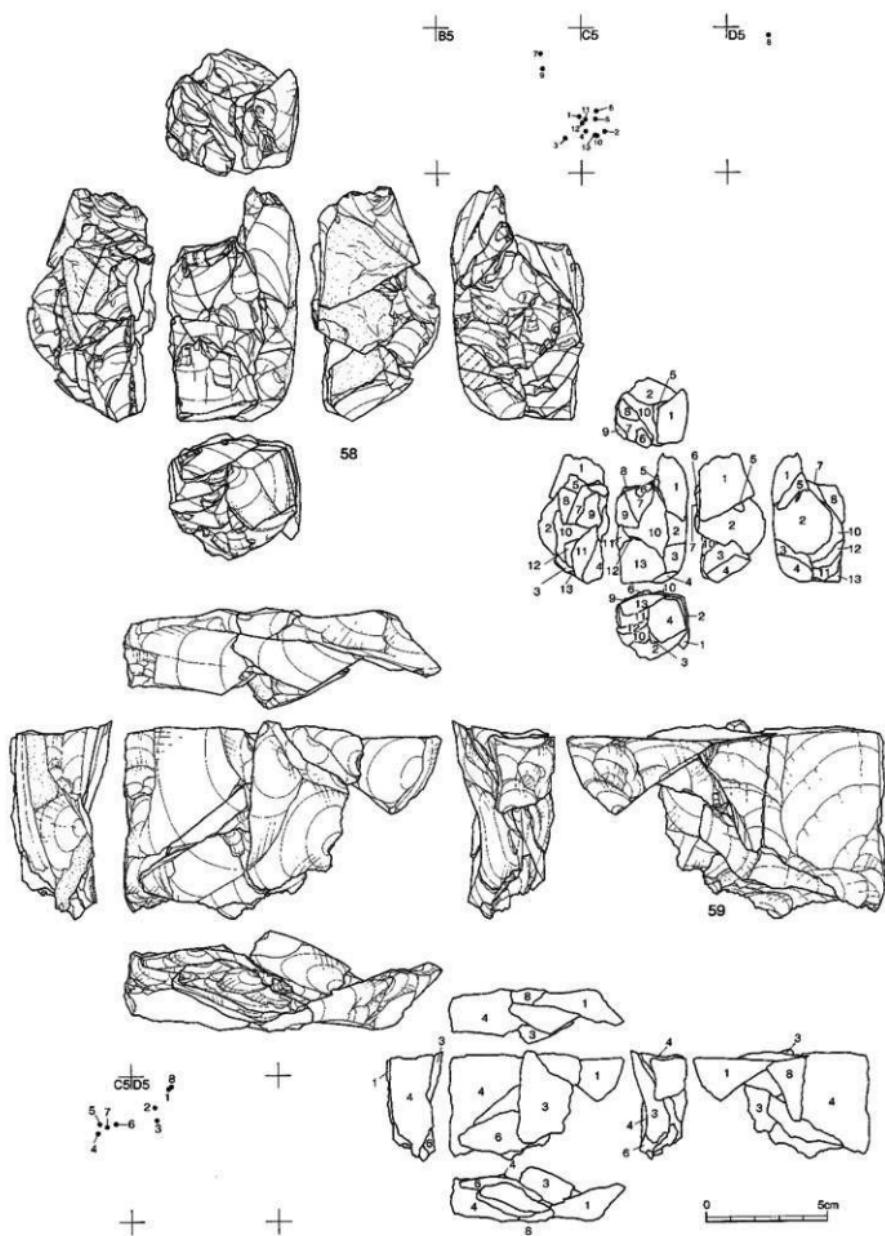
第20図 V層出土石器④

第21図 V層出土石器⑤





第22図 V層出土石器⑥



第23図 V層出土石器⑦

### (3) 旧石器時代面Dの調査 (V層—VI層面) . . . ナイフ形石器文化2

V層下面 (V4、5) からVI層を主体に出土した石器である。ナイフ形石器を主体とした石器群であり、角錐状石器、敲石に加えて、新たに剥片尖頭器が登場する。この層位から出土する石器、剥片類の石材には引き続き、流紋岩類 (R1、R2、R3、R4) が主体として用いられるが、一部にチャート (剥片尖頭器 127)、頁岩 (敲石 151)、ホルンフェルス (ナイフ形石器 84、97) の使用も少數ながら認められる。

#### ナイフ形石器 (第 25-28 図 60-109)

第 25-28 図の 60 から 109 はナイフ形石器である。縦長剥片と横長剥片利用のものに二分し、さらに側縁の加工によって細分する。

縦長剥片を利用する一側縁加工のタイプには、65、69、72、83、87、103 がある。二側縁加工のタイプには 60、61、63、67、68、75、76、98、99、100、101、102、104、105、106、107、108 がある。そのうち 42、46 は切り出し形、45 は匣谷型である。また、基部の加工が顕著なものに 62、64、70、73、77、78、79、80、81、82、85、86、89 がある。横長剥片を利用するものは、ほぼ一側縁加工に限定される。71、74、90、91、92、93、94、95、96、97 がある。

さて、特徴としては 60 や 67、74 などのように基部を尖らせて、すなわち打面や打点部分をカットして整形するタイプがみられるが、これはむしろ少數派であり、基部にそのまま剥片剥離の際の打面や打点パルプなどの剥離面をのこすことのほうが圧倒的に多い。しかし、腹面にはそれらの調整面をのこすとはいえ背面基部は粗いけれども細かに調整することが多いのであって、これは、ナイフの利用法、切断かあるいは刺突かあるいはその両方か・など最終的には装着法に帰結する加工の程度の問題であろう。また、これらのなかでも比較的大きなものについては長さに対して幅の値が大きいものが目立っており刺突よりもより切断機能の要求が強かったとも想定される。78 はこれらのなかでも比較的大型のナイフであり基部に打面をのこす木葉形の基部と基部に近い両側縁を細かく加工する流紋岩製のナイフ形石器である。同タイプとして 81、80、82、85、86、89 がある。79 は斜軸剥片を利用した例で今峰形ナイフに類似している。これに対する小型のタイプとして切り出し形あるいはそれに近い形状をもつ 68、69、72、75、76、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107 がある。これら小型タイプについても自ずから違った用途を付与されたものであろう。横長剥片を利用するものはこの層位でももっぱら一側縁加工の典型的は形状をもっている。90、93 は典型的は翼状剥片を素材に作出されたナイフであり、腹面から細かなプランディングを施している。

この層位から出土したナイフ形石器の完形 42 点の平均長、幅、重量は、それぞれ 4.57cm、1.98cm、7.55g である。

#### 角錐状石器 (第 28-30 図 110-126)

第 28-30 図の 110 から 126 は、素材の縁部と尖頭部が連続細部剥離を用いて加工され尖った先端部を形成する角錐状石器である。総体を観察すると大型と小型の一群に大別できる。大型のものは刺突具としての機能を充分看取することができるが、小型のそれは幅に対して全長が短く、つまり寸法よりもむしろスクレーパー的機能を想起させるものである。整形の手法から分類すれば、一面のみに調整をくわえるもの (116、120、124、125)、腹面をのこし二面に調整を加えるもの (110、112、113、114、115、117、118、121、122、123、126)、三面すべてに調整を加えるもの (111、119) に分類できる。ま

た、素材を剥片剥離から見ると、縦長剥片を用いるもの 10 点に対して横長剥片を使用するもの 7 点 (120, 114, 115, 117, 118, 121, 123) である。また、機能や使用法かの理由からか完形品が少なく半折などの欠損品が多い。119 は、腹面にも調整剥離を行うとともにバルブ、打面をのこしている。120 の石材はめったに使われない軟質の凝灰岩が使用されている。126 は、基部に打面と腹面にバルブをのこしている。

#### 剥片尖頭器 (第 30-32 図 127-138)

第 30-32 図の 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138 の 12 点は比較的大型の縦形剥片を使用し、基部をつまみ状に整形する剥片尖頭器である。127 は左側縁の調整は腹面から、右側縁の調整を背面から、すなわち二側縁とも調整して尖頭部を成形するもので、基部は腹面の両側縁から調整して太めにくびれをつくる。打面とバルブは除去せずその儘のこす。本資料は本層位唯一のチャート製品である。128 は、左側縁上部に背面からの調整がみられる。基部は背面からのみの調整で 127 とほぼ同じような形状をもつ。腹面に打面とバルブをのこしている。129 は半折損したもので、基部は腹面からの調整で側縁と背面から細身に成形する。腹面に打面とバルブをその儘のこす。130 は、腹面のバルブを除去し (打面はのこしている)、基部を細身に加工するもの。右側縁を腹面からの急角度調整で全面加工し、左側縁は基部に近い下部側縁をこれも腹面から調整している。131 は、先端部が左傾する柳葉状の典型的な剥片尖頭器であり、打面、バルブを除去しないで基部を細めにつまみ状に成形している。132 は、腹面からの微調整がみられる甘い先端部をつくる剥片尖頭器で、バルブ付近は除去されて平坦となる。133 は、腹面の打面を除去、バルブ部分を剥離調整したあと背面、腹面の両側から調整して基部を細身につくるもので、先尖部は欠損している。134 は先端部が折損した後、調整を加えたあとがのこる。135 は、両側縁に調整を加えず剥離された状態とし、基部のみを腹面側から調整を加えてつまみ状につくるもので、最先端を欠損する。136 は、大型の縦長剥片を素材にしてつくられたもので右側縁には基部に向けて直線的に腹面からの急角度の調整が丁寧にほどこされている。基部は、腹面と背面からの調整で全長に比べて短かめにつくられている。137 は、石鎚様に二等辺三角形に成形するもので、両側縁は腹面から成形されている。138 は、先端を幅広に円弧状に成形し、腹面から急角度の調整を加えるもので、その先端形状はエンドスクレーパーに似る。剥片尖頭器の折損品を利用した再生品の可能性がある。基部は腹面と背面からの調整によって柄状に成形している。

#### 搔器 (第 32 図 139-143)

139、140、141、142、143 は、搔器である。139 は、自然面を多くのこす断面三角形状の分厚い剥片を利用している。打面に対応する一方の端部に、腹面から剥離を加えて弧状に刃部をつくる。140 は、平坦な自然面と打面調整痕をもつ石核の一部に腹面から急角度の剥離を加えて L 字状に刃部を形成するものである。141 も背面に大きな自然面を持った素材を利用するもので、腹面から粗く大きな剥離で円形に刃部を成形している。腹面は平坦でバルブは見られない。上端 (打面とバルブ周辺) は割りとられたものと推測する。143 は、不定形の分厚い剥片を利用し、周縁すべてを腹面からの粗い剥離が連続する資料である。背面は全面粗い剥離面で覆われている。刃部がすべて波を打つように曲がっており、所期の機能を疑問視したい形状である。142 は、下端近く腹面からの急角度の連続剥離が弧状に観察できるエンド・スクレーパーである。背面には打面方向から縦長剥片を数本剥ぎ取った痕跡がのこっている。

### 削器 (第33図144-150)

144、145、146、147、148、149、150の7点は削器である。

144は、石核から剥ぎ取られた比較的厚みのある細長い縦長剥片の左側縁に背面からの細かい剥離で刃部をつくるもの。145は、自然面を多くのこす厚手の剥片の右側縁の下部に腹面から連続する剥離を加えて尖らせている。打面、バルブがそのまま残っている。147は、打面・バルブ部分を折りとった剥片の右側縁に剥離を加えて刃部とし、さらに下端にも急角度の剥離を連続させてエンド・スクレーパー状に刃部をつくっている。149は、薄い剥片の左側縁に背面から剥離を加えて刃部をつくるものである。打面、バルブはそのままのこしている。150は、剥片の上端を割断し、下端の一辺に自然面をのこす不定形剥片を使用したもので、左側縁の全辺に腹面からの連続した細かな剥離がみられる。右側縁には使用痕が認められる。

### 敲石 (第33図151)

151は、敲石である。上端を欠損する柱状の敲石で、尖った下端に潰痕がある。表裏ともに砥石様に平坦面をつくるが、おそらく人工的なものではなく石材（ノジュールか）の性質から形成された自然面であろう。

### 石皿 (第73図337)

337は、砂岩製の石皿である。上面の中心部分が穏やかに窪んでいる。火を受けたと思われ、表面に深いヒビ割れが縦横に走っている。

### 二次加工剥片 (第34-35図152-159)

152、153、154、155、156、157、158、159は二次加工のみられる剥片である。横長剥片を使用する不定形の152の他、ほとんどは不定形（153）と縦長の剥片である。

160、161、162、163、165、177は、側縁に微細な使用痕のみられる剥片である。168、169、170、171、172、173、174、177は、背面に剥離痕をもつ縦長剥片で、剥片石器の素材となりえる剥片となる。177は、とくに長大な石刃状となるもので、右側縁中央付近に使用痕がみられる。175は、石核の調整剥片となろう。背面の棱となる部分に連続する調整剥離痕がのこる。

### 石核 (第37-39図176-182)

176、178、179、180、181、182は石核である。

176は、底面が自然疊面となる石核で、平坦面から全周にわたって剥離を加え短く不定形の剥片を剥ぎ取っている。178は、主要な平坦面を打面として全周にわたって剥片を作出する石核である。作出された剥片は不定形状となっている。179は、打点を何度も転位させながら多方向から不定形剥片を剥ぎ取っている石核である。180は、自然疊面と流離面をもつ石核である。打削で出現した平坦面から打撃を加えて剥片を剥ぎ取ろうとしているが、おそらく流離のために剥離の末端がヒンジフラクチャーとなり作業を中止している。

182は、比較的厚みのある平円疊を素材として、表裏両面の側縁から相互に打撃を加えて剥片を作出

しているもので、残核は円盤状の礫器様を呈する。

#### 接合資料（第40-49図）

##### 接合資料183

剥片、石核、計19点からなる乳児の頭部大の接合資料でVI層下位から出土した。出土地点は4B・5B・5C区であるが、主体は5B区で、ほとんど2.5m以内からの分布である。もっとも離れた資料で5C区の約8mである。母岩は円礫で石材は良質（緻密）で黒色系の流紋岩である。礫の中心部、すなわち周縁の表皮を除去する過程を経て調整された石核からは数点の縦長様の剥片が連続的に剥ぎとられており、これらが接合している。が、これらの剥片を観察しても最終目的としての製品となった剥片を認めることができない。また、礫の表皮を剥ぐ過程で調整された平坦面を、即打面として打撃を加え連続した縦長剥片の獲得を意図していると看取される部位がみとめられる。なお、石材は熱変成を受けた流紋岩、すなわちホルンフェルスの可能性もある。

##### 接合資料184

剥片9点からなる人頭大の角礫を母材とする接合資料でV層からVI層下位で出土した。出土地点は5D・5C区で、ほとんどが8m以内の出土である。角礫の表皮剥ぎ過程の調整剥片が接合したもの。調整剥片は一様に分厚く短い剥片となっている。素材となる石材自体に複雑な節理があり意図した剥離ができていないとおもわれる。石材は流離構造が複雑に入り組んだ褐灰色系の流紋岩である。

##### 接合資料185

調整剥片5点、縦長剥片3点、計8点からなる接合資料でVII層下位を主体的にV層にかけて出土した。出土地点は5Aと5B区の境で、ほとんどが5m以内に散布している。母材を復元推定すると幼児の頭大の円礫となる。円礫を2乃至3つに打削した後、調整した平坦面を主な作業面として幾つかの不定形剥片を作出した痕跡が残っている。また、礫の中心部に右刃様に連続的に剥ぎとられた縦長剥片3点が接合している。うち、二点はナイフ等のツールに加工可能な剥片であるが、使用された形跡がない。礫の中心部を利用して効率的に剥片を作出しようという意図とは別に、表皮を剥ぐ段階で形成された平坦面をもその都度、隨時利用しながら作業した様子が窺える資料である。石材は白く風化するタイプの良質の流紋岩を用いている。なお、各剥片の出土分布は資料186と重複し、同時期であることを示す。

##### 接合資料186

調整剥片20点、不定形剥片3点、縦長剥片4点、二次加工剥片1点、計28点からなる接合資料でVI層下位から出土した。出土地点は5Aと5B区の境で、ほとんどが5m以内に散布する。母材を復元すると人頭大の円礫となろう。剥離方法は円礫を大きく2つに打削し、さらに長軸方向に打撃を加え調整した厚い剥片の平坦面を主な作業面として縦長の剥片を連続的に作出している。特に、調整により主要な石核となった中心部からは、より長い縦長の剥片を取ることに成功している。それらのうち16には二次加工が見てとれる。以上のように復元作業において欠落している剥片の数を考慮すればツールとして加工可能な縦長の剥片が数多く作りだされており、本遺跡の中では比較的効率のよい剥片剥離作業が

行われた好例である。石材は、表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩であり、この石材あっての作出効率ということができようか。

#### 接合資料 187

調整剥片 14 点、不定形剥片 7 点、計 21 点からなる接合資料で V 層から VI 層下位にかけて出土した。出土地点は 5C 区で、3 m 以内に集中する。母岩形状の 2 / 3 が復元できるもので人頭大の円礫である。礫の表皮を打ち剥ぐ段階で数点の薄い剥片が得られており、その中から選択して調整を施して石核とし、数枚の不定形剥片を作出している。礫の中心部が欠落して空隙となっているが、あまりに小容積でありこの部位から良質の剥片が得られたとは考え難い。剥片が幅広の不定形であるのは、石材の不定な節理面が影響していると思われる。石材は、白く風化するタイプの石質やや不良の流紋岩である。

#### 接合資料 188

剥片 11 点からなる接合資料で V 層から VI 層下位から出土している。出土地点は 5C 区内に約 5 m 以内に集中し、約 25 m 離れて 3B 区に 1 点分布する。母岩を推定復元すれば幼児の頭部大の円礫となろう。大きく打削して出現した平坦打面の表皮側から、横方法に連続的に剥ぎ取ることによって不定形剥片を作出したことが見てとれる接合資料である。礫本来の自然面をのこす剥片は、調整剥片となろう。石材は表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

#### 接合資料 189

石核 1 点、剥片 3 点（1 点は折れ）、計 5 点からなる接合資料で VI 層下位からの出土である。出土地点は 5B 区で、4 m 以内に集中する。元の母材を復元すれば幼児の頭部大となろう。現状は、側面に自然面を残し、上面に打面となる平坦面をもつもので、少なくとも 5 点の剥片の作出を行っている。石材は表面が白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

#### 接合資料 190

剥片 5 点からなる大人の拳大の接合資料で、VI 層下位から VII 層にかけて出土した。出土地点は 3C 区の北西隅で 1.5 m 以内に集中する。石材は、いわゆる流紋岩のノジュール構造物を利用している。ノジュールは中心部に空隙があり節理も不安定であって剥片の作出には不適切な石材と考えられる。資料では打撃を加えて 2 分割し、さらに一方を分割して、その平坦部からの打撃で剥片を取ろうと意図しているが、思うような剥片をとることができなかつたと窺える。

#### 接合資料 191

石核 1 点、剥片 4 点、計 5 点からなる接合資料で VI 層下位の出土である。出土地点は 5B、4B 区で、南北に約 10 m 離れて分布する。母材を復元推定すると大人の拳大の円礫となる。資料は、ほぼ 1 / 2 の平坦面をもつ石核（他は自然面）と分割された分厚い剥片を石核として不定形剥片を剥ぎ取った痕がのこる残核からなる。大きな打面をもつ石核には打面調整痕、および二箇所の連続した剥片剥離の痕が観察される。石材は緻密で良質の灰色系の流紋岩である。

#### 接合資料 192

剥片 7 点からなる接合資料で V 層下位から VI 層下位の出土である。出土地点は 5E 区で約 5 m の範囲で集中するが、最も離れた資料は約 10 m 離れて分布する。扁平な大人の手の平大の円碟を、横方向に連続して次々に打削して 5 点に分割している。剥片は厚さのある扁平な板状を呈することになる。通常の側縁が鋭利な刃物状の剥片を得る意図とは明らかに違っている。さらにその一部はさらに縦に幾つかに打削されて、横長剥片を採取する石核となっているようである。石材は、灰色系の流紋岩である。

#### 接合資料 193

石核 1 点、剥片 3 点、計 4 点からなる大人の拳より一回り小さな円碟を母材としている。出土層位は VI 層下位から VII 層である。出土地点は 5B 区で約 4 m の範囲に集中する。上面と下面を打撃して平坦面を作ろうと意図しているが、不規則な節理面が通っているためか、とくに上面は細かな段ができてしまっている。それでも条件のよくないこの上面を打面として数点の剥片を剥ぎ取った痕が残核にのこっている。石材は白く風化するタイプで細かな縞模様の顯著な流紋岩である。

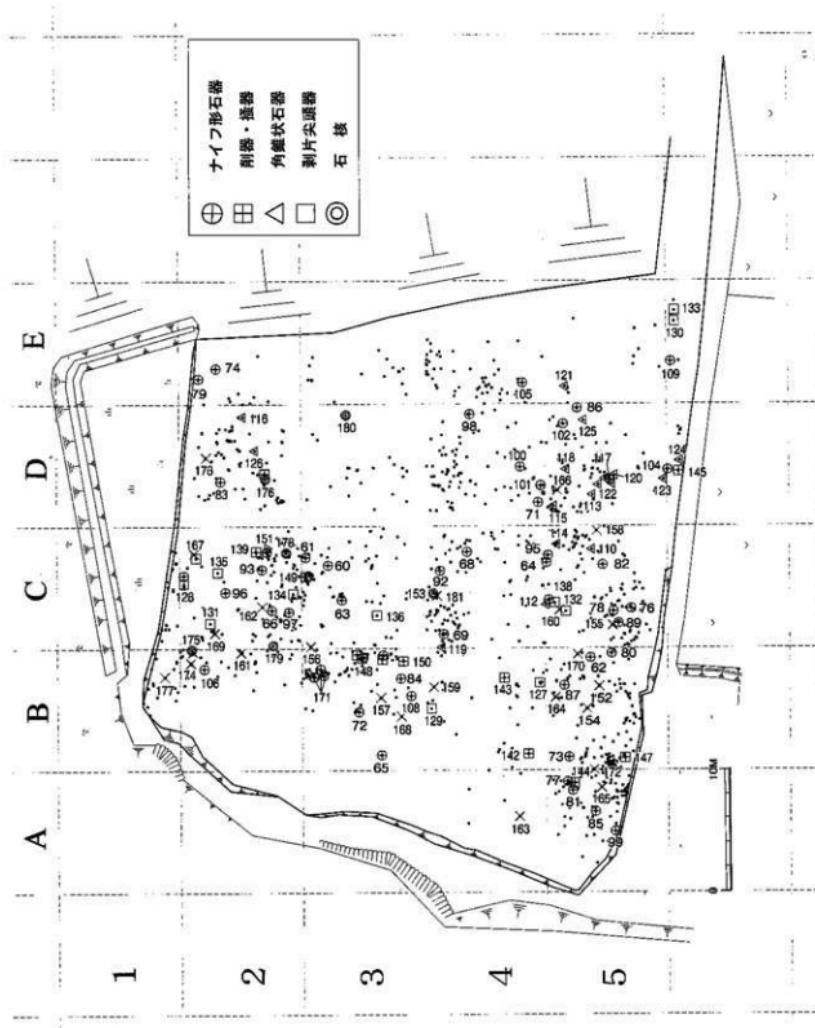
#### 接合資料 194

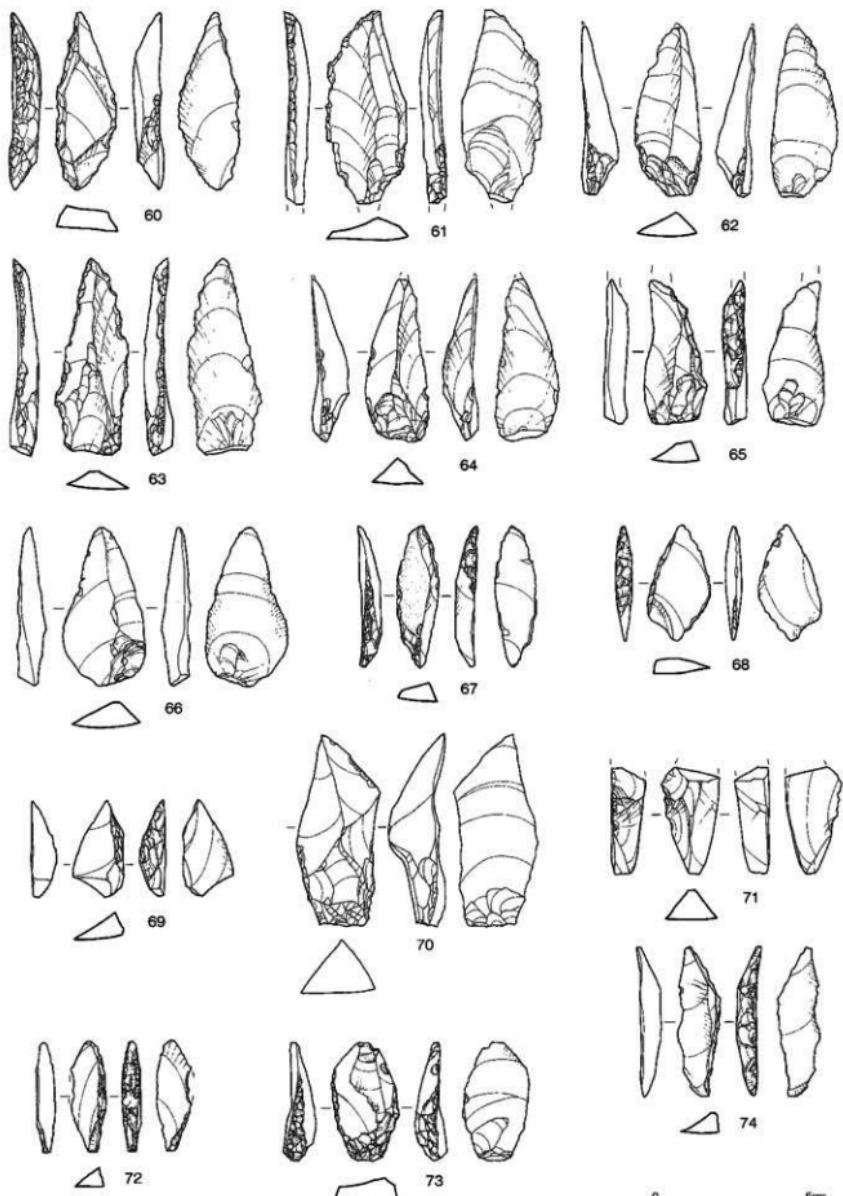
石核 2 点、二次加工剥片 1 点、調整剥片 2 点、計 5 点からなる接合資料である。出土地点は 2D、2C 区で約 5 m 以内に集中し、約 10 m 離れて 3E 区に 1 点分布する。出土層位は V 層から VI 層下位、VI 層に及ぶ。大人の拳 2 つほどの亜角碟を母材としている。二次加工のある剥片は、碟の表皮剥離の調整段階で生じた剥片を使用したもので、したがって表面に自然面を残している。資料は母材を 2 分割した後、打面となる平坦面を作っている。その打面から數点の不定剥片を作出した痕が残核にのこっている。もう一つの石核には二方向から剥片を剥いだ痕跡が残る。石材は、黒色系の流紋岩であるが粒子が粗く石器の石材としては良質とは言えない。

#### 接合資料 195

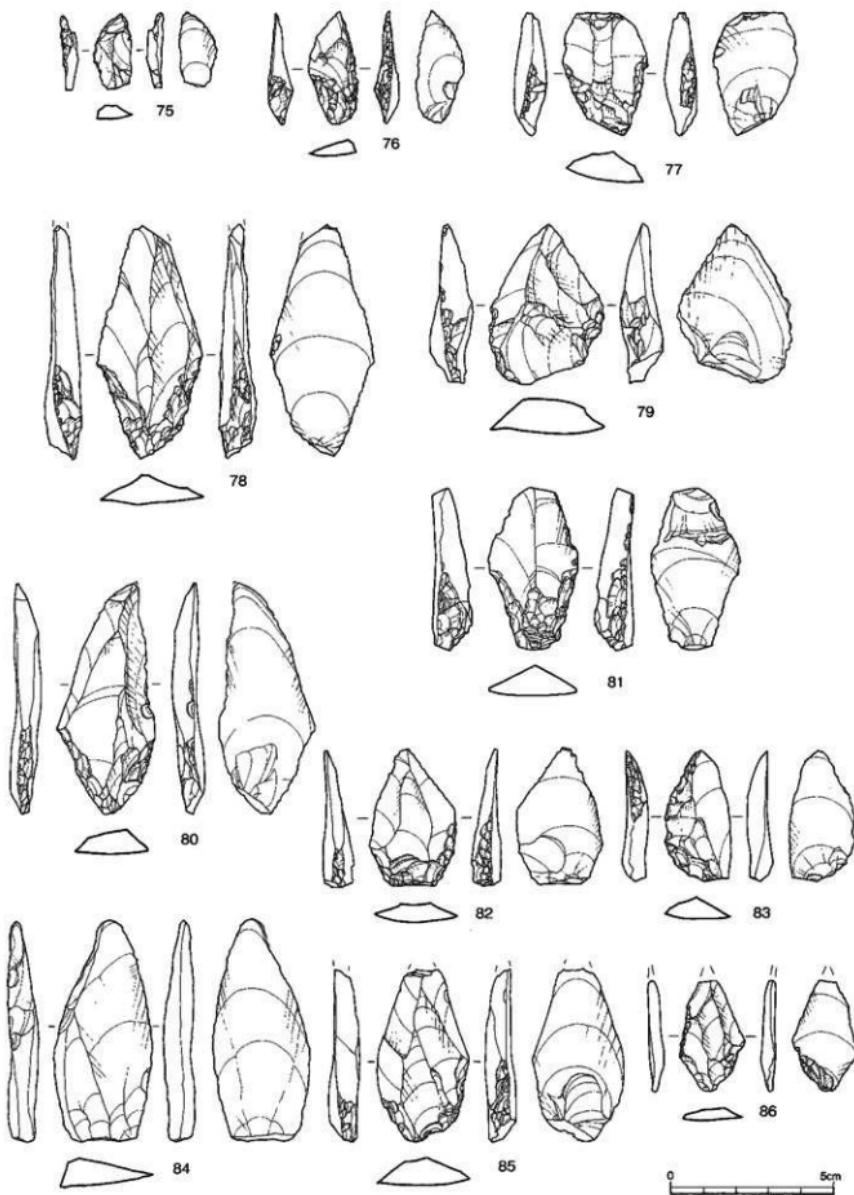
石核 1 点、調整剥片 5 点、二次加工のある剥片 1 点からなる接合資料である。出土地点は 3B、3C 区の境に位置し約 4 m 以内に集中する。約 10 m 離れて 3C 区の南東隅に 1 点が分布する。大人の拳大の卵形円碟の一端をはねて打面をつくる意図が窺えるが節理のために上手く打削できていない。石核に、端部の復面から急角度の調整を行う二次加工のある剥片 1 点が接合している。V 層下位から VI 層下位にかけての層から出土した資料である。石材は、褐灰色系の流紋岩である。

第24図 V-VI層検出状況図 (D面) (1/400)

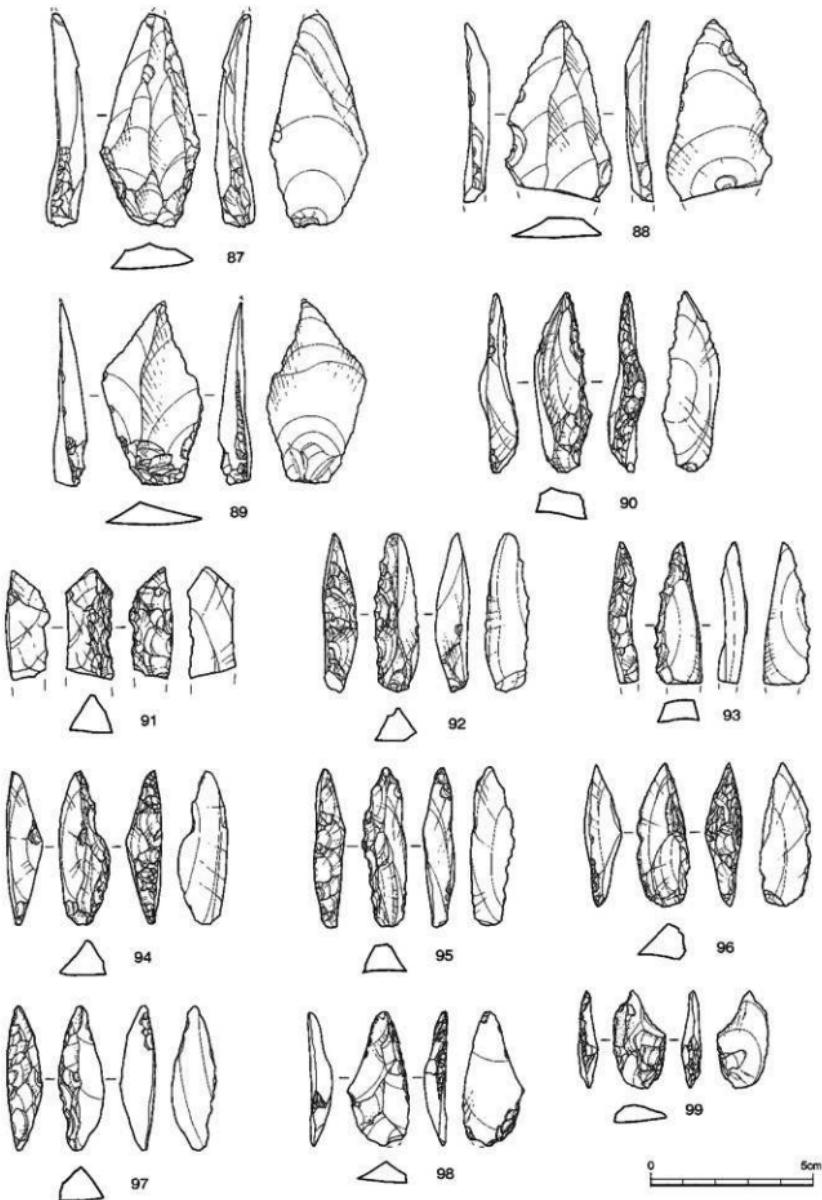




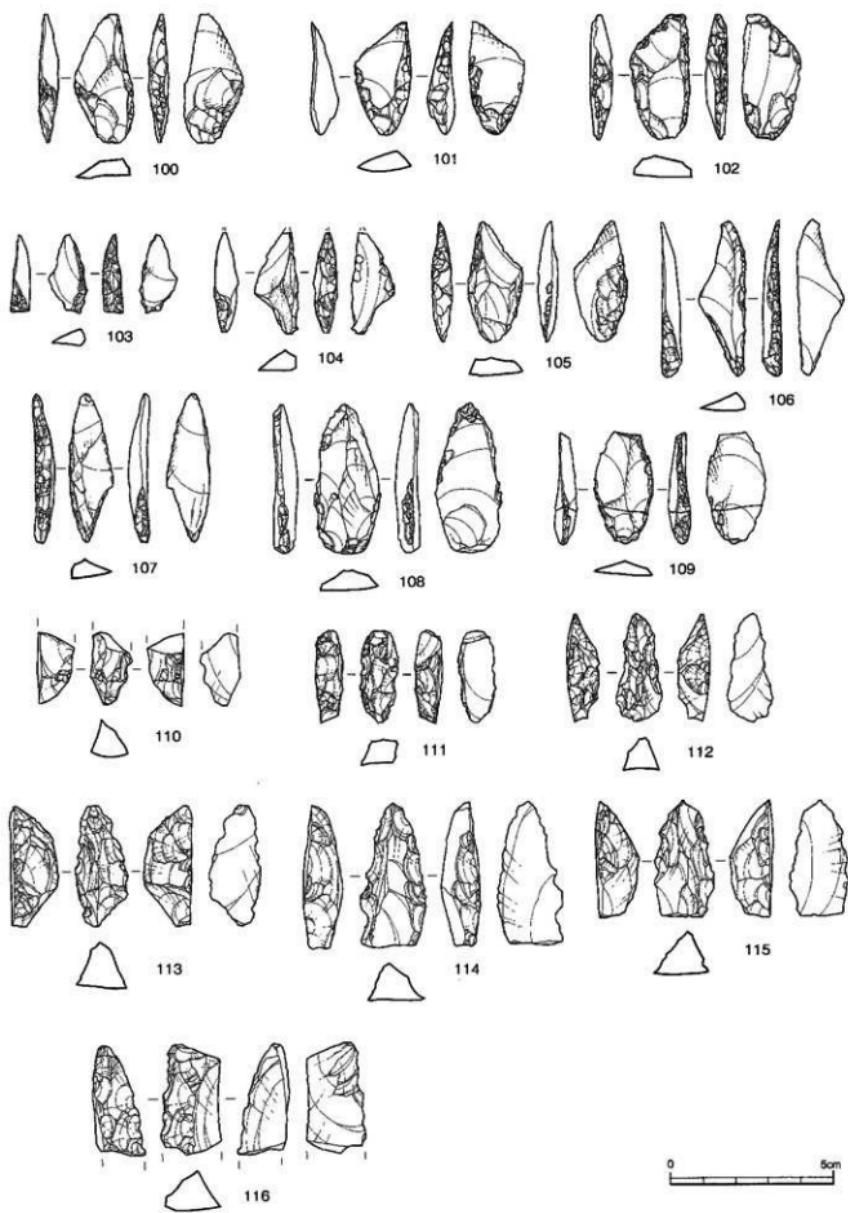
第25図 V - VI層出土石器①



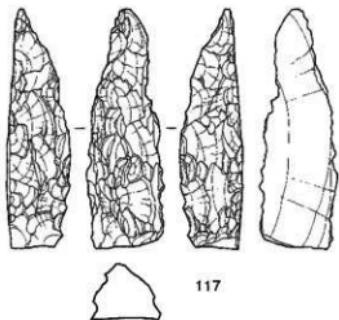
第26図 V - VI層出土石器②



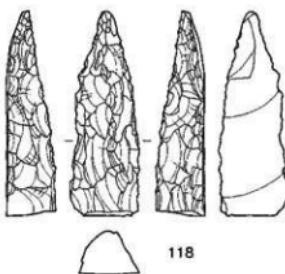
第27図 V - VI層出土石器③



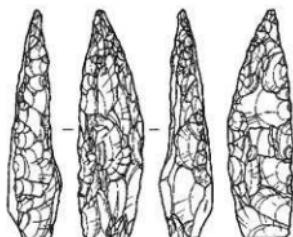
第28図 V - VI層出土石器④



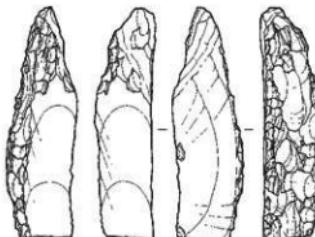
117



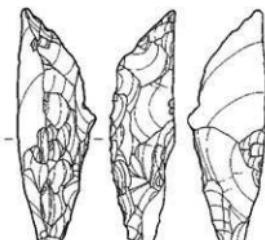
118



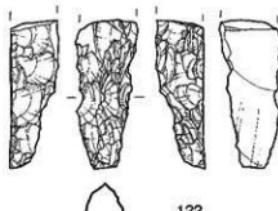
119



120



121



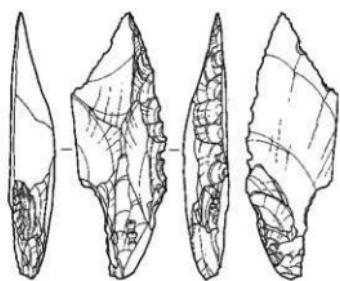
122



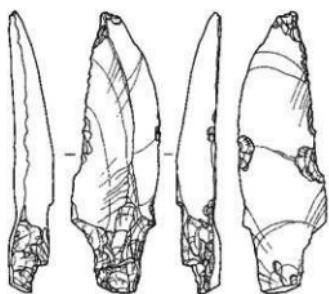
第29図 V - VI層出土石器⑤



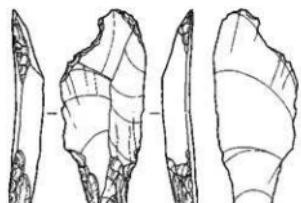
第30図 V - VI層出土石器⑥



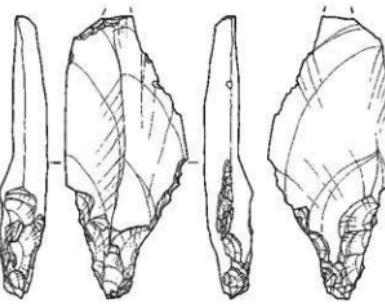
130



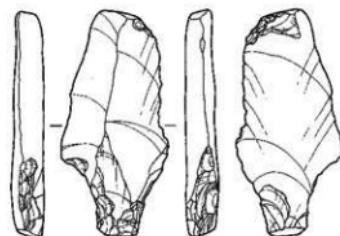
131



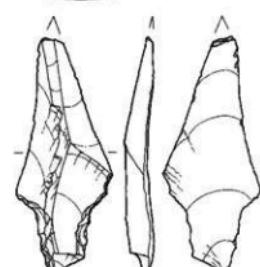
132



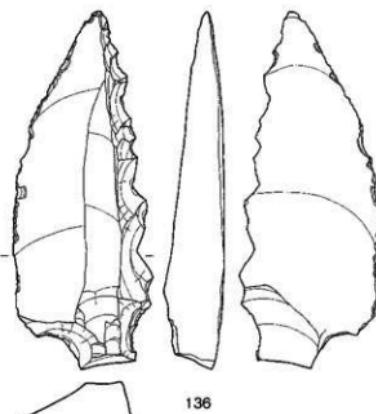
133



134



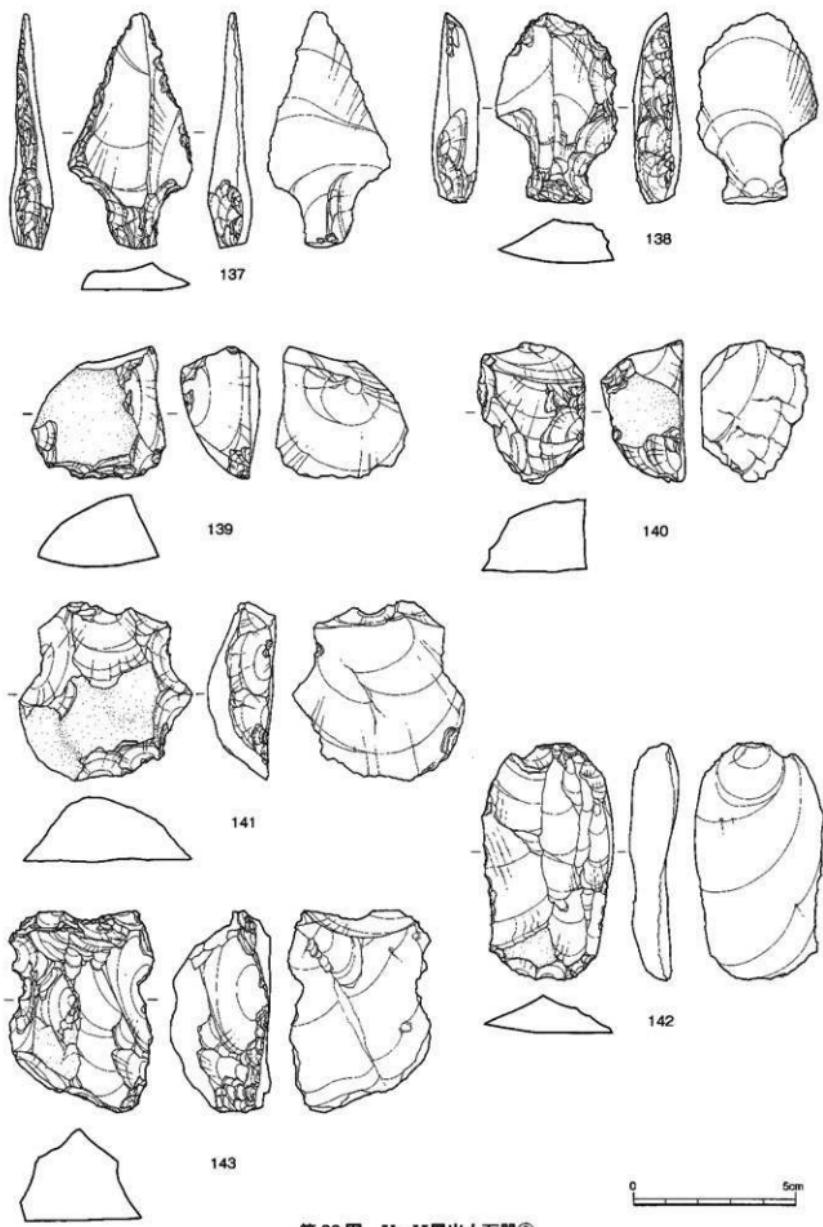
135



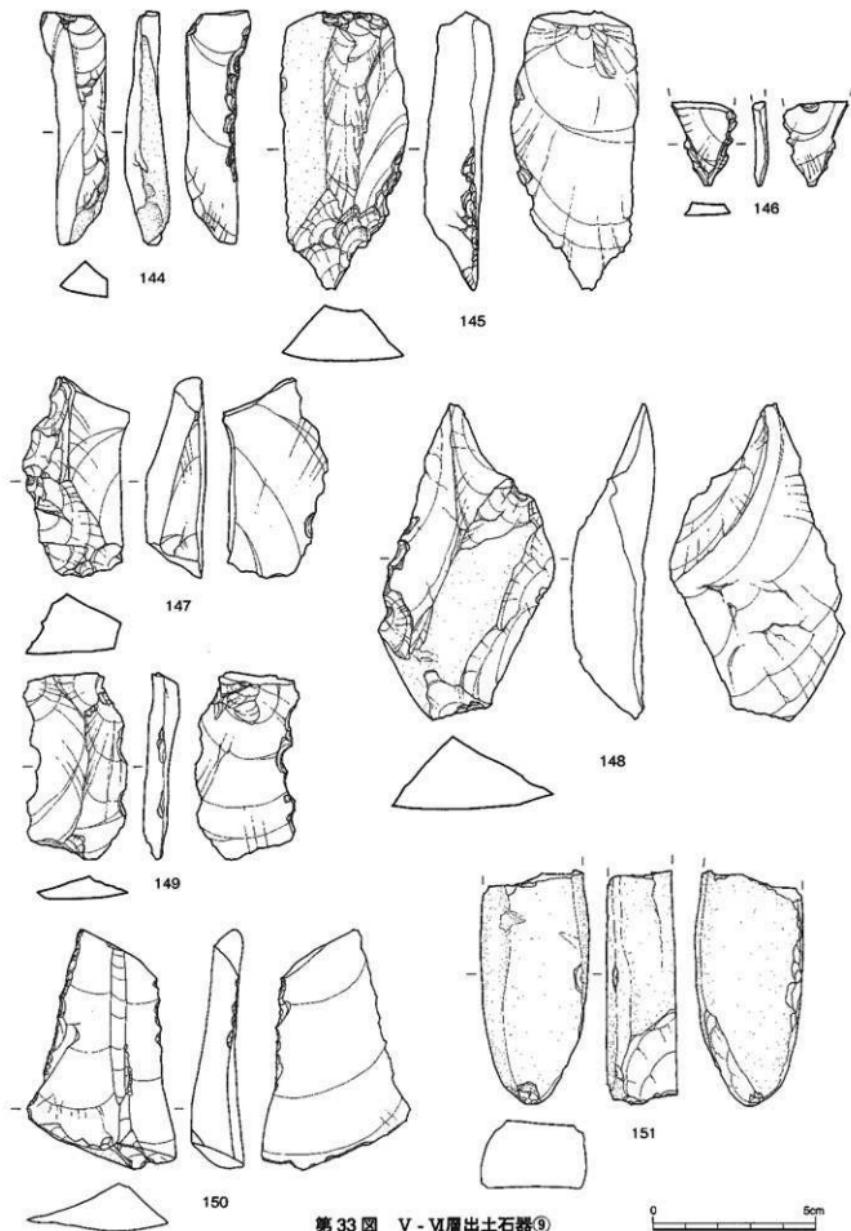
136

第31図 V - VI層出土石器⑦

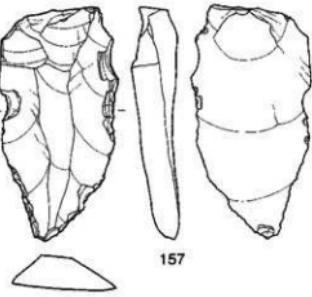
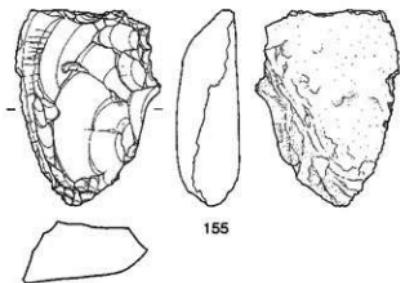
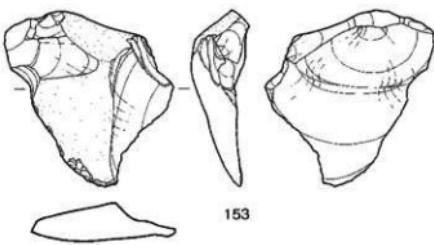
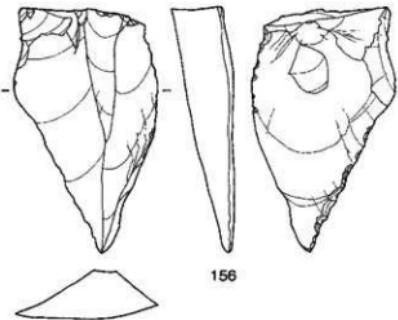
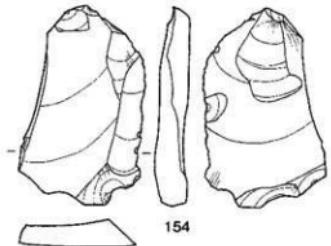
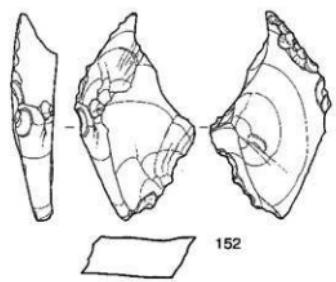




第32図 V - VI層出土石器⑧

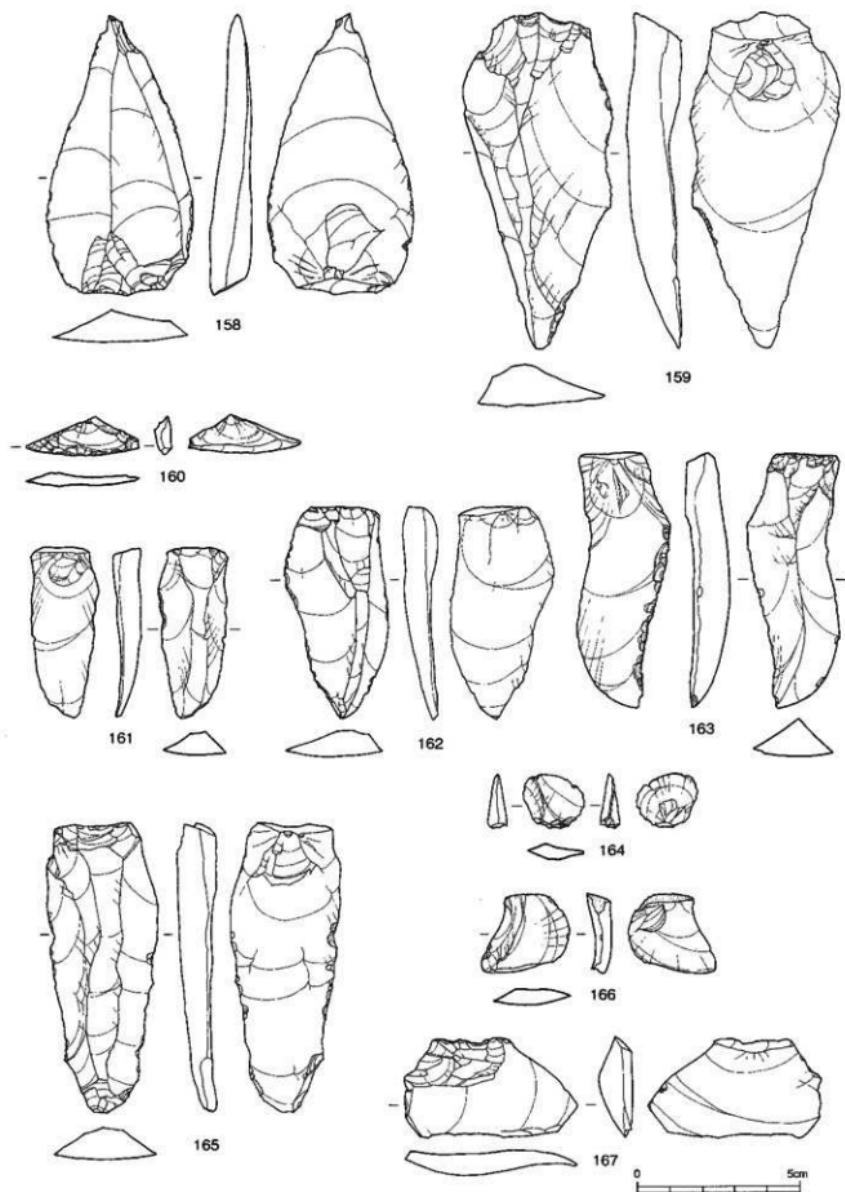


第33図 V - VI層出土石器⑨

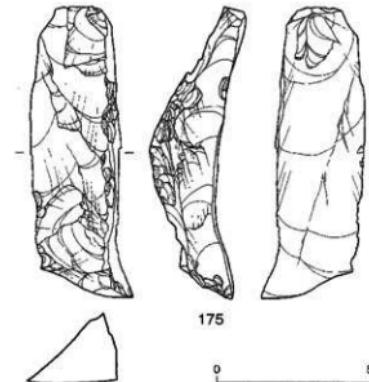
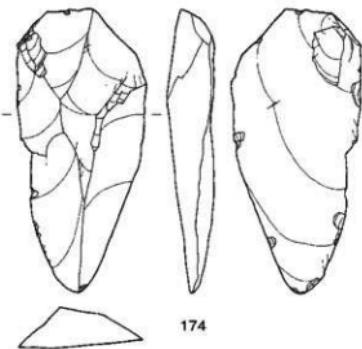
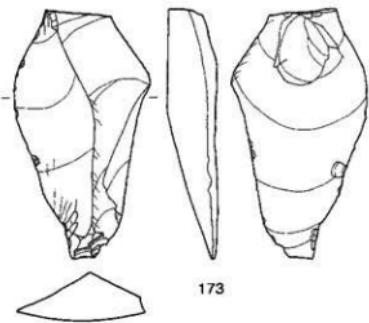
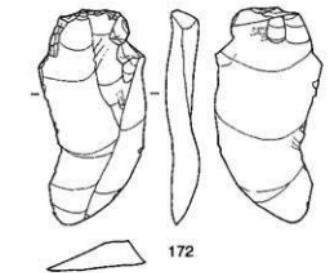
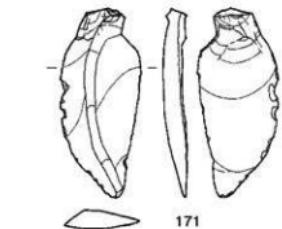
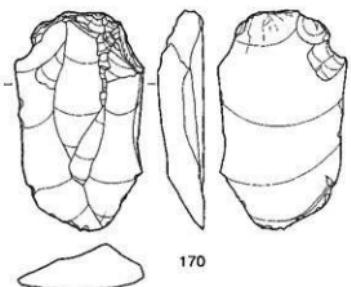
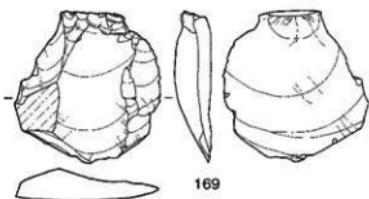
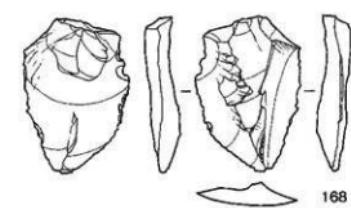


0 5cm

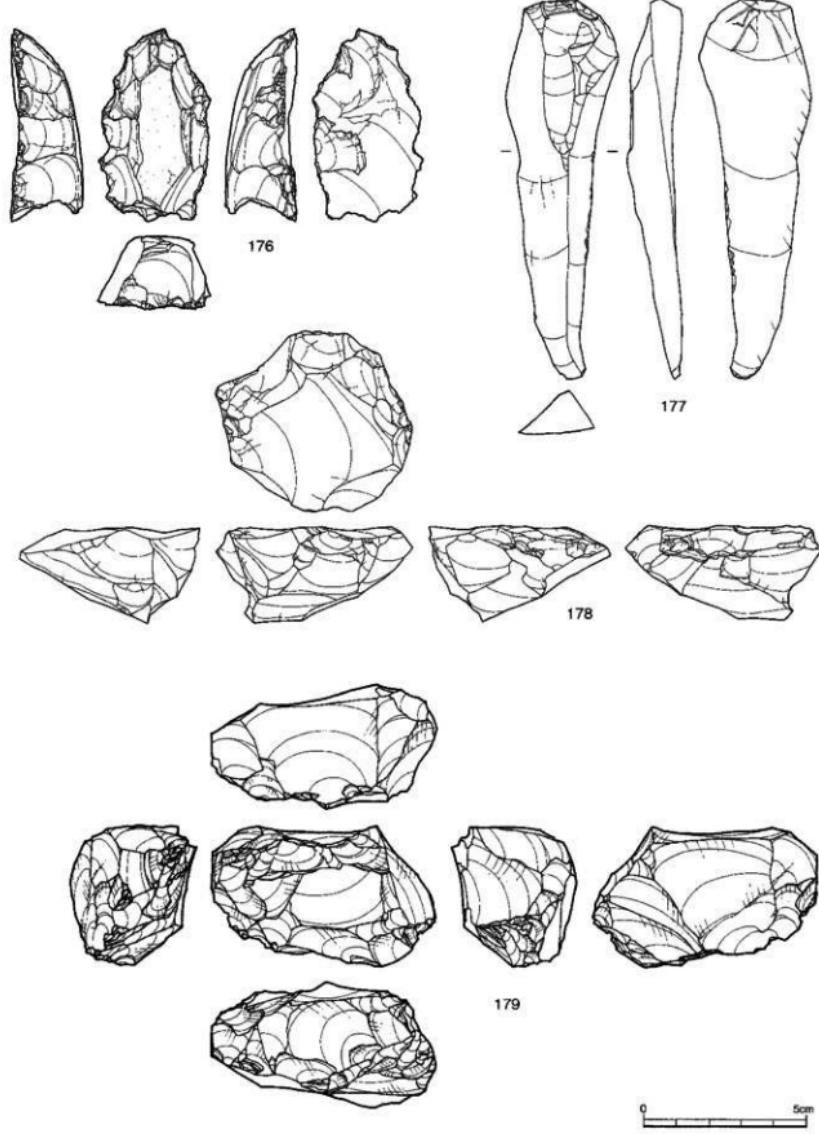
第34図 V-VI層出土石器⑩



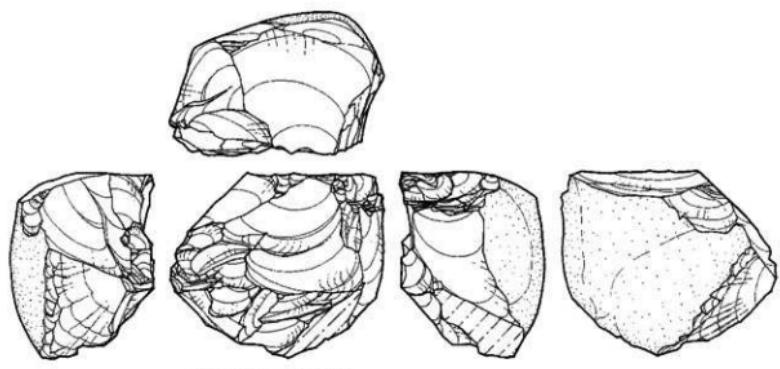
第35図 V - VI層出土石器⑪



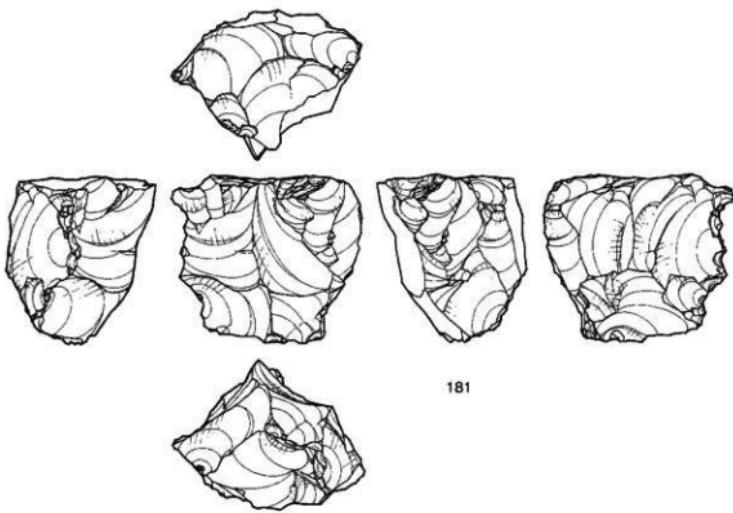
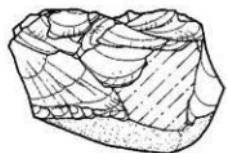
第36図 V-V層出土石器②



第37図 V - VI層出土石器③



180

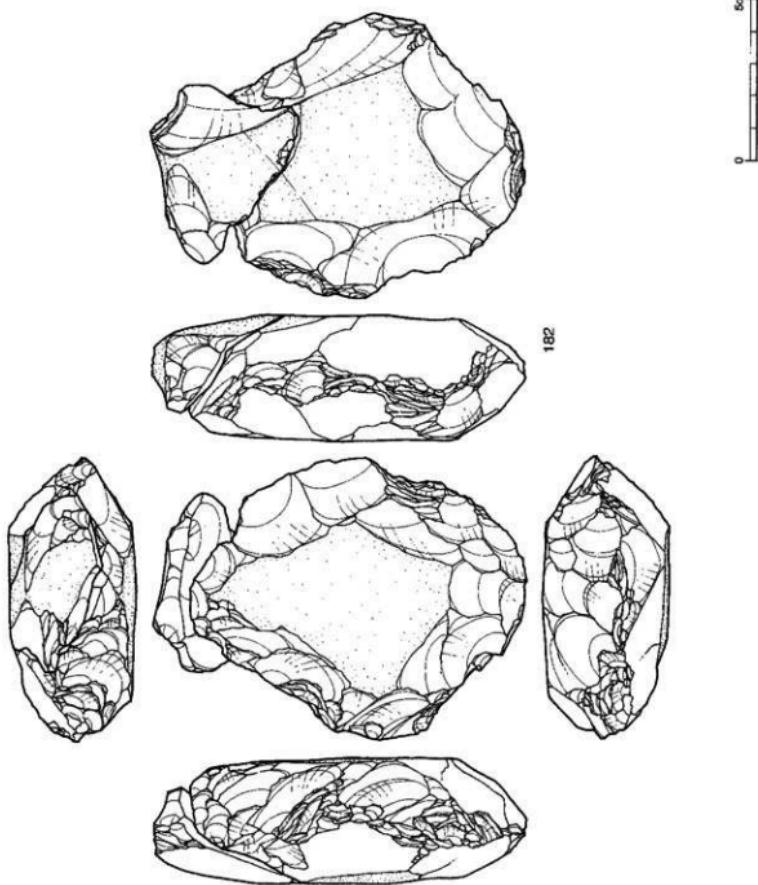


181

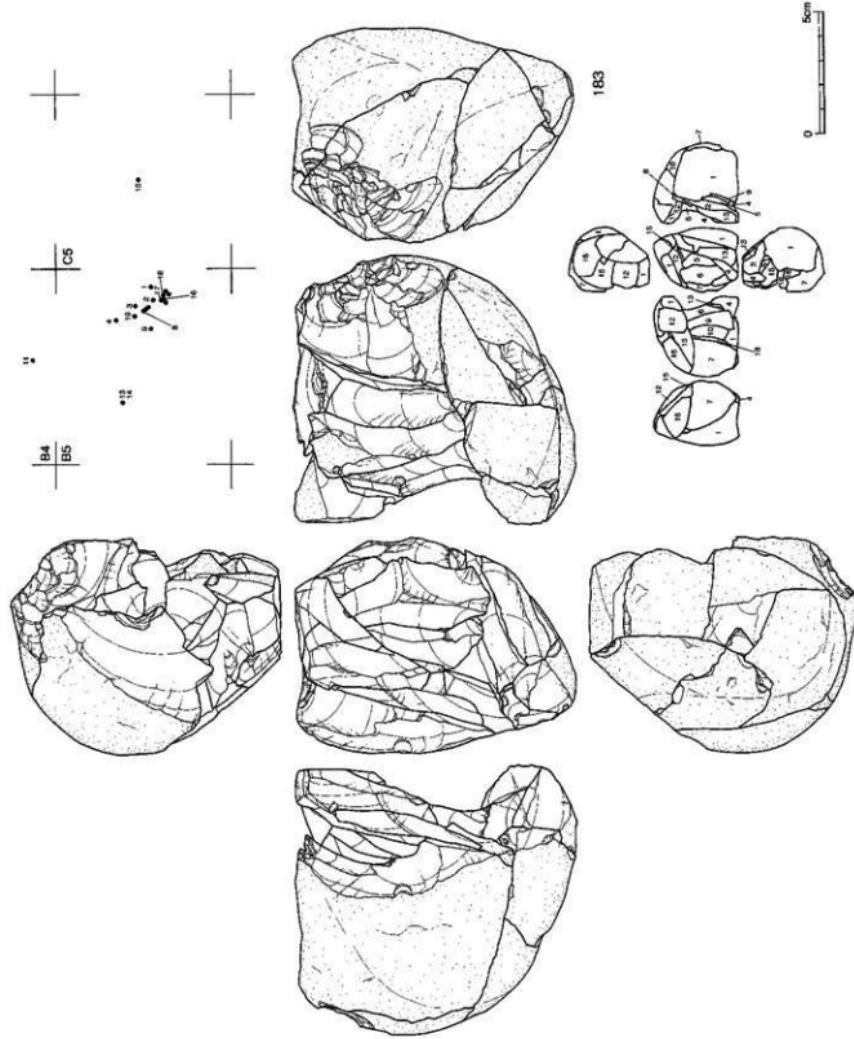


第38図 V-VI層出土石器⑩

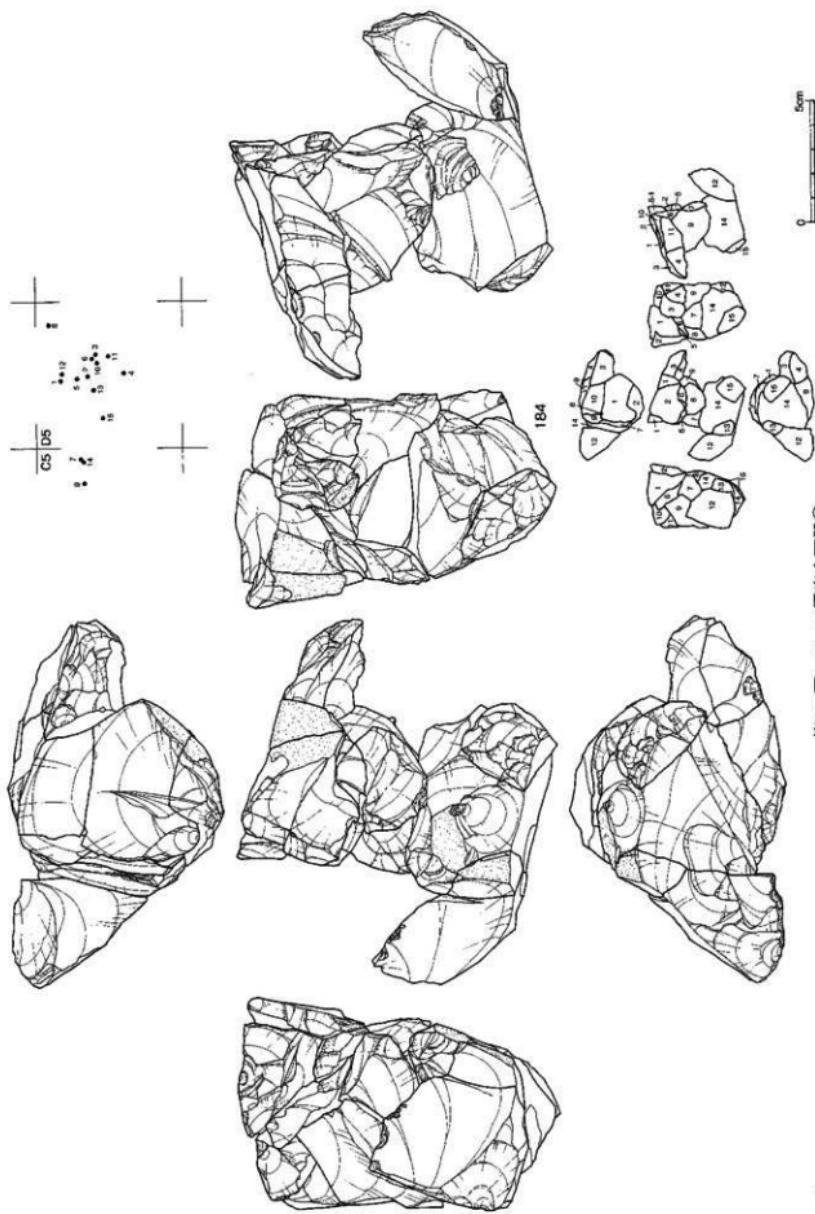
第39圖 V - VI層出土石器⑤



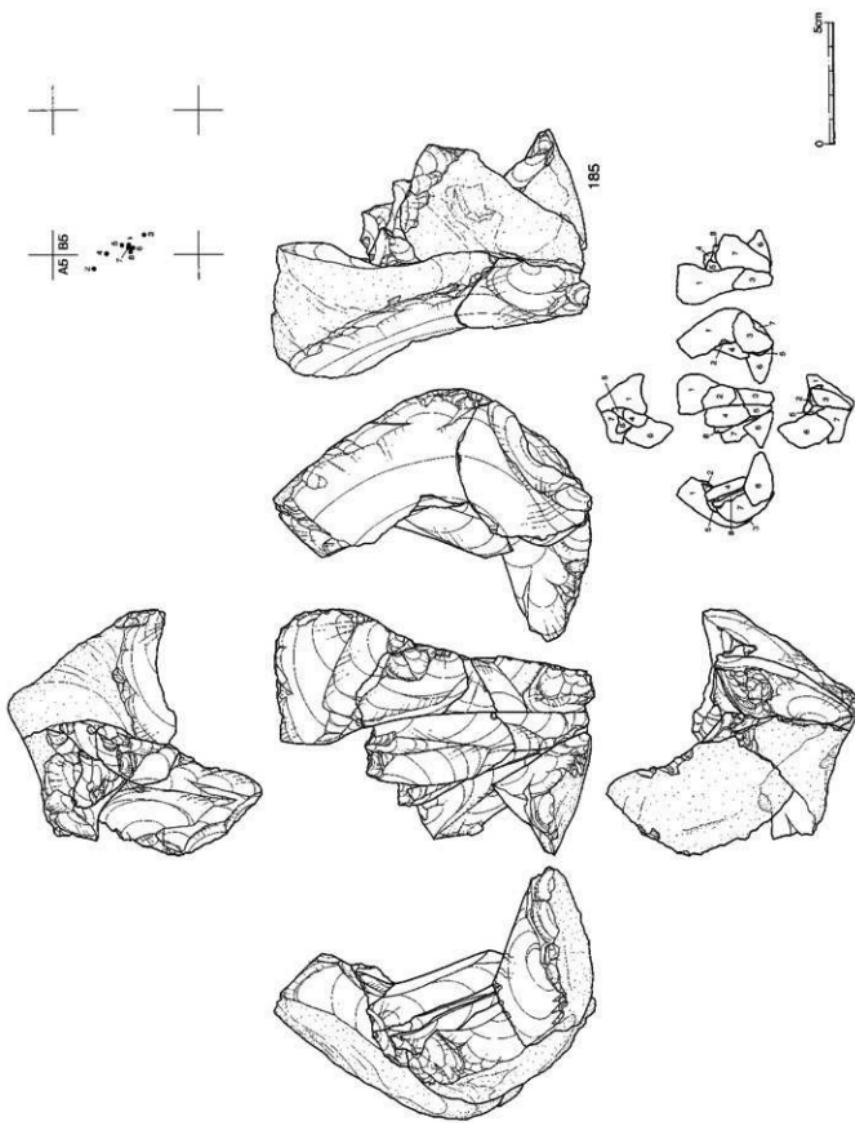
第40図 V-VI層出土石器⑯



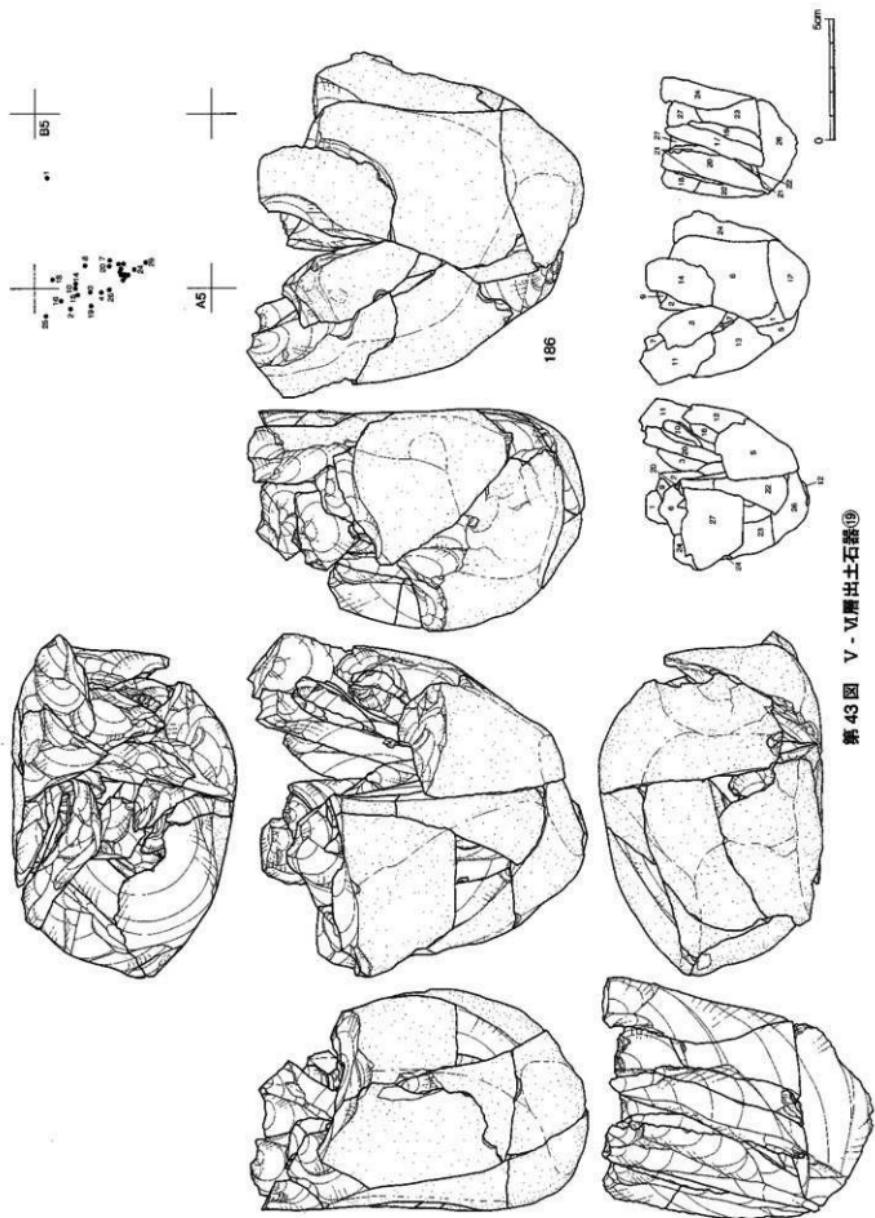
第41図 V-VI層出土石器⑦



第42図 V - VI層出土石器⑮



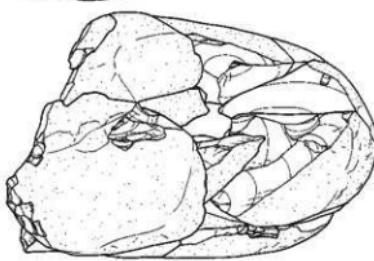
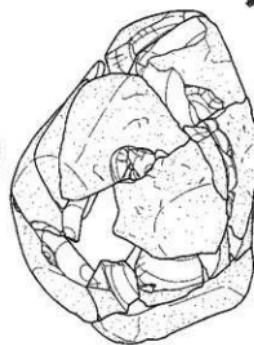
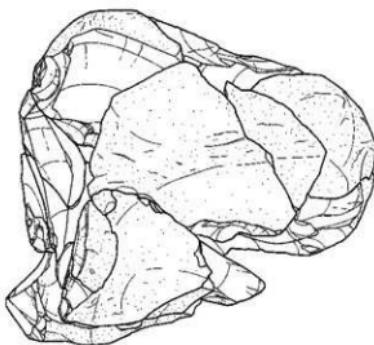
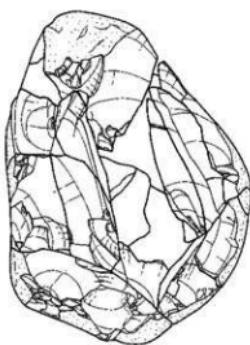
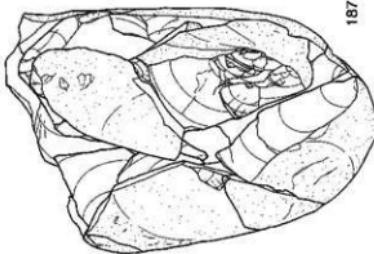
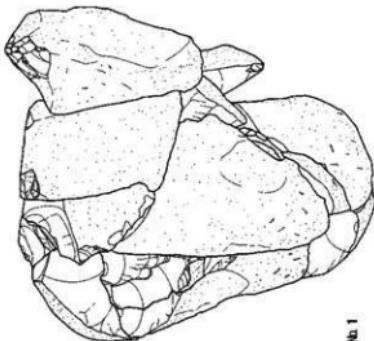
第43圖 V - VI層出土石器(9)



第44図 V-VI層出土石器②-1

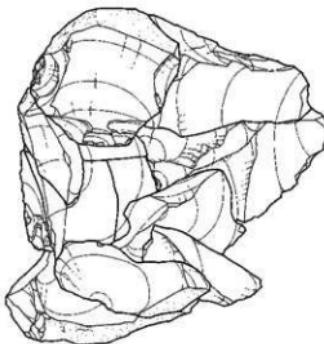
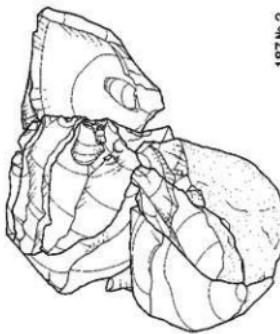
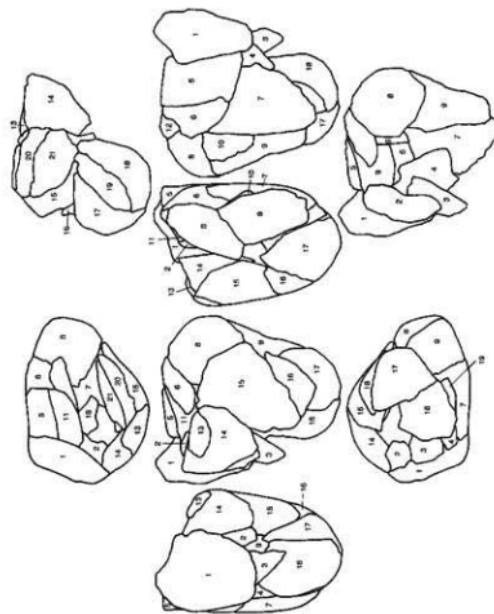


187 No. 1

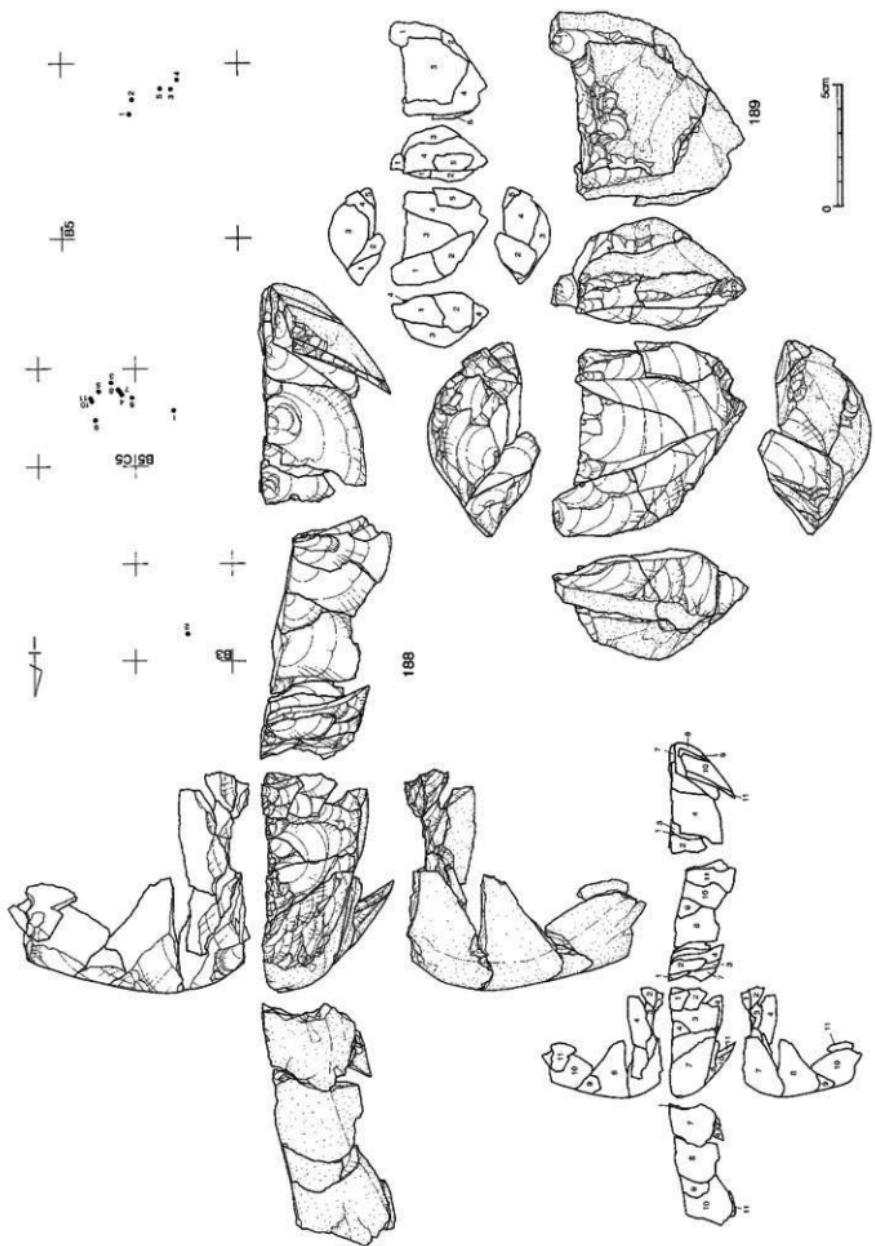


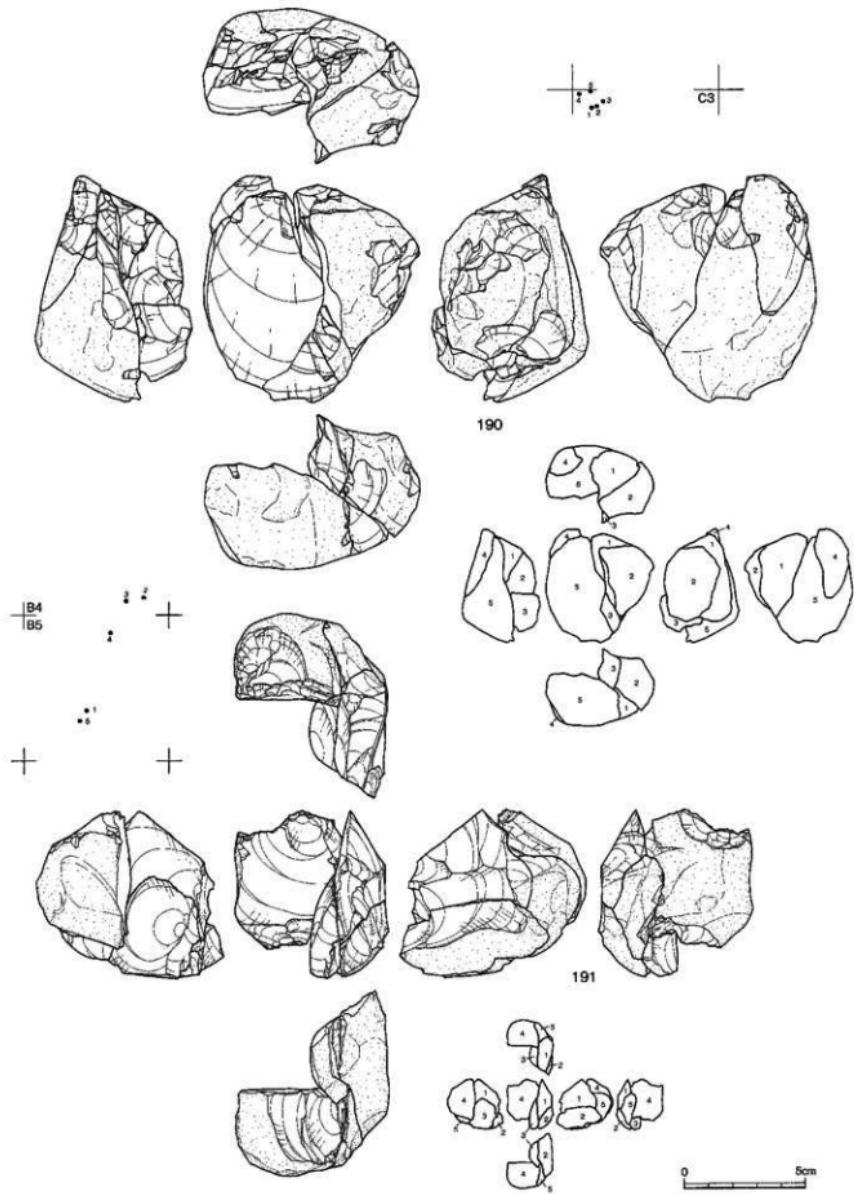
第44図 V-V'断出土石器②-2

0 5cm

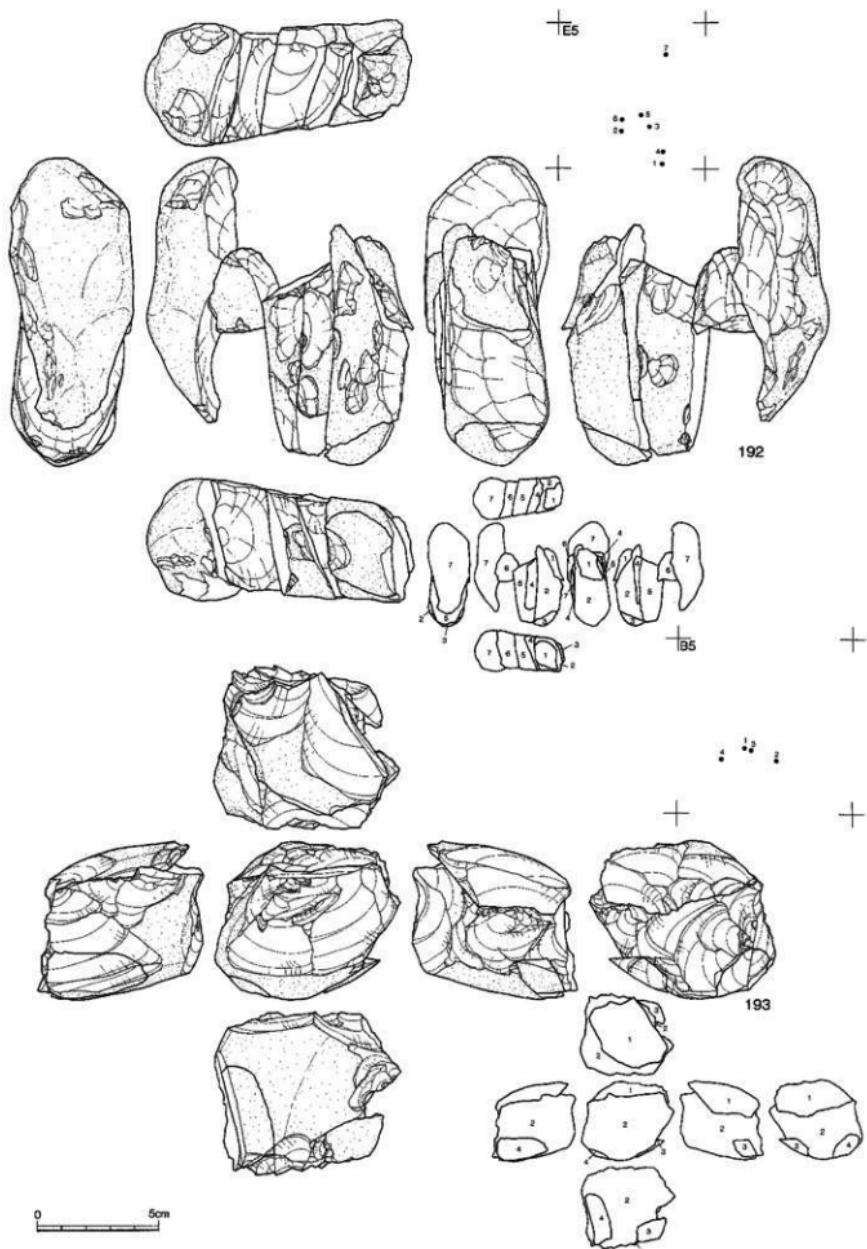


第45図 V・VI層出土石器②





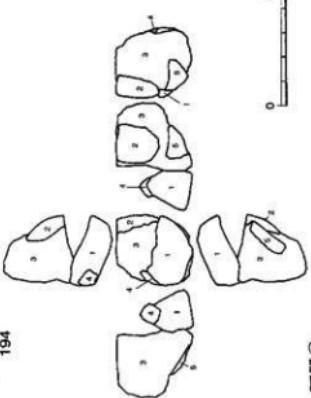
第46図 V-VI層出土石器②



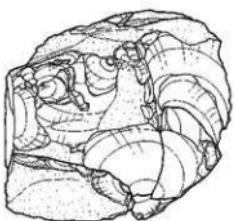
第47図 V-V層出土石器㉓

第48図 V-VI層出土石器②

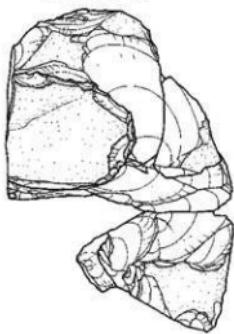
5cm



194



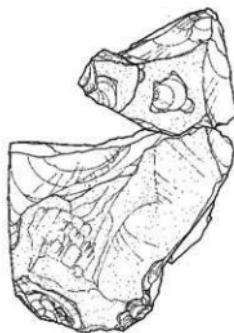
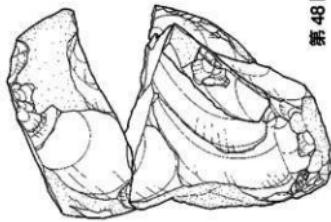
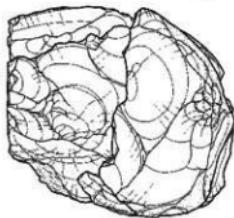
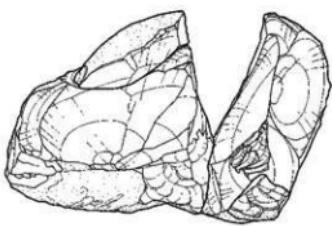
193



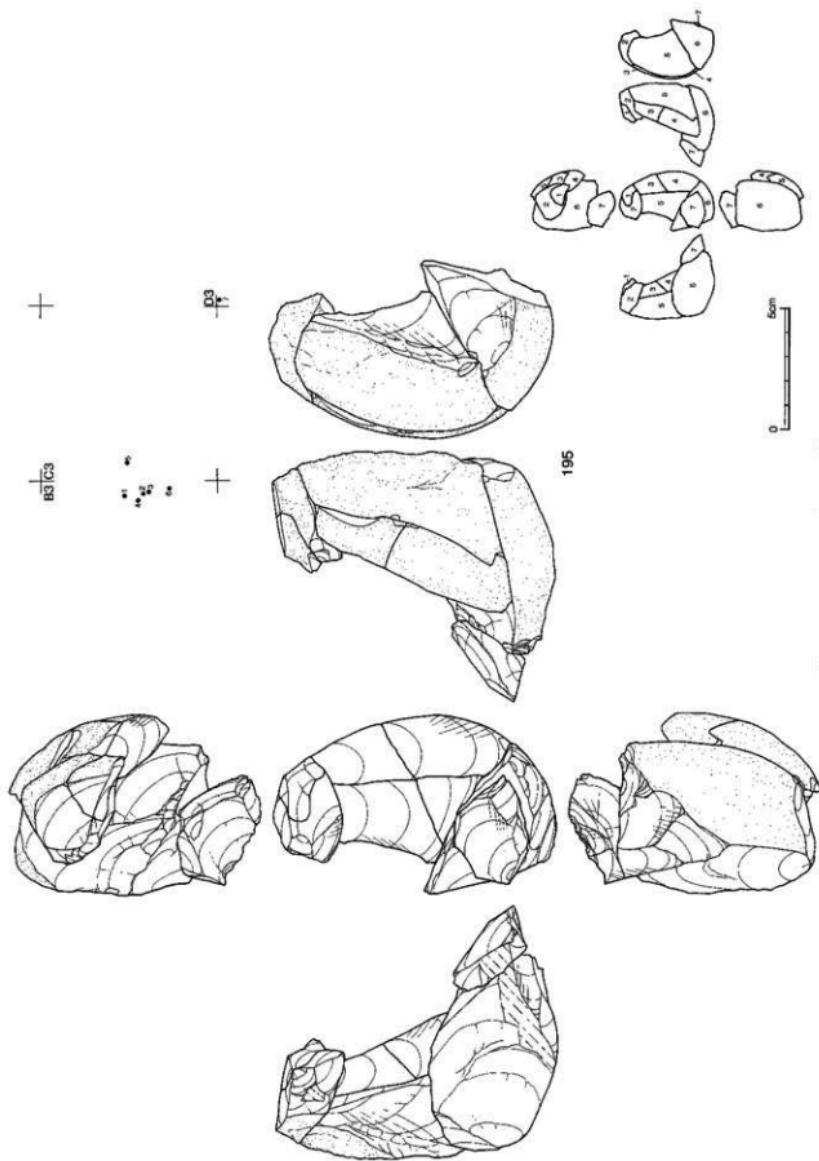
+

c2D2

+



第49図 V-VI層出土石器②



#### (4) 旧石器時代面 E の調査 (VI層—VII層) の調査 ···· ナイフ形石器文化 3

ナイフ形石器を主体としながら、角錐状石器、剥片尖頭器、搔器、削器が見られる。また、本遺跡で唯一の台形石器が出土している。

この層位から出土する石器、剥片類の石材には引き続き、流紋岩類 (R1、R2、R3、R4) が主体として用いられ、一部にチャート、ホルンフェルスの使用も少数ながら認められる。また僅少ながら新たに凝灰岩と石英の使用が認められる。

##### ナイフ形石器 (第 51 図 196-214)

第 51 図の 196 から 214 はナイフ形石器である。これは縦長剥片利用と横長剥片利用のものに大別できる。縦長剥片利用のものをさらに、一側縁加工、二側縁加工、基部加工に分類する。一側縁加工の一群は、199、200、202、204 である。二側縁加工の一群は、201、203、205、206、209、211、212、213 となる。201、203 は、斜軸剥片を使用したナイフで右側縁がバルブ側となって腹面からプランディングを施している。これらは今蚌埠型ナイフに類するものとなろう。213 は、基部付近の両側縁に刃潰しを加え、両側縁の中央から上部を刃部とするもので、腹面に打面、バルブを剥片剥離時のままのこすものである。打面やバルブ面をのこさず端部を鋭角に加工するもの 209、211 がみられるが数量的には少数である。基部加工の一群は、197、198、208、214 となる。197 は、両側縁下部に加工を加えて尖らせた基部をもつナイフであり中央付近で折損している。214 は、基部を中心に背面から調整を加え、先端の右側縁と左側縁の一部にも刃潰しを加えている。左側縁の大部分を刃部としたものであろう。また、これを剥片尖頭器に分類する見方もある。一方、横長剥片利用の二側縁加工のものに 196、207、210 がある。196 は、横長剥片を利用することで刃潰しを施した左側縁の下端は自然縫面をのこしている。207、210 は、横長剥片を利用して頭頂の一辺の角度を浅くして作る独特の形状を有する切り出し形のナイフである。この層位から出土したナイフ形石器の完形 13 点の平均長、幅、重量は、それぞれ 3.95cm、1.88cm、3.26g である。

##### 角錐状石器 (第 52 図 215-219)

第 52 図の 215 から 219 は角錐状石器である。大型品と小型品がともに見られる。横長剥片を利用するものが大半で (215、216、217、218)、縦長剥片を利用するものは 219 のみとなる。219 は三面すべてに丁寧な連続細部調整が施され正に刺突具的な機能を想起させる形状をもつ。215 は同器種としてはやや薄手の石材を利用する縦長剥片を素材とするもので背面の全面に細部調整が施されている。218 は厚手の角柱状の調整剥片を素材としたものと考えられ、一面に粗い調整剥離を施している他は、石核から剥がした剥離面をそのままのこしているなど頗る簡易で粗雑な整形となる。

##### 剥片尖頭器 (第 52-53 図 221-225)

第 52-53 図 221、222、223、224、225 は剥片尖頭器である。221 は、断面三角形の厚い縦長剥片を使用するもので右側縁の全面を腹面からの急角度調整で成形する。基部は下端両側縁から調整して細身の柄部に成形している。なお、腹面には打面、バルブをのこしていない。222 は、長さに対して幅が大きいやや幅広の右錐様を呈する剥片尖頭器で最先端を欠損している。打面、バルブはその儘のこしている。

223は、直線的に延びる左側縁を全面に渡って腹面から急角度で丁寧に調整し、右側縁の2／3は無加工でのまま刃部状にのこし、下端の基部付近のみに調整を加える典型的な剥片尖頭器である。基部は背面からも調整を加えてつまみ状の基部を整形している。なお、223については「中原型」のナイフとする見方もあろう。224、225は、それぞれ柳葉、木葉状を呈するもので224は最尖端の一部を欠いている。基部は両資料ともに打面、バルブなど剥離素材面をその儘のこしている。

#### 台形石器（第53図226）

第53図226は、剥片の鋭利な側辺を刃部として成形する台形石器である。ほぼ平行する両側縁に腹面からの細かな調整剥離が観察される。上端の刃部は、ごく浅く角度がついて切出ナイフ状を呈する。本遺跡唯一の台形石器であり、2次・3次出土の同石器と形状を異にしている。

#### 搔器（第53図227）

227は、厚く割りとった円形剥片の端部を、腹面からの急角度の剥離で弧状に刃部をつくるものである。228は、右側縁に腹面からの連続剥離が認められるほか、背面の末端は急角度に剥離されてエンドスクレーパー様となる。

#### 削器（第53-54図229-234）

229、230、231、232、233、234の6点は削器である。

229は、幅広の不定剥片の打面、バルブを除去して成形された削器であり、左側縁に腹面から連続した剥離が加えられている。230は、石核から剥いだ断面三角の厚い剥片からつくられた削器で、右縁全辺に腹面からの連続した剥離痕が認められる。231は、幅広で薄い不定剥片でつくられた削器で、両側縁に連続剥離で刃部が作出されている。全体に風化が認められる。232は、木葉形の幅広剥片を用いたもので左側縁に浅い角度で連続的に剥離を施した刃部をつくるものである。233は、末端の尖った綫長剥片の左側縁に、粗い連続剥離を加えて刃部をつくるものである。234は、大型で厚い木葉形剥片の両側縁に腹面から丁寧な連続剥離を施している。末端に自然面をのこしている。

#### 剥片（第54-56図235-251）

235、236、237、338、239は二次加工のある剥片である。235の石材は水晶製、236は背面の全面に剥離を加えて成形している。237は、両側縁に腹面からの加工痕がみられる。238は、打削した綫長剥片の端部刃を背面から剥離して刃部をつくっている。239は、左側縁下部に腹面からの剥離痕をのこしている。

240は、右側縁の一部に使用痕の認められる剥片である。242、243、244は横剥ぎによって作出された剥片である。245、246、247は横広の不定形剥片で246、127には剥片の末端に使用痕がみられる。248、249は木葉状の剥片である。背面に剥片剥離の痕がのこっている。250は、石刃である。剥片の末端部は自然礫面となっている。251も綫長剥片であるが中央付近で折りとられている。

#### 石核（第 56-57 図 252-255）

252 は、打面を自然縫面とする剥片石核となろう。背面からの剥離と腹面からの剥離で不定形の剥片を作出している。末端は、腹面からの剥離によってスクレーパー状を呈する。253、254、255 は、多方向から不定形剥片の作出がおこなわれ多面体状を呈する残核である。

#### 敲石（第 73 図 329,332,334）

329 は緩く屈曲した棒状の敲石で、両端部に打撃によって生じた剥離痕が観察される。裏面のそれは下端部から全長の三分の一にも及んでいる。また、表面は摩耗面となる。332 は側面の数箇所に打撃痕がみられ、側面と表面の二箇所に摩耗面がみられる。334 は球形の敲石で側面 2 箇所に潰痕が観察できる。

#### 磨石・敲石（第 73 図 335）

335 は球形の磨石・敲石で表面、側面の四面に摩耗面、側面の一部に潰痕がある。

#### 台石・石皿（第 73 図 337, 第 74 図 409）

337 は長楕円形の台石、あるいは石皿である。表は浅く窪んでいる。なお、337,332,334,335 は極めて接近して出土（図版 6）しており、セットと考えてよいであろう。409 は花崗斑岩製の石皿であり、上面の中央部分が穏やかに窪んでいる。下面は平坦となる。

#### 用途不明石器（第 73 図 328、第 74 図 408）

328 は扁平な長楕円形を呈する石器で尖端の左側と下端の左側の一部、および石器左辺上部に小さな楕円形の磨面を有する。手持ちの砥石的な用途を彷彿させる石器である。408 は、砂岩製の小判形の扁平円盤で周縁に潰痕、長軸の上下端に擦痕が見られる。下端のそれは表裏両面から石斧の刃状に研がれています。

#### 接合資料（第 58-62 図）

##### 接合資料 256

調整剥片 2 点、剥片 1 点、エンドスクレーパー 1 点、計 4 点からなる接合資料で、大人の拳大より一回り小さな円盤を素材としている。出土層位は VI 4 (VI 層下位) を中心に VII 層上面である。出土地点は 2C、3C 区にまたがって出土している。自然縫の上端と側面をねて作出した平坦打面から 2 点の剥片を取っている。うち 1 点 (4) は厚く幅広の石核で下端に腹面から急角度の調整を加えている。石材は、白く風化するタイプの細かな縞模様が特徴的な流紋岩である。

##### 接合資料 257

自然面を有する石核 1 点、調整剥片 3 点、計 4 点からなる接合資料で、大人の拳大より一回り小さな円盤を素材としている。V、VI、VII 層の複数層からの出土である。出土地点は 2B、2C、4D 区にまたがり、各々最大で 8 m 離れている。自然面のこの石核には、少なくとも 7 点の不定形剥片を剥ぎ取った痕跡が周縁にのこっている。石材は、白く風化するタイプの流紋岩でやや大きな縞模様がある。

#### 接合資料 258

石核2点、調整剥片1点からなるもので、母材は大人の拳大と推定される自然面のこる亜角礫である。出土は、VI層下位からVII層にかけての土層である。出土地点は2C,3C区で、5m以内に分布する。石材は流紋岩で構造的にノジュールとなっており、節理が不規則に入つて石器の石材としては不適当なものと考えられるものである。打撃によって2分割されてできた平坦面を打面として、数点の剥片を剥ぎ取った痕がのこっているが、結果として摺理のために不定形の短い剥片の作出に止まっており、不本意な結果に終わっている。

#### 接合資料 259

調整剥片5点からなる接合資料で、出土層位はVI層とVII層の層境界からの出土である。出土地点は2D区で、7m以内に分布する。大人の拳大と推定される表面が風化した角礫母材から厚みのある剥片を含む剥片を作出している。剥片中に打面調整剥片(415)と考えられる1点を含んでいる。石材は、暗灰色で肌理の粗いホルンフェルスである。

#### 接合資料 260

調整剥片6点、剥片1点、計7点からなる接合資料である。出土層位は、VI層下位からVII層下位にかけての複数層から出土している。出土地点は2B,3C区にまたがり、3m以内に集中する。母材から打撃によって作出した自然面のこる剥片石核の平坦打面から、長軸方向と下端は直行する横方向の二方向から表皮剥ぎを意図した打撃を行つて調整剥片を剥ぎ取っている。その後、残った石核から1点の縦長状の剥片を剥ぎ取っている。母材は、人頭大と推定され、白く風化するタイプの良質の流紋岩である。

#### 接合資料 261

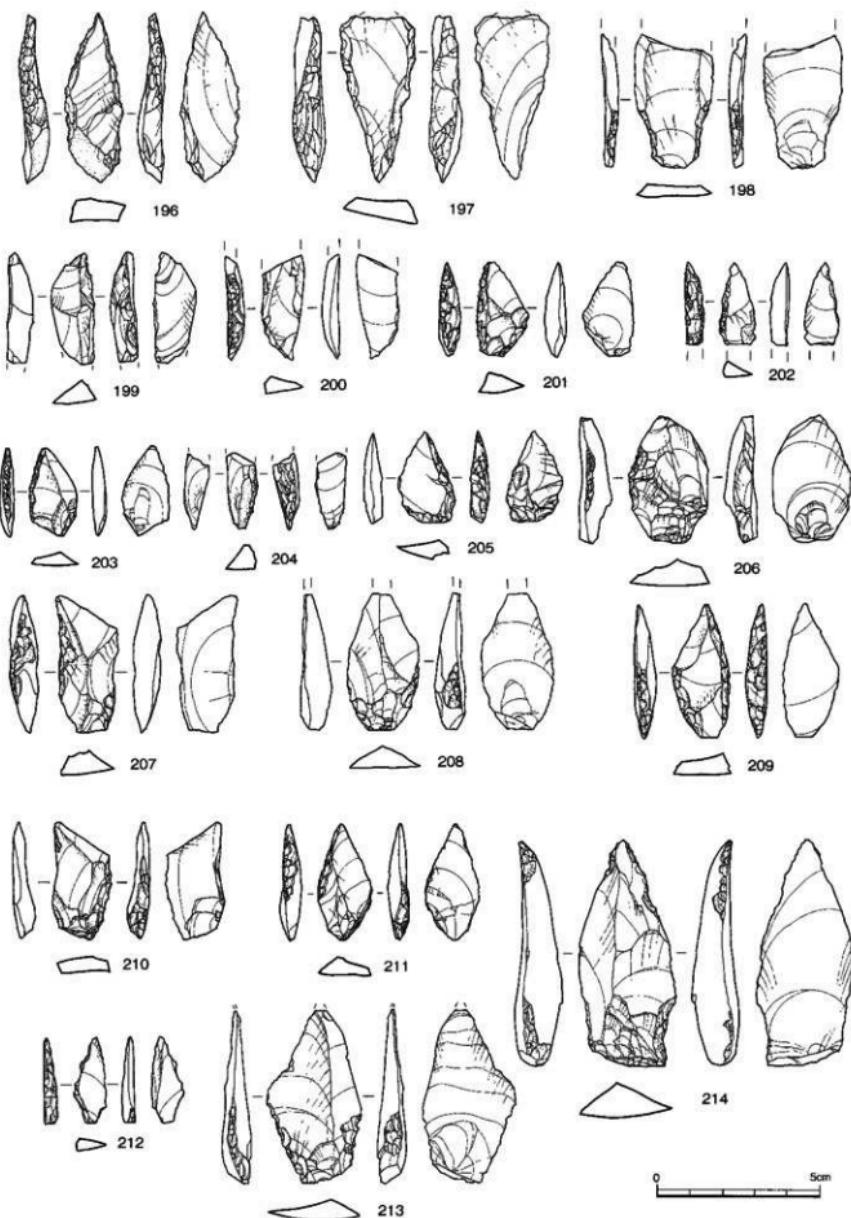
石核、剥片14点からなる幼児の頭大の円礫が接合したものである。各破片は、V層上位、V・VI層境界、VI層下位、VI・VII層境界と複数層から検出されている。出土地点は4D、4E、5C、5D区で、最大18m離れている。素材となる円礫を打削して剥片を作出しようとしているが、縦横にはしる節理面によつて邪魔され意図した剥片がとれていない。残核を見ても剥片を作出した痕跡がみられないことから、打削のみに終始した一例であると思われる。石材は、青灰色のホルンフェルスである。

#### 接合資料 262

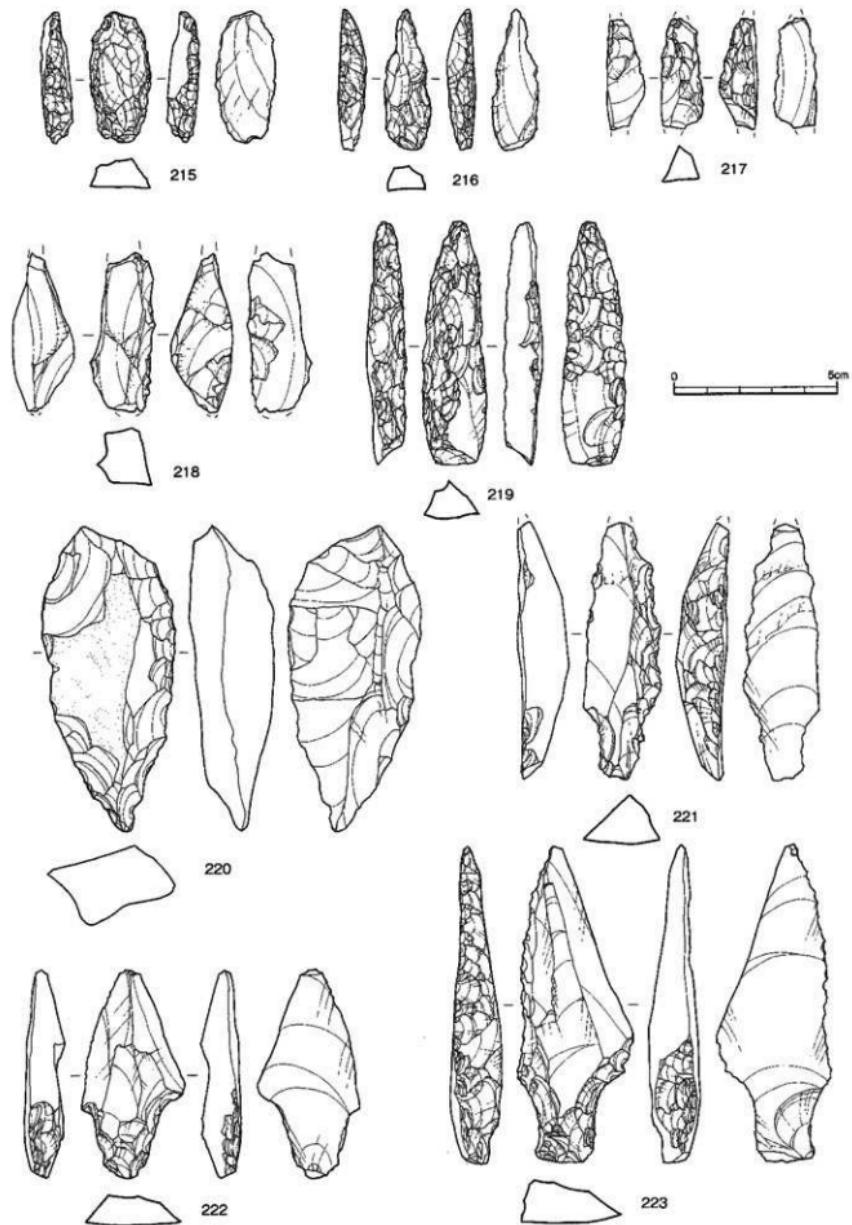
調整剥片8点からなる頁岩製の接合資料で、VI層下位からVI・VII層の境界層にかけて出土している。出土地点は2C区を主として、3C区の1点は10m以内に分布する。現形状は大人の手のひら大の扁平円礫の表皮が接合したものである。意図的に薄く剥ごうとしているが、石材が剥片作出に適さない石質であるため、復面の表面がゴツゴツしており、ツールには不適当な厚い剥片しか得られないという意図に反する結果に終わっている。

第50図 VI-Ⅴ層検出状況図(正面)(1/400)

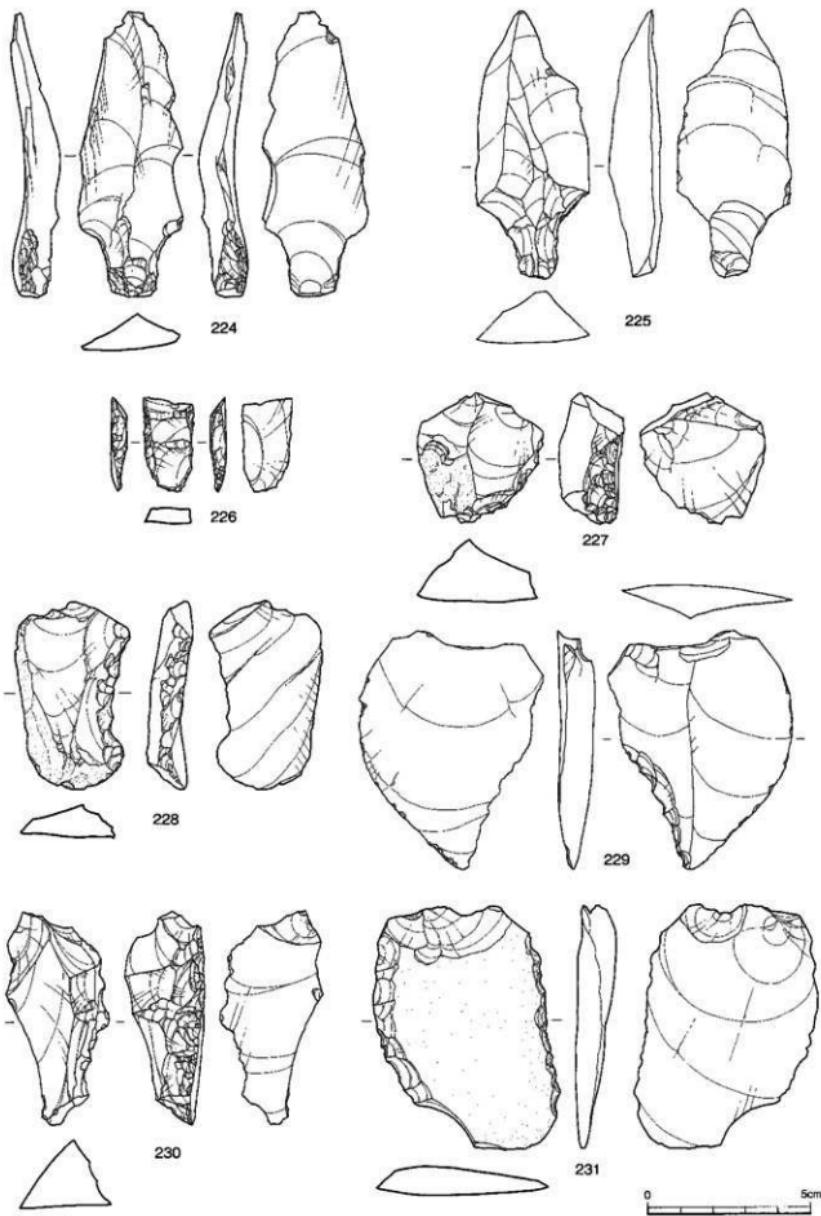




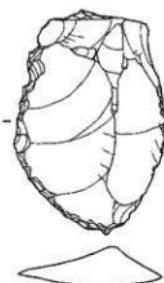
第51図 VI-VII層出土石器①



第52図 VI-VII層出土石器②



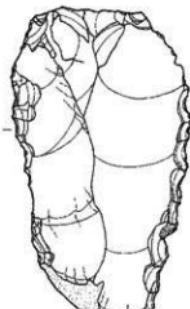
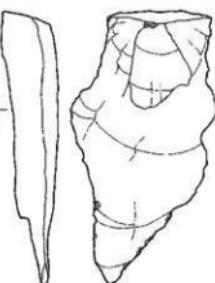
第53図 VI - VII層出土石器③



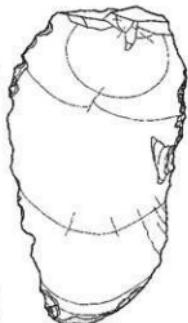
232



233



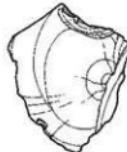
234



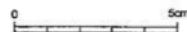
235



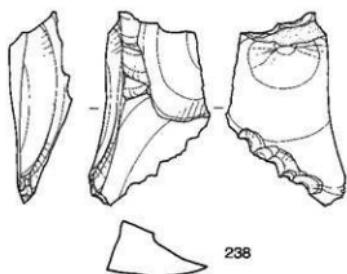
236



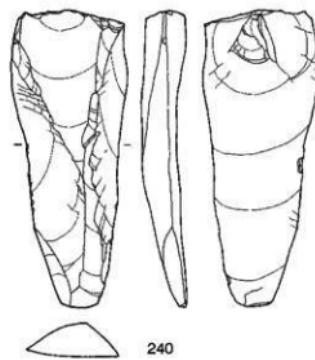
237



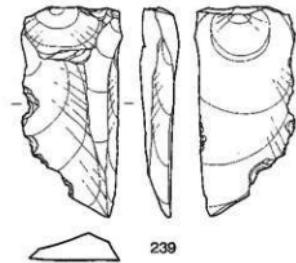
第54図 VI・VII層出土石器④



238



240



239



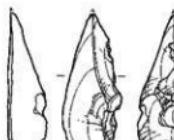
241



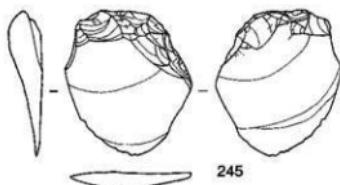
242



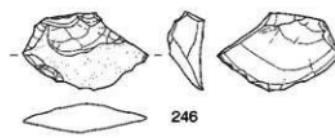
243



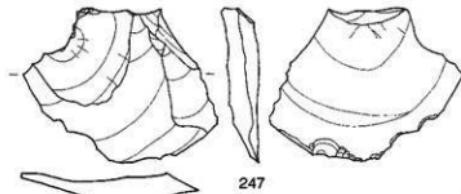
244



245



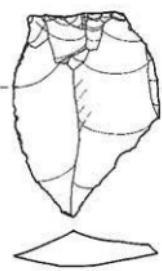
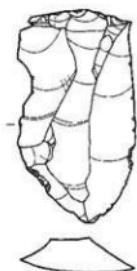
246



247

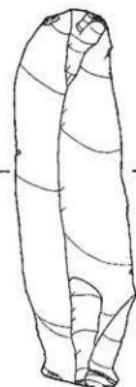


第 55 図 VI - VII 層出土石器(5)



248

249



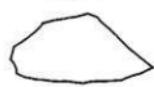
250



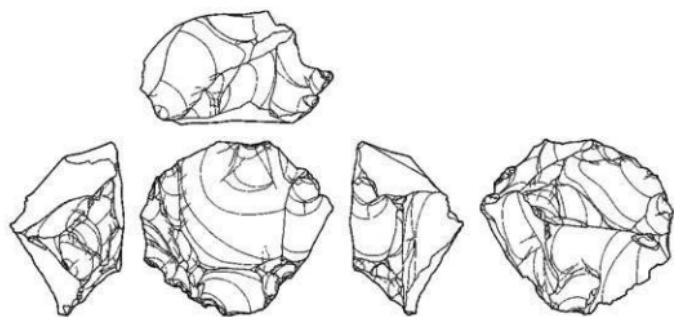
251



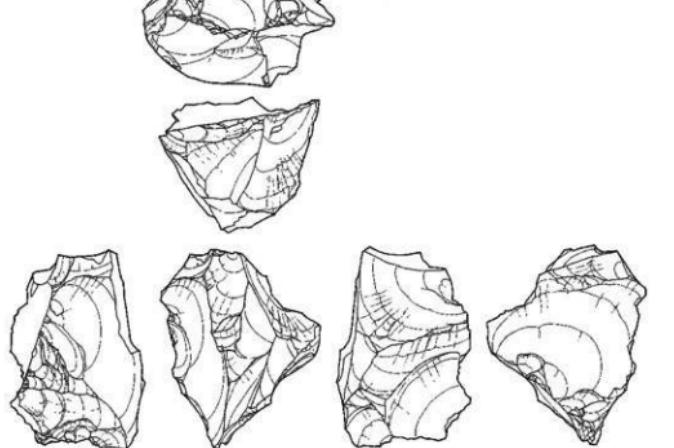
252



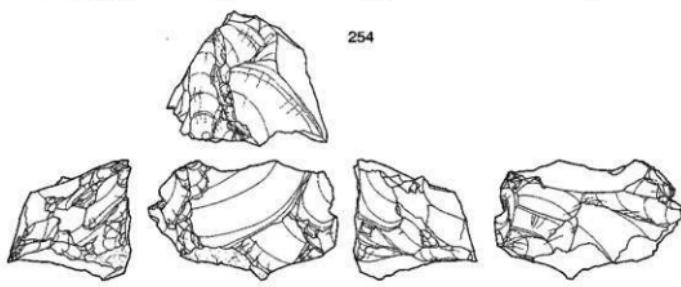
第 56 図 VI - VII 層出土石器⑥



253



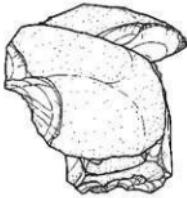
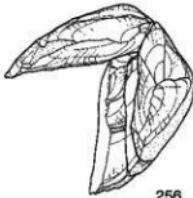
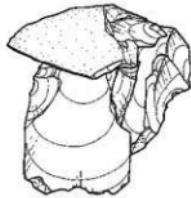
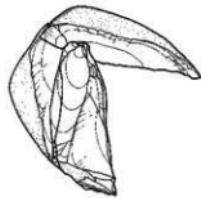
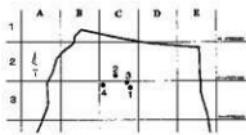
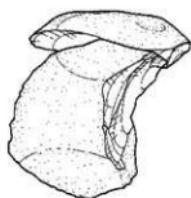
254



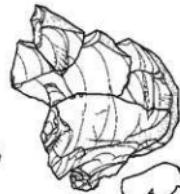
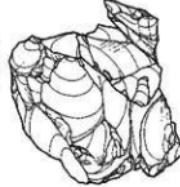
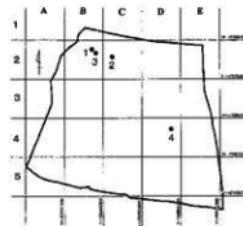
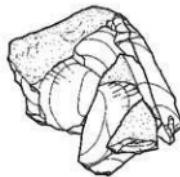
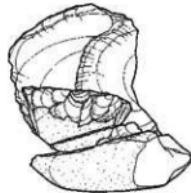
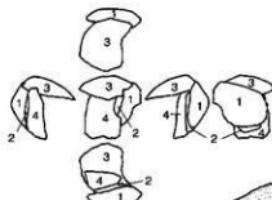
255



第57図 VI-VII層出土石器⑦



256



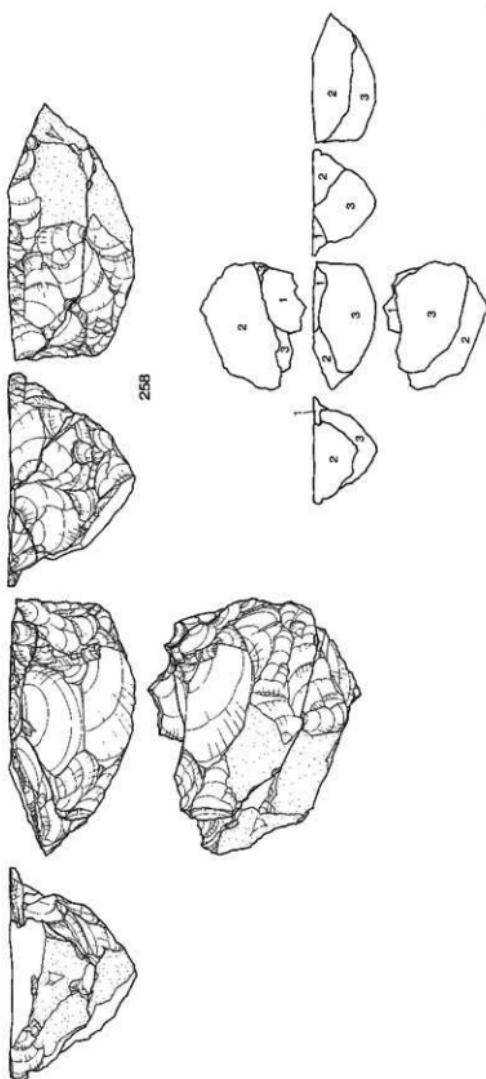
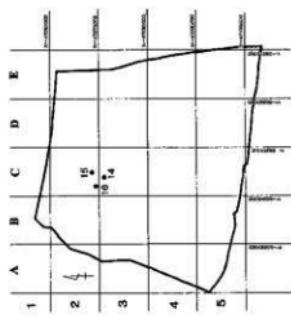
257

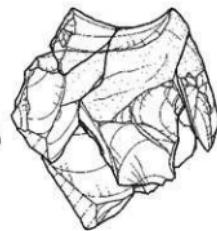
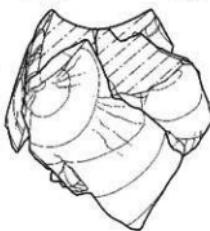
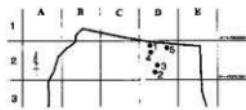
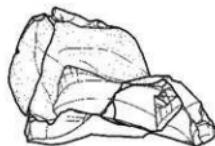


第58図 VI-VII層出土石器⑧

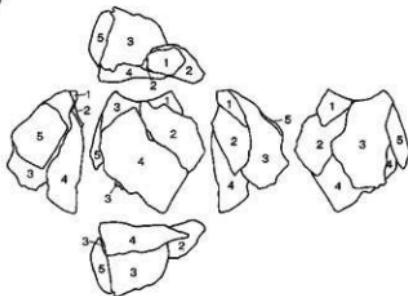
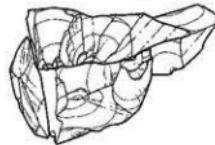
第59圖 VI-VII層出土石器⑨

0 5cm

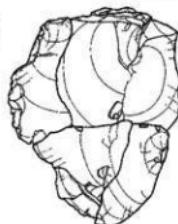




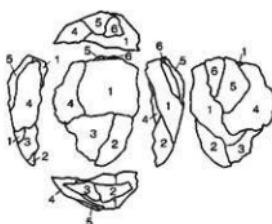
259

 $\frac{1}{G2}$   
 $\frac{1}{G3}$   
1 2  
3 4  
5 6

+ +

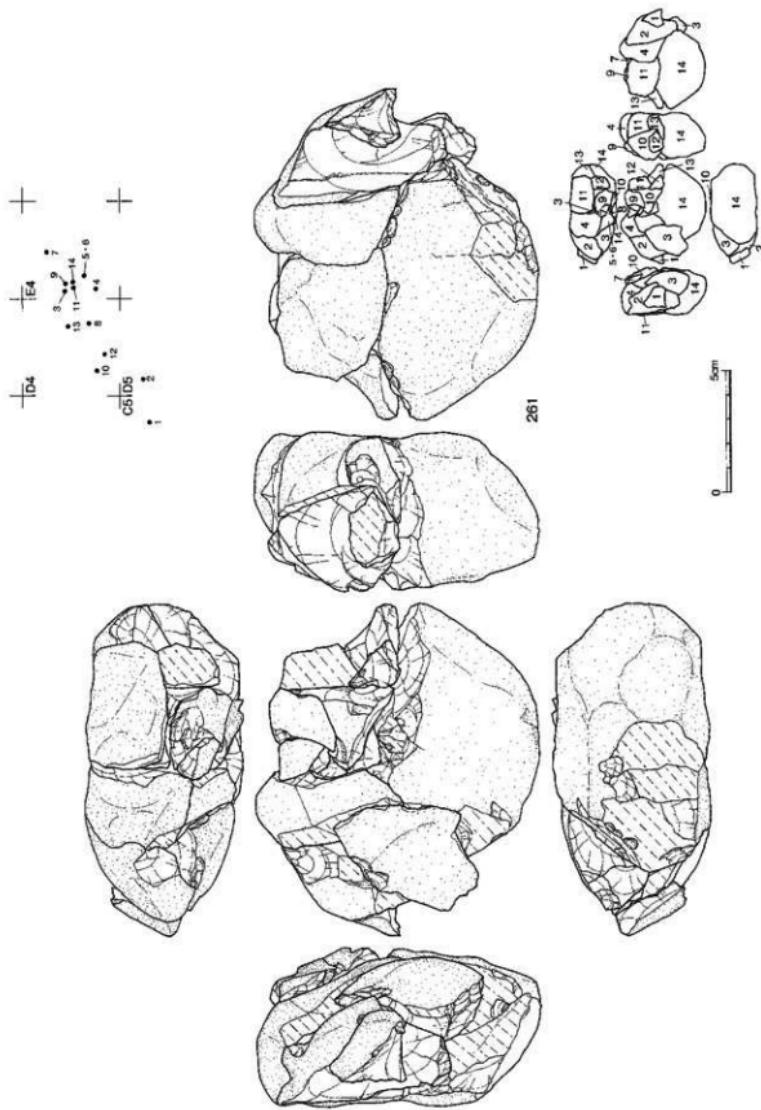


260

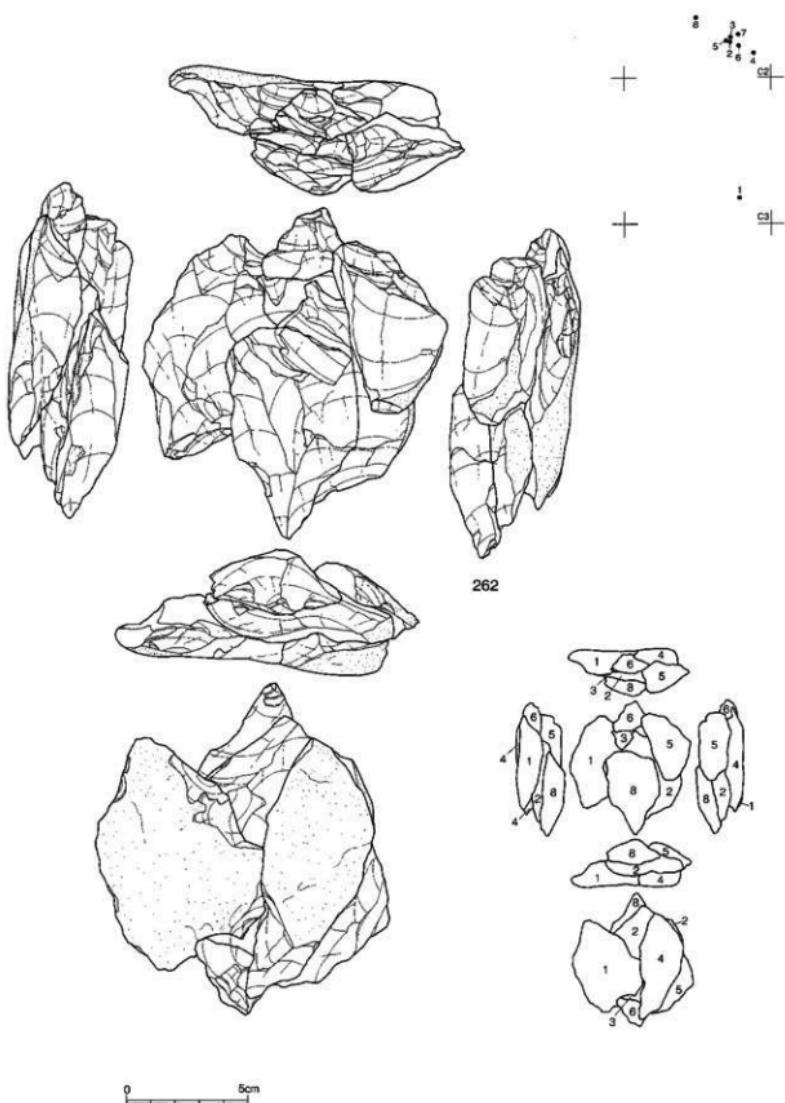


0 5cm

第60図 VI-VII層出土石器⑩



第61図 VI-VII層出土石器⑪



第62図 VI・VII層出土石器(2)

#### (5) 旧石器時代 F 面の調査 (Ⅷ-Ⅹ層) の調査 ··· ナイフ形石器文化 4

第Ⅷ (AT) から AT 直下となるⅨ層からの出土した石器群で、ナイフ形石器を主体とする石器群である。この層位から出土する石器、剥片類の石材には流紋岩類 (R1, R2, R3, R4) が主体として用いられ、一部にチャート、ホルンフェルス、頁岩、石英の使用も少数ながら認められる。

#### ナイフ形石器 (第 64-65 図 263-290)

第 64-65 図 263 から 290 はナイフ形石器である。ナイフ形石器は縦長剥片を利用するものが主体となり、縦長剥片利用のものはさらに、一側縁加工のもの 271, 276, 277, 280, 281, 283, 285、二側縁加工のもの 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 272, 273, 275, 279, 282, 284, 287, 288, 290、一側縁と基部加工を組み合わせたもの 278, 286 がある。

他層出土のナイフと比べて細身で、打面・バルブを除去して先端、基部ともに尖らせる意図が顕著である。代表例は、264, 265, 267, 268, 274, 287 である。266, 288 のように一側縁の二辺の長さを同じにして二等辺三角形状に成形するものがある。289 は、折れた先端の一部を再加工したもので下端の一辺にプランディングが見られる。

この層位から出土したナイフ形石器の完形 20 点の平均長、幅、重量は、それぞれ 3.99cm, 1.46cm, 3.5g である。

#### 搔器 (第 65-66 図 291-302)

291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302 の 12 点は搔器である。291 は、腹面に打面とバルブをのこす不定形剥片の下端部に比較的雑な剥離を施すものである。下端部の潰れは使用痕の可能性がある。292 は、これも打面とバルブをそのままのこす厚形の縦長剥片の下端部に急角度の剥離を施すエンドスクレーバーである。背面に自然面をのこしている。293 は、薄手の幅広な不定形剥片を素材とした搔器で右側縁から下端部にかけて弧状に腹面からの剥離が顕著である。腹面に打面とバルブをのこしている。294 も、右側縁から下端部にかけて弧状に剥離が加えられ、全体に梢円形に整形されている。295 は、不定形剥片の末端部に急角度の剥離がみられる。右側縁は節理面である。296 は、背面に連続的な剥離を加えて円形にちかく整形し、さらに腹面から急角度の剥離を施して成形する円形搔器である。とくに、末端部の調整は腹面からの急角度の剥離となる。この資料では、打面にも剥離痕が観察される。297 は、296 に似るが、打面に調整を行わない。下端部に弧状に剥離が並ぶエンドスクレーバーで分厚い剥片を素材としている。298 は、縦長剥片の末端部に細かな剥離がみられる典型的なエンドスクレーバーである。299 は、297 に似る蛤貝状のスクレーバーである。末端部の刃部調整が他と異なっており、299 は剥離を背面と腹面の両面から相互に加えて刃部を作出している。300, 301 は、縦長剥片を折り取って出来た端部の一辺を、腹面から急角度の剥離を加えて刃部としたものである。よって、刃部は直線刃となる。302 は、蛤貝状のスクレーバーである。背面に自然面をほとんどのこしており端部に腹面からの最小限の剥離で止めている。

#### 削器 (第 66-67 図 303-308)

303, 304, 305, 306, 307, 308 の 6 点は削器である。304 は、不定剥片を素材とするもので上端の一

刃が刃部となる。背面に自然面をのこし、腹面のバルブ下にも背面からの粗い剥離がみられる。306、307は、縦長剥片を折りとてスクリーパーとしたものである。308は大型の縦長剥片を素材としたもので両側縁の中央付近に背面から施された剥離が見られる。また、末端の一部には腹面からの急角度の剥離痕がありエンドスクリーパーとしても使用された可能性がある。

#### 敲石（第 67 図 309）

309は、折損した砂岩製の長円砾で、下端部に打撃によって縱割れした剥離痕がのこる。

#### 二次加工剥片（第 67-68 図 310-316）

310、311、312、313、314、315、316は、二次加工のある剥片である。310、311は水晶製の小型剥片で310は左側縁、311には両側縁と基部付近に微細な加工がみられる。312、313は石核から調整剥離された分厚い剥片で背面に剥離痕をのこす。313は下端に自然砾面をもつ。314、315、316は腹面に打面とバルブのある縦長剥片を利用している。

#### 石核（第 68-69 図 317-320）

317、318、319、320は石核である。

318は、単打面の石核で、周縁に短い剥片を作出した痕跡がのこる。また、周縁の部は自然砾面となっている。319は、自然砾面をのこす剥片石核で、自然砾面と対向する面に不定剥片を作出した痕がのこる。320は、数カ所の平坦打面を有して多方向から幅広の剥片を剥いだ痕のこる石核で、母材の自然砾面を全くのこさず多面体形に成っている大人の拳大の石核である。

#### 接合資料（第 70-72 図）

##### 接合資料 321

剥片 9 点からなる大人の拳大の円砾を母材とする接合資料でⅧ層下位の出土である。表皮剥ぎの過程で生じた調整剥片が接合したものであるが、表皮からの打撃過程で生じた平坦打面から直接良形の剥片の獲得を意図したと思われる剥離痕がのこる大破片が観察できる資料である。石材は良質の灰色系流紋岩で、5D 区において 2 m 範囲に集中して出土している。

##### 接合資料 322

剥片 4 点、石核 1 点、計 5 点からなる接合資料でⅧ層下位の出土である。現状は幼児の拳大を呈し、自然面が無いほど調整された状態である。表皮を剥いだ後に、上面及び下面を打削して平坦面を作り出している。上面には打面再生を行った痕跡がみられ、更新された打面で再び剥離が続けられている。石核の側面には少なくとも 6 点の剥片を作出した痕跡を残している。出土地点は 4D 区で、4 m 範囲に集中している。

##### 接合資料 323

調整剥片 2 点、石核 1 点、計 3 点からなる母材が大人の拳大より一回り小さな円砾となる接合資料で

VII層下位から出土している。剥片2点は表皮剥ぎ作業の過程で生じた調整剥片で自然面が残る。石核には打面を転位しながら幅広の不定形剥片を次々に剥離したあとが全面にのこっている。石材は、節理面の無い良質の灰色系流紋岩である。出土地点は4D区で、2m範囲に集中している。

#### 接合資料324

石核1点、剥片2点、計3点からなる乳児の拳大の接合資料でVII層上位から下位出土である。出土地点は4D区で、1m範囲に集中している。石核は、打面の再生、転位を繰り返しており全面にわざって剥ぎ取られた痕跡が残っている。残核の現状は角柱状を呈している。石材は良質の灰色系流紋岩である。

#### 接合資料325

調整剥片4点、二次加工のある剥片1点が接合した推定原型が大人の拳大の円礫を母材とする資料である。検出自然面をのこす調整剥片のほか、二側縁に両面剥離の鋸歯状加工がみられる剥片1点が接合している。出土地点は4D区で、3m範囲に集中している。石材は良質の灰色系流紋岩である。

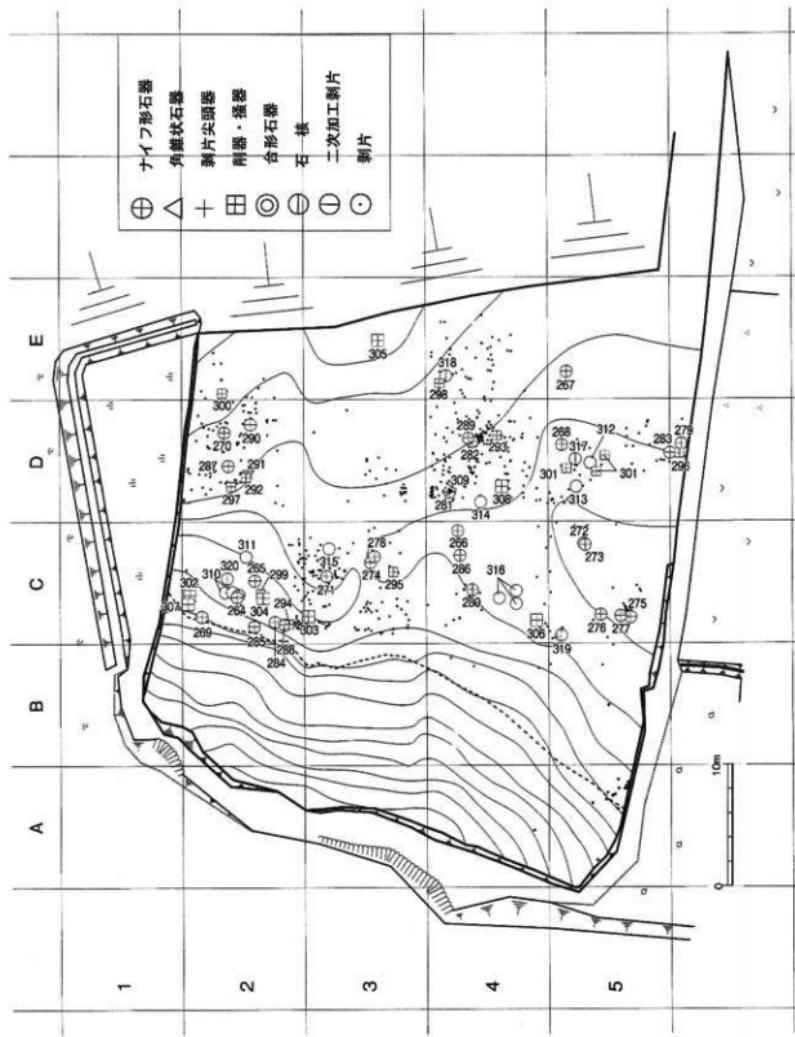
#### 接合資料326

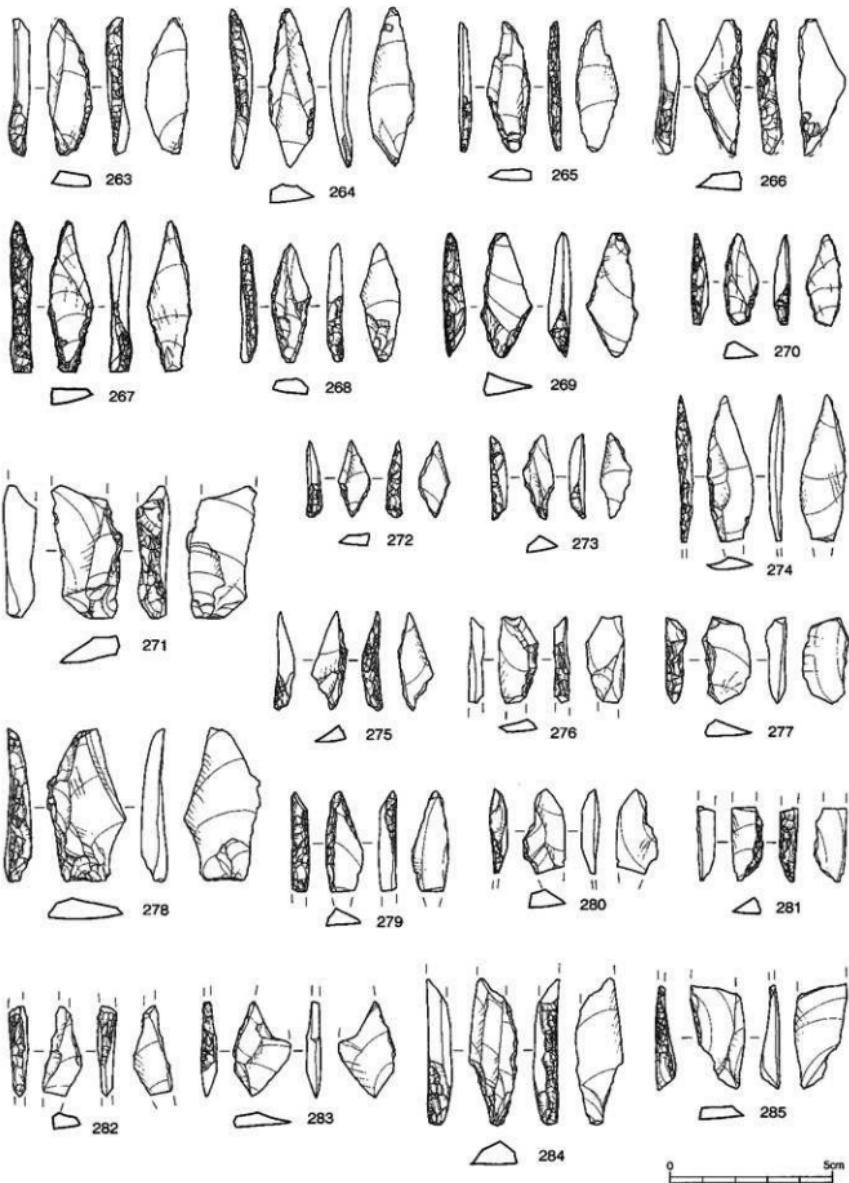
剥片9点からなる母岩が大人の拳大ほどになると推定される接合資料で、いずれもVII5（VII層下位）から出土している。出土地点はC5区で、6m範囲に集中している。母材を半截した後に得られた平坦面を打面として剥ぎ取られた剥片が、その石核の輪郭に沿って弧状に接合するものである。石核本体は欠落している。剥ぎ取られた剥片は比較的幅の広い木葉状を呈している。石材は良質の流紋岩である。

#### 接合資料327

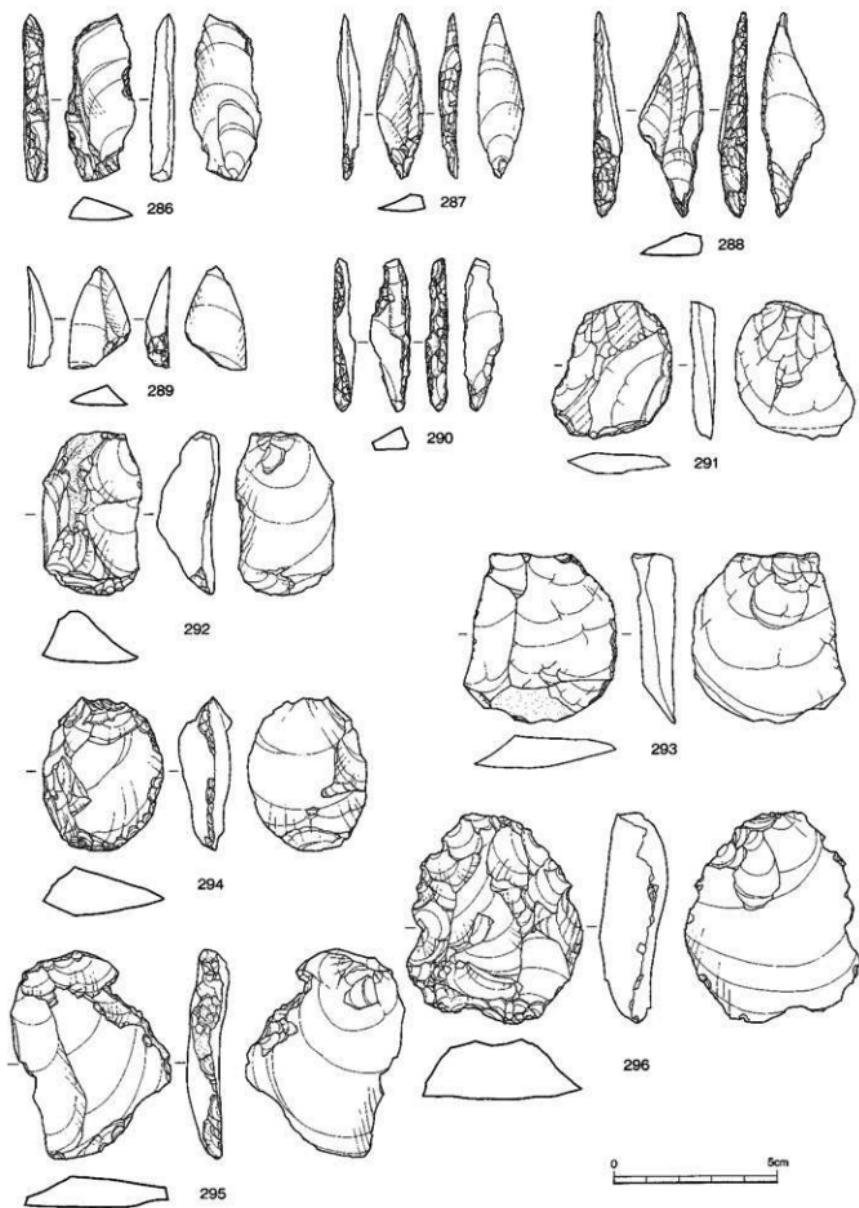
縦方向に連続して剥ぎ取られた継長剥片4点が接合したもので、いずれもVII5（VII層下位）から出土している。長さ4-4.5cmを計る。連続して比較的に薄く剥ぎ取られており、製作者の意図どおりの結果であったことが察せられる。石材は灰色系の良質な流紋岩である。出土地点は5C区で、ほとんどが1m範囲に集中、最大でも2m内に分布している。

第63図 M・K層検出状況図(下面)(1/400)

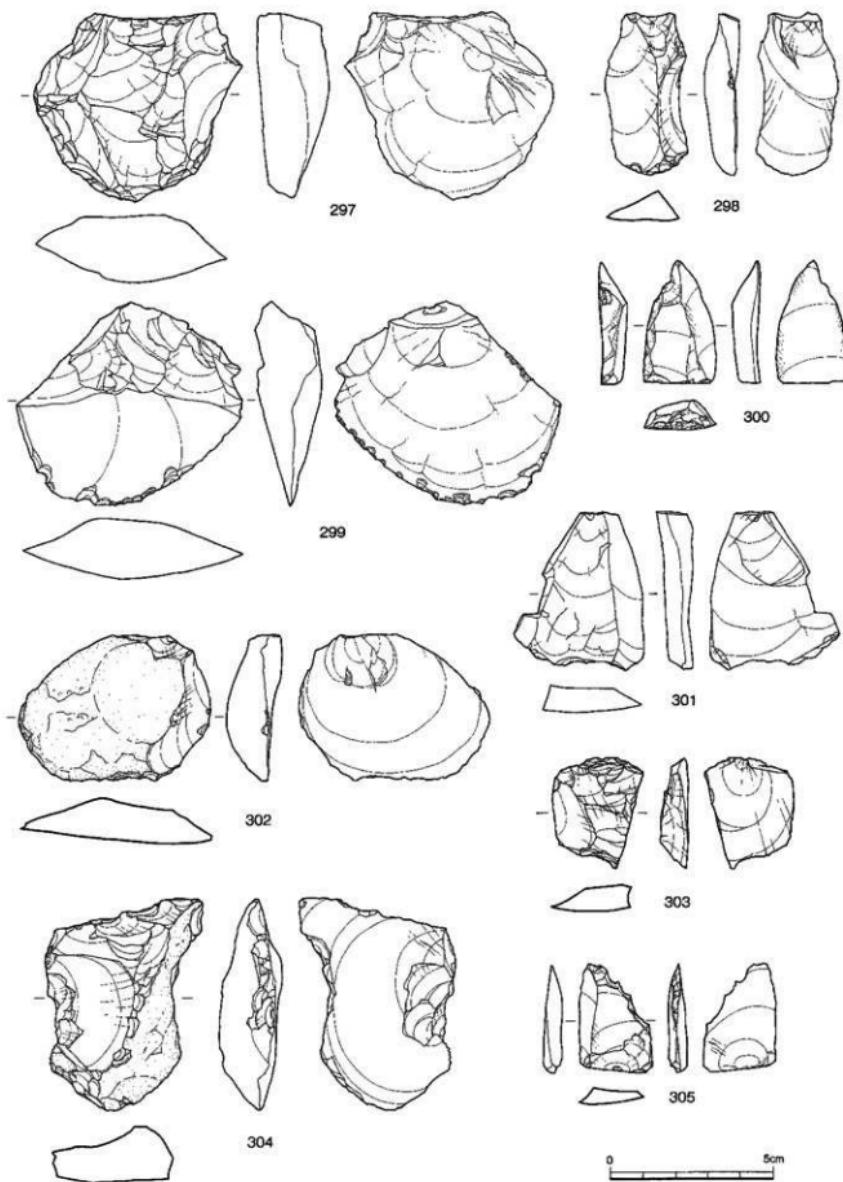




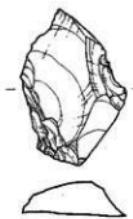
第64図 VII-X層出土石器①



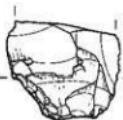
第65図 VII-X層出土石器②



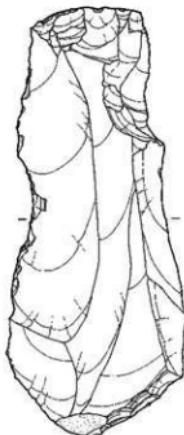
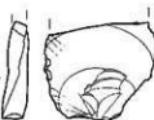
第66図 VII-X層出土石器③



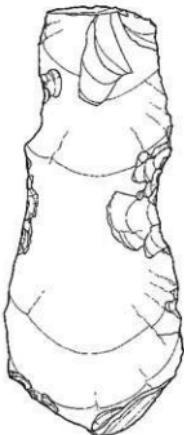
306



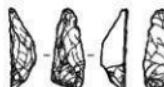
307



308



309



311



310



312



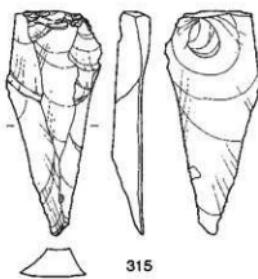
313



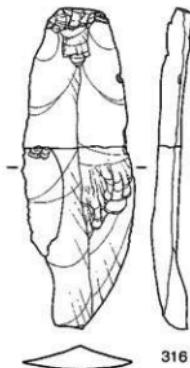
第67図 VII-X層出土石器④



314



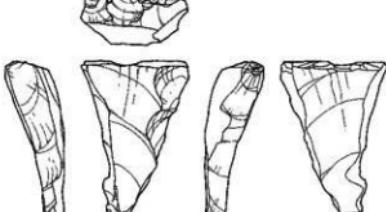
315



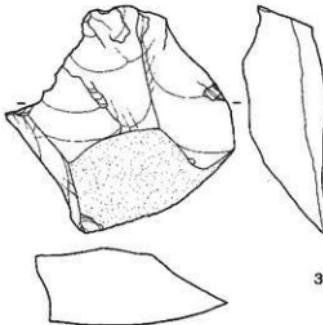
316



317



318

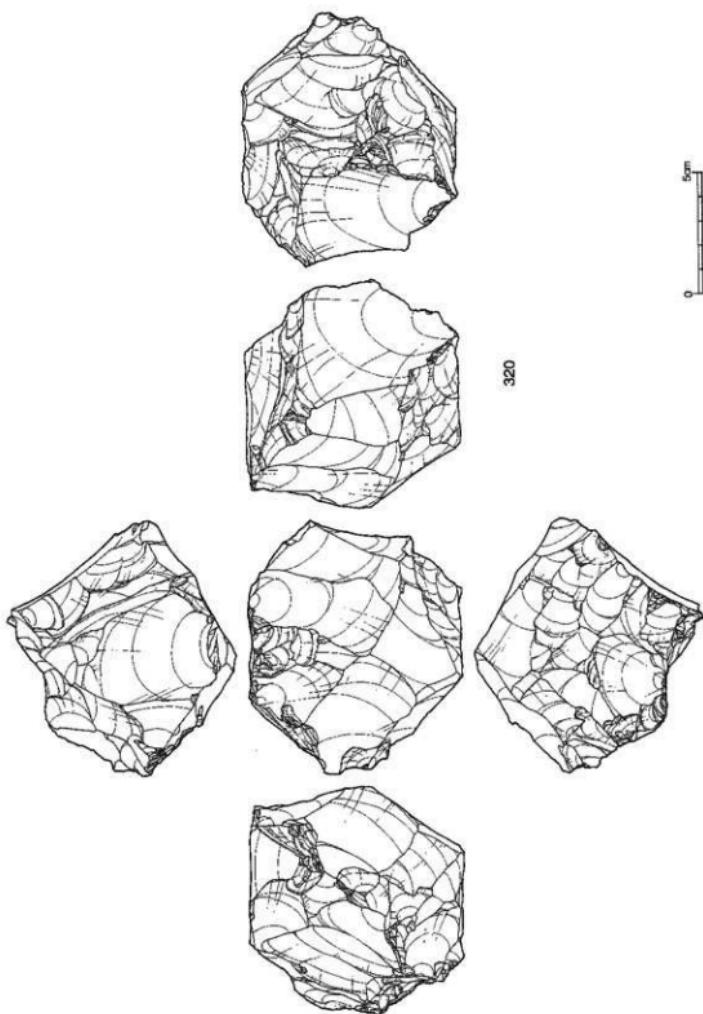


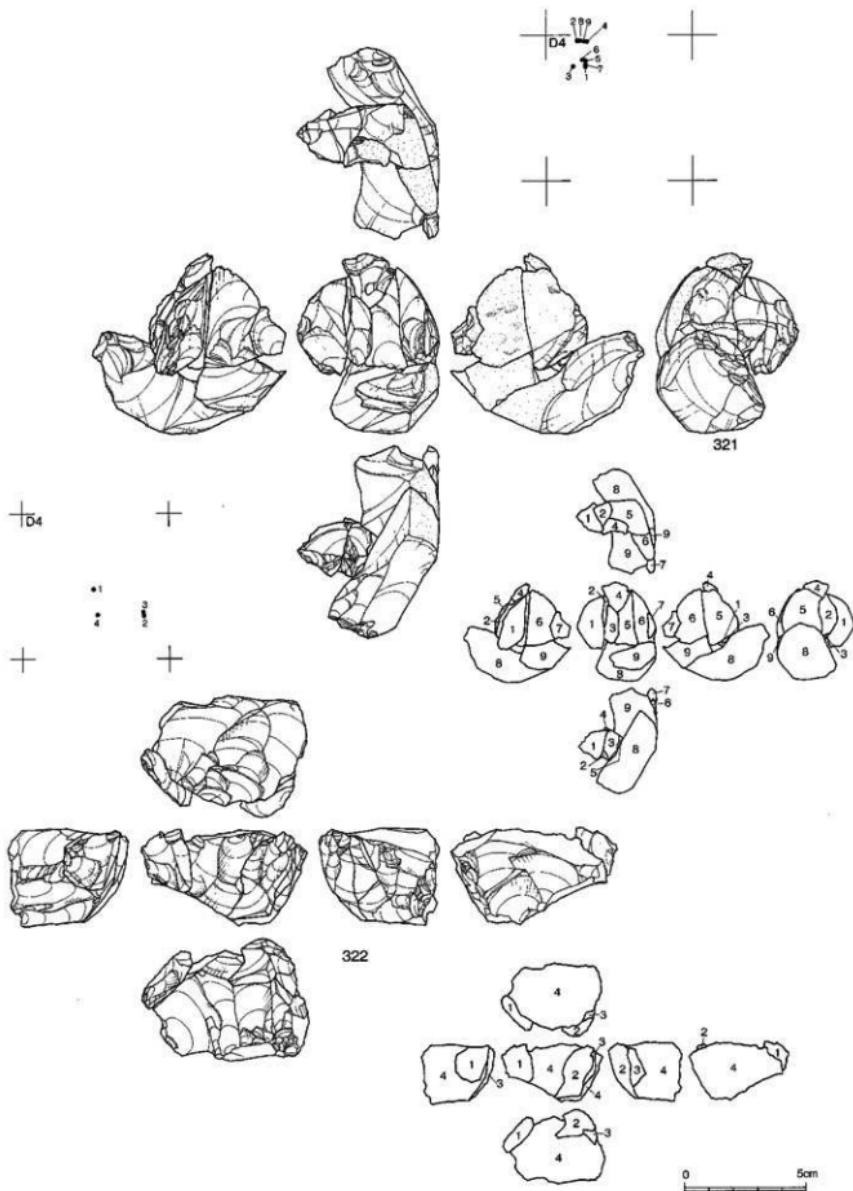
319



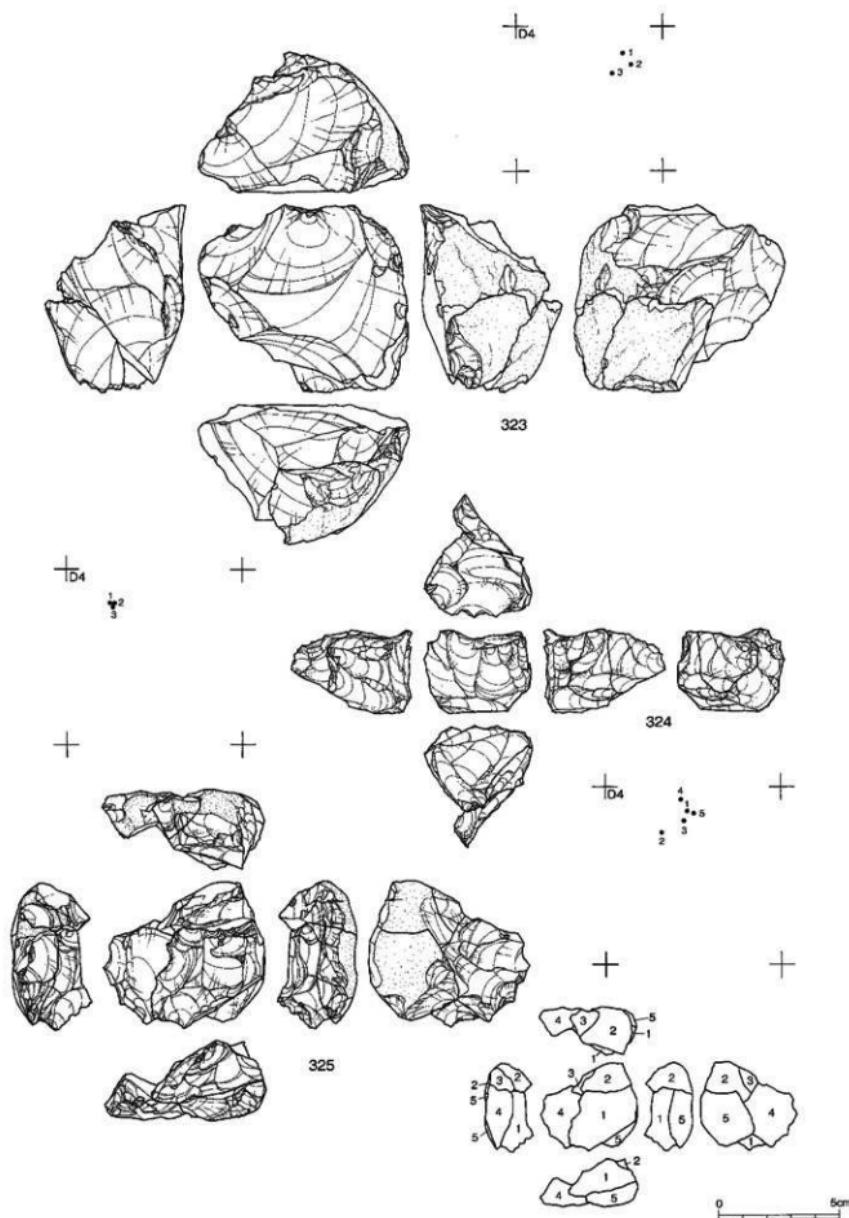
第68図 Ⅷ-X層出土石器⑤

第69圖 VII・K層出土石器⑥

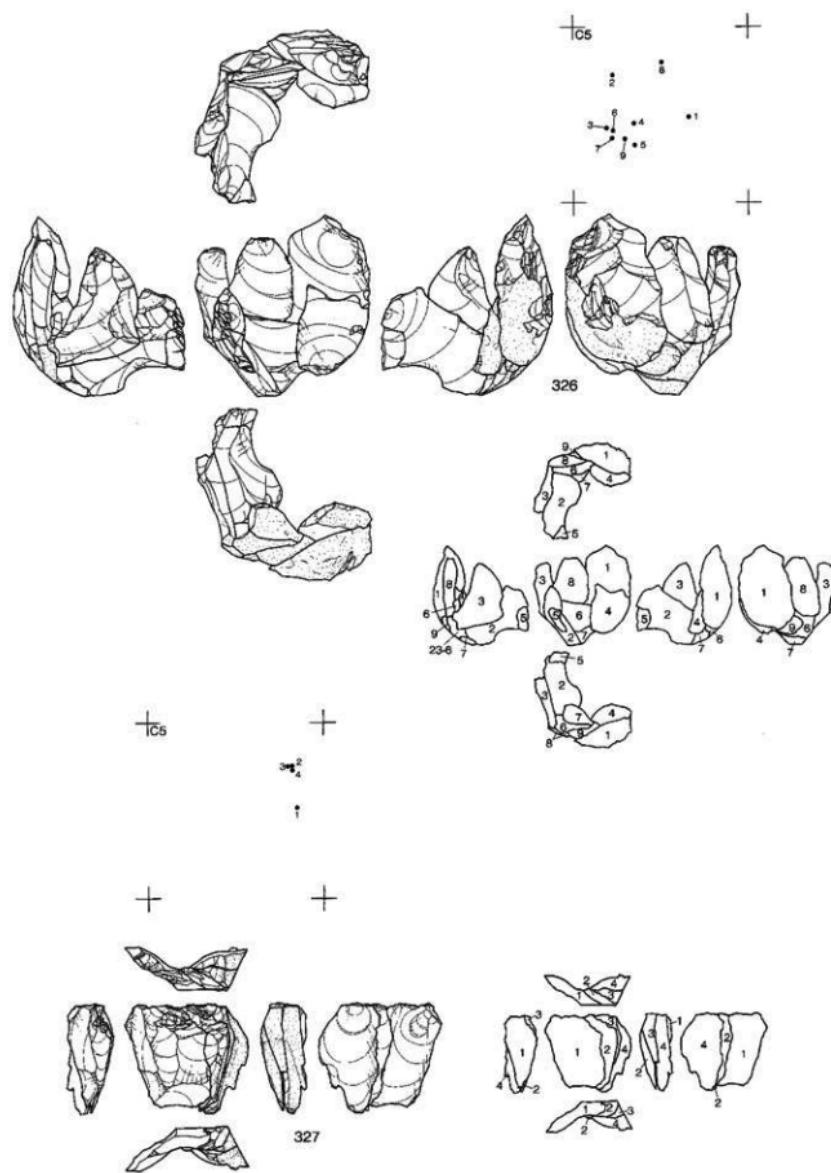




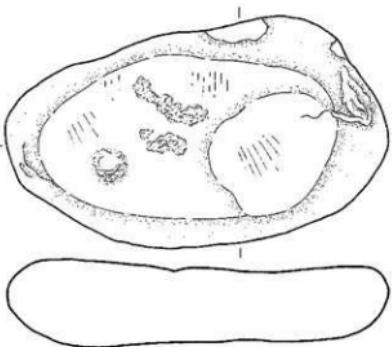
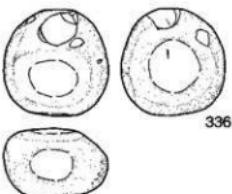
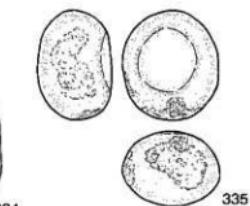
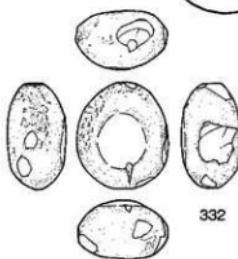
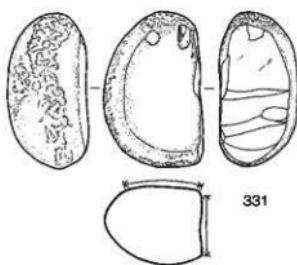
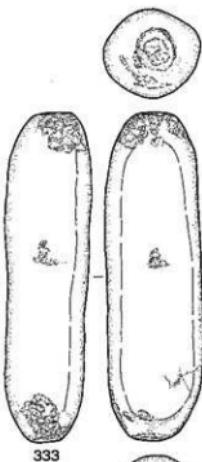
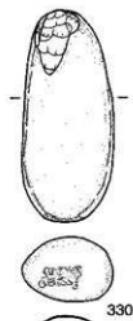
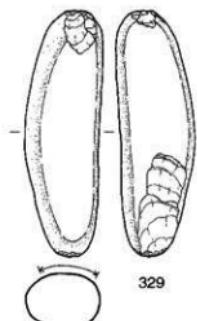
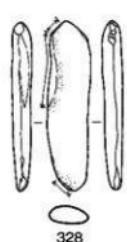
第70図 VII-IX層出土石器⑦



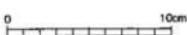
第71図 VII-X層出土石器⑧



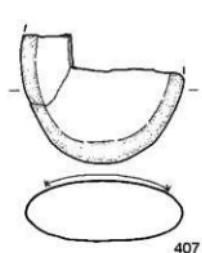
第72図 VII-VIII層出土石器⑨



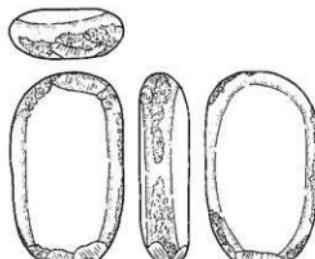
337



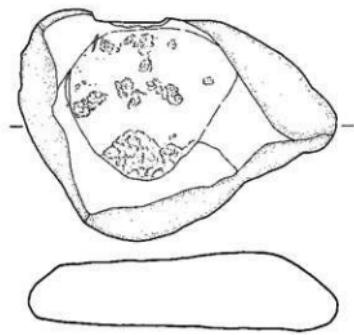
第73図 V.VI.VII層出土石器（敲石・磨石・台石）



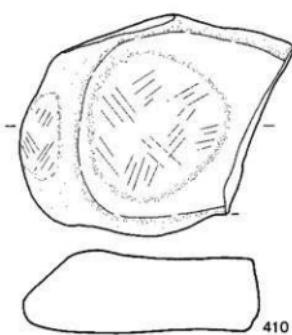
407



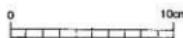
408



409



410



第74図 V, VI, VII層出土石器（磨石・台石）

第4表 赤木一次遺跡出土旧石器計測表

件番号	実測番号	朝位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
1	210	V1	C4	1147	細石刃	(2.25)	0.85	0.30	0.40	R1	
2	209	IV	C5	1037	細石刃	1.70	0.75	0.25	0.30	R1	
3	205	IV	D5	1669	細石刃核	1.20	1.65	1.95	3.30	Ob	
4	206	V1	C2	5424	細石刃核	2.75	2.60	2.10	13.40	R1	
5	208	V4	C5	649	細石刃核	1.50	3.05	1.35	5.50	R1	
6	207	V4	B4	397	細石刃核	2.25	3.20	3.45	21.40	R1	
7	203	IV	B3	1605	細石刃核	1.90	2.60	5.00	20.90	R1	
8	204	V4	C3	2134	細石刃核	4.85	4.20	8.00	155.20	R1	
9	202	V1	C4	1705	細石刃核	4.75	12.10	3.05	187.50	R1	
10	130	V4	C2	2673	細石刃核	4.90	2.30	1.85	19.80	R1	
11	545	V1・V1.5	C4・B4	1121・1140・412	接合資料剥片	6.20	5.20	3.60	104.00	R1	接合資料
12	544	V5・V4	B4	396・404	接合資料剥片	4.95	5.45	3.55	103.50	R1	接合資料
13	149	V2	D2	4130	尖頭器	7.30	3.45	0.95	24.30	R1	
14	4	V4	D5	1247	ナイフ形石器	6.00	1.75	0.90	7.90	R1	
15	5	V4	D5	1360	ナイフ形石器	5.05	2.00	0.80	7.30	R1	
16	69	V2	D2	4138	ナイフ形石器	4.80	1.90	0.95	9.00	R4	
17	66	IV	B3	1592	ナイフ形石器	3.90	1.25	0.60	2.40	R1	
18	28	V2	E4	3748	ナイフ形石器	(3.20)	1.25	0.65	2.10	R1	
19	33	V1.2	D5	1341	ナイフ形石器	(3.40)	2.10	0.65	3.80	R1	
20	65	IV	C5	1039	ナイフ形石器	3.40	1.80	0.85	4.20	R1	
21	31	V4	C3	2152	ナイフ形石器	(3.10)	1.45	0.70	2.30	R1	
22	32	V4	D2	4725	ナイフ形石器	(3.00)	1.80	0.65	3.70	R2	
23	34	V1.2	D4	3443	ナイフ形石器	(3.00)	1.75	0.75	2.80	R4	
24	29	V4	C4	1752	ナイフ形石器	2.20	1.40	0.65	1.80	R1	
25	78	V1.2	D4	3444	ナイフ形石器	4.70	1.85	0.65	4.30	R1	
26	68	V2	C3	2097	ナイフ形石器	(4.10)	1.80	0.80	6.20	R2	
27	67	V1	C5	739	ナイフ形石器	3.50	1.60	0.80	4.30	R2	
28	164	V1	C5	753	ナイフ形石器	4.95	3.00	1.10	12.60	R1	
29	79	V1.2	D4	3445	ナイフ形石器	2.35	1.00	0.50	0.90	R4	
30	146	V1	D2	5303	ナイフ形石器	4.85	1.80	0.75	6.00	R2	
31	27	V1	D5	1193	ナイフ形石器	3.25	1.60	0.80	4.10	R1	
32	145	V4	D2	4158	ナイフ形石器	4.65	1.95	1.15	8.80	R2	
33	123	V2	C4	2431	ナイフ形石器	5.15	1.55	1.15	7.00	R2	
34	26	V1	D5	1173	ナイフ形石器	3.95	1.80	1.10	7.30	R4	220と接合
35	30	V4	C3	2139	ナイフ形石器	(4.20)	1.45	1.00	6.50	R1	
36	139	V1	C5	1529	ナイフ形石器	4.35	1.35	1.00	4.80	R1	
37	136	V1	C5	762	角彎状石器	4.50	2.40	1.35	10.60	R1	
38	135	V1	C5	719	角彎状石器	4.00	1.60	1.25	5.30	R1	
39	199	V4	D5	1666	刮削器	3.90	3.00	1.35	16.80	R1	200・201と接合
40	193	V1	C4	1130	刮削器	6.10	2.10	1.20	13.00	R1	
41	167	V2	C3	2140	刮削器	3.25	4.65	1.45	20.40	R1	
42	192	V2	D3	3786	刮削器	5.25	5.10	1.50	39.60	R1	
43	547	V4	C2	3027	刮削器	7.65	4.50	1.20	49.80	R1	
44	171	V1	C5	641	刮削器	7.70	5.10	1.65	61.20	R1	
45	201	V4	D5	1266	剥片	2.65	1.55	0.75	1.70	R1	199・200と接合
46	3	V1	E3	1920	剥片	5.20	2.60	1.10	15.70	R1	
47	2	V1	C5	1528	剥片	(6.20)	3.00	1.55	24.60	R2	
48	546	V1	C4	1134	剥片	6.80	2.70	1.10	20.20	R1	
49	556	IV	B5	182	剥片	6.95	7.20	1.00	30.20	R1	
50	554	IV	D5	1639	剥片	7.00	3.95	1.35	34.10	R1	
51	575	V4	B3	1614	剥片	5.25	4.40	1.35	22.50	R1	
52	576	V4	E5	3095	剥片	11.05	5.60	3.00	143.90	R1	
53	220	V1	D5	1182	石核	4.95	2.30	2.10	21.40	R4	26と接合
54	342	V2	C4	1765	接合資料剥片	9.25	4.99	2.18	73.20	R1	接合資料54-1
	343	V2	C4	1724	接合資料剥片	6.82	4.35	1.68	43.20	R1	接合資料54-2
	344	IV	C4	1695	接合資料剥片	2.18	2.27	0.63	3.00	R1	接合資料54-3
	345	V4	C4	1769	接合資料剥片	5.60	4.47	1.30	28.60	R1	接合資料54-4
	346	V5	C4	1781	接合資料剥片	6.76	5.90	1.91	70.90	R1	接合資料54-5
55	347	V1.5	C4	1837	接合資料剥片	4.60	3.49	0.86	12.70	R1	接合資料54-6
	348	V2	C4	2050	接合資料剥片	9.33	8.52	5.11	349.40	R1	接合資料54-7
	349	V1.5	C4	2015	接合資料剥片	5.47	3.23	1.35	17.60	R1	接合資料54-8
	417	V1	D5	1188	接合資料剥片	4.66	3.86	1.58	34.90	R2	接合資料55-1
	418	V4	D5	1248	接合資料剥片	3.09	1.54	0.34	1.60	R2	接合資料55-2
56	419	V4	D5	1241	接合資料剥片	5.06	3.63	1.73	23.60	R2	接合資料55-3
	420	V1.5	C5	977	接合資料剥片	2.70	1.46	0.58	2.20	R2	接合資料55-4
	421	IV	C4	1783	接合資料剥片	3.01	1.51	0.83	3.40	R2	接合資料55-5
	422	V2	C4	1719	接合資料剥片	2.79	1.94	0.88	4.70	R2	接合資料55-6
	436	IV	B3	1570	接合資料剥片	4.59	2.66	2.41	24.30	R1	接合資料56-1
57	437	V2	C5	795	接合資料剥片	3.70	2.01	0.98	7.40	R1	接合資料56-2
	56	438	V4	C5	1514	接合資料剥片	3.81	1.83	0.67	3.70	R1

組合番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
56	439	V 4	C5	725	複合資料調片	6.27	5.36	3.01	67.10	R1	複合資料 56 - 4
	440	V1	C5	715	複合資料調片	5.92	2.77	1.80	29.30	R1	複合資料 56 - 5
57	397	V1	C4	1696	複合資料調片	5.15	5.40	4.80	147.30	R2	複合資料 57 - 1
	398	V2	C4	1732	複合資料調片	5.05	3.05	1.60	21.60	R2	複合資料 57 - 2
	399	V5	B5	38	複合資料調片	5.00	3.10	1.30	15.80	R2	複合資料 57 - 3
58	377	V 5	C5	1547	複合資料調片	5.55	4.56	1.98	37.50	Ch	複合資料 58 - 1
	378	W 5	C5	690	複合資料調片	5.26	4.69	2.24	62.30	Ch	複合資料 58 - 2
	379	V 5	B5	2	複合資料調片	3.71	3.69	1.38	16.10	Ch	複合資料 58 - 3
	380	V・VI	C5	1543	複合資料調片	2.96	2.81	0.84	8.50	Ch	複合資料 58 - 4
	381	V4	C5	935	複合資料調片	3.32	1.79	0.93	3.90	Ch	複合資料 58 - 5
	382	V5	C5	936	複合資料調片	1.45	1.32	0.29	0.50	Ch	複合資料 58 - 6
	383	V5	B5	15	複合資料調片	4.54	2.88	1.44	15.10	Ch	複合資料 58 - 7
	384	IV	D5	1652	複合資料調片	3.33	1.60	0.92	3.20	Ch	複合資料 58 - 8
	385	V 5	B5	100	複合資料調片	2.68	2.46	0.91	4.80	Ch	複合資料 58 - 9
	386	V 5	C5	1016	複合資料調片	5.78	5.04	2.58	65.30	Ch	複合資料 58 - 10
	387	V・VI	C5	1538	複合資料調片	4.48	2.10	1.19	9.30	Ch	複合資料 58 - 11
	388	V 5	C5	1545	複合資料調片	3.68	2.85	0.10	9.20	Ch	複合資料 58 - 12
	389	V4	C5	654	複合資料調片	3.57	3.79	1.23	13.00	Ch	複合資料 58 - 13
	364	V5	D5	1264	複合資料調片	6.52	3.23	2.09	30.50	R1	複合資料 59 - 1
	365	V5	D5	1371	複合資料調片	5.44	3.68	1.55	21.40	R1	複合資料 59 - 2
	366	V4	D5	1243	複合資料調片	6.98	5.56	1.64	31.10	R1	複合資料 59 - 3
	367	V 4	C5	1052	複合資料調片	8.55	7.51	3.35	154.80	R1	複合資料 59 - 4
	368	V・VI	C5	954	複合資料調片	6.54	4.71	1.07	26.60	R1	複合資料 59 - 5
	369	V・VI	C5	914	複合資料調片	6.20	3.07	1.25	20.40	R1	複合資料 59 - 6
	370	V・VI	C5	882	複合資料調片	5.40	2.49	0.89	12.40	R1	複合資料 59 - 7
	371	V4	D5	1235	複合資料調片	4.64	2.94	1.18	15.00	R1	複合資料 59 - 8
60	9	V5	C3	2163	ナイフ形石器	5.45	1.85	0.95	9.30	R1	
61	12	V・VI	C3	3346	ナイフ形石器	(5.90)	2.45	0.80	9.70	R1	
62	13	V 4	B5	89	ナイフ形石器	(5.20)	2.10	1.15	8.50	R1	
63	14	V 4	C3	2229	ナイフ形石器	6.05	2.25	0.90	10.10	R2	
64	18	V 5	C4	3289	ナイフ形石器	(5.00)	1.90	1.10	8.20	R1	
65	75	V・VI	B3	1635	ナイフ形石器	(4.45)	1.90	0.75	6.00	R1	
66	82	V 4	C2	2734	ナイフ形石器	4.90	2.55	0.90	7.80	R1	
67	92	V 5	B3	1582	ナイフ形石器	4.35	1.30	0.70	3.40	R1	
68	81	V 4	C4	1821	ナイフ形石器	3.55	1.95	0.50	3.20	R1	
69	40	V 5	C4	1858	ナイフ形石器	3.00	1.60	0.80	2.70	R2	
70	555	V5	B3	505	ナイフ形石器	5.90	2.50	1.75	20.50	R1	
71	35	V 4	D4	3713	ナイフ形石器	(3.30)	1.80	1.10	6.10	R4	
72	72	V5	B3	585	ナイフ形石器	3.40	(1.10)	0.60	1.80	R1	
73	70	V5	B5	57	ナイフ形石器	3.60	2.10	1.00	6.10	R1	
74	87	V 4	F2	4894	ナイフ形石器	4.60	1.30	0.80	2.80	R1	
75	39	V 5	B3	1579	ナイフ形石器	2.30	1.15	0.55	1.10	R1	
76	89	V 5	C5	687	ナイフ形石器	3.45	1.50	0.75	2.80	R2	
77	88	V 5	B5	633	ナイフ形石器	3.80	2.60	1.00	9.20	R1	
78	10	V・VI	C5	899	ナイフ形石器	(7.15)	3.20	1.15	20.30	R1	
79	15	V 4	F2	4896	ナイフ形石器	4.92	3.50	1.30	18.60	R1	
80	16	V 5	B5	87	ナイフ形石器	7.10	3.00	1.00	17.20	R1	
81	156	V 5	B5	228	ナイフ形石器	4.95	2.75	1.20	12.50	R1	
82	90	V 5	C5	1048	ナイフ形石器	4.20	2.65	0.95	8.50	R1	
83	86	V 4	D2	4780	ナイフ形石器	4.00	2.05	0.80	6.10	R2	
84	8	V5	B3	473	ナイフ形石器	6.80	3.00	1.00	19.20	H1	
85	7	V5	B5	81	ナイフ形石器	(5.35)	2.85	1.00	14.30	R1	
86	73	V5	D5	1456	ナイフ形石器	(3.40)	2.00	0.45	2.90	R1	
87	6	V5	B5	17	ナイフ形石器	(6.60)	3.00	1.20	17.30	R2	
88	11	V・VI	C2	2691	ナイフ形石器	(5.60)	3.25	0.85	11.50	R1	
89	17	V 5	C5	1537	ナイフ形石器	5.65	3.10	1.05	11.80	R2	
90	124	V 4	C2	3204	ナイフ形石器	5.50	1.80	1.20	8.00	R1	
91	125	V 4	B3	491	ナイフ形石器	(3.35)	1.45	1.35	6.20	R2	
92	129	V 5	C4	1819	ナイフ形石器	4.85	1.35	1.05	6.60	R4	
93	131	V 4	C2	3200	ナイフ形石器	(4.35)	1.45	0.95	5.30	R2	
94	140	V・VI	C5	2411	ナイフ形石器	4.70	1.55	1.10	6.20	R2	
95	142	V 4	C5	2416	ナイフ形石器	4.90	1.40	1.00	5.80	R4	
96	143	V 4	C2	2768	ナイフ形石器	4.40	1.60	1.15	5.70	R1	
97	94	V 5	C2	3213	ナイフ形石器	4.45	1.40	1.10	5.60	H2	
98	76	V・VI	D4	3429	ナイフ形石器	4.10	1.90	0.75	4.30	R1	
99	80	V 4	B5	305	ナイフ形石器	3.00	1.55	0.60	2.30	R1	
100	84	V 4	D4	3461	ナイフ形石器	4.00	1.85	0.60	4.30	R1	
101	77	V・VI	D4	3702	ナイフ形石器	3.50	1.75	0.85	3.70	R1	
102	91	V 5	D6	1459	ナイフ形石器	3.85	1.85	0.65	5.50	R1	
103	37	V 5	D5	1312	ナイフ形石器	2.40	1.20	0.65	1.30	R1	

機器番号	実測番号	部位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
104	38	VI 5	D5	1402	ナイフ形石器	(3.10)	1.40	0.75	2.50	R1	
105	85	VI 4	E4	3631	ナイフ形石器	3.70	1.65	0.60	3.60	R2	
106	83	VI 4	B2	2927	ナイフ形石器	4.80	1.45	0.60	2.90	R1	
107	93	VI 5	B3	1587	ナイフ形石器	4.60	1.35	0.65	3.10	R1	
108	71	V5	B3	561	ナイフ形石器	4.60	2.00	0.75	7.20	R1	
109	41	VI 5	E5	3120	ナイフ形石器	3.45	1.80	0.70	3.60	R1	
110	137	V・VI	C5	998	角錐状石器	(2.20)	1.30	1.15	2.40	R1	
111	36	VI 5	D6	1282	角錐状石器	2.85	1.15	0.85	3.60	R2	
112	141	V・VI	C5	2412	角錐状石器	3.30	1.40	1.00	3.50	R1	
113	138	V・VI	D6	1307	角錐状石器	3.70	1.60	1.55	7.10	R4	
114	128	VI 5	C5	1489	角錐状石器	4.40	2.05	1.20	9.40	R4	
115	126	V・VI	D6	1255	角錐状石器	3.55	1.85	1.35	7.40	R1	
116	133	VI 4	D2	4794	角錐状石器	(3.40)	1.85	1.60	7.90	R2	
117	117	V・VI	D5	2023	角錐状石器	7.40	2.40	1.95	32.00	R1	
118	593	VI 4	D5	1390	角錐状石器	6.30	2.10	1.50	20.30	R1	
119	118	VI 4	C4	3340	角錐状石器	7.15	2.00	1.60	21.70	R2	
120	114	VI 4	D5	1310	角錐状石器	7.25	2.20	1.90	28.20	R1	
121	589	VI 5	E5	1997	角錐状石器	7.20	2.40	1.95	28.40	R2	
122	127	VI 4	D5	1368	角錐状石器	(4.55)	1.95	1.50	13.40	R1	
123	115	VI 5	D5	1401	角錐状石器	8.60	2.00	1.85	28.10	R1	
124	122	VI 4	D5	1669	角錐状石器	8.50	2.15	1.50	20.50	R1	
125	121	VI 4	D5	1363	角錐状石器	8.00	2.25	2.00	27.70	R1	
126	120	V・VI	D2	4751	角錐状石器	(6.60)	2.60	1.90	30.30	R1	
127	165	VI 5	B4	1680	剥片尖頭器	4.80	2.35	1.10	9.10	Ch	
128	151	VI 4	C2	2723	剥片尖頭器	5.50	2.65	1.05	13.00	R1	
129	163	VI 4	B4	450	剥片尖頭器	(4.70)	3.10	0.95	12.80	R2	
130	158	VI 5	E5	3126	剥片尖頭器	8.20	2.90	1.45	25.60	R1	
131	152	VI 4	C2	2751	剥片尖頭器	8.70	2.75	1.40	23.50	R1	
132	159	V・VI	C5	1027	剥片尖頭器	6.25	2.60	1.05	12.50	R1	
133	154	VI 4	E5	3117	剥片尖頭器	8.70	3.75	1.50	34.60	R1	
134	155	VI 4	C2	3207	剥片尖頭器	7.00	3.30	1.00	20.00	R1	
135	580	VI 5	C2	3168	剥片尖頭器	(7.15)	2.95	0.90	11.50	R1	
136	578	VI 4	C3	2470	剥片尖頭器	11.00	4.30	1.85	68.40	R1	
137	153	VI 4	C2	3030	剥片尖頭器	7.25	3.80	1.35	21.00	R1	
138	157	VI 5	C5	1632	剥片尖頭器	5.90	3.70	1.45	30.30	R1	
139	195	VI 4	C2	3360	錐器	4.05	4.05	2.40	36.90	R1	
140	194	V5	B3	511	錐器	4.35	3.30	2.60	43.50	R4	
141	180	VI 4	B3	496	錐器	5.50	5.30	2.10	56.30	R3	
142	182	VI 5	B4	385	錐器	7.30	4.00	1.35	42.90	R1	
143	183	VI 5	B4	391	錐器	6.20	4.40	3.10	92.00	R1	
144	173	VI 4	B5	224	剝器	7.20	2.05	1.40	14.40	R1	
145	176	VI 4	D5	1419	剝器	8.65	3.90	2.15	65.30	R1	
146	170	VI 4	D2	4795	剝器	(2.60)	(2.00)	0.50	2.00	R1	
147	172	V5	B5	65	剝器	6.20	3.30	1.85	33.60	R1	
148	174	VI 4	B3	515	剝器	9.80	5.40	2.60	94.90	R4	
149	175	VI 4	C3	3250	剝器	5.80	3.20	1.15	15.40	R1	
150	559	VI 4	B3	476	剝器	7.30	4.30	1.60	39.10	R1	
151	227	VI 4	C2	3202	剝石	(7.20)	3.35	2.15	79.00	Sh	
152	219	VI 4	B5	116	二次加工製片	6.40	3.70	1.40	26.50	R1	
153	225	V1	C4	1109	二次加工製片	5.45	5.20	1.80	34.00	R1	211と接合
154	561	VI 5	B5	604	二次加工製片	6.10	3.75	0.90	24.20	R1	
155	181	VI 5	C5	902	二次加工製片	6.05	4.40	1.95	57.00	R1	
156	572	VI 4	C3	2271	二次加工製片	7.50	4.40	1.90	38.40	R1	
157	583	VI 4	B3	565	二次加工製片	7.20	3.65	1.40	29.10	R2	
158	573	VI 4	C5	958	二次加工製片	8.60	4.50	1.30	38.60	R1	
159	586	VI 4	B4	430	二次加工製片	10.35	4.60	1.70	57.50	R1	
160	217	VI 4	C5	1031	使用痕跡片	1.20	3.50	0.50	1.40	R1	
161	216	VI 4	B2	2952	使用痕跡片	5.20	2.10	0.90	9.30	R1	
162	582	VI 4	C2	2742	使用痕跡片	6.55	3.20	1.05	16.60	R1	
163	215	V・VI	B4	467	使用痕跡片	7.85	2.85	1.40	22.10	R1	
164	147	V5	B5	22	剥片	1.65	1.90	0.60	1.20	R1	
165	592	V・VI	B5	75	使用痕跡片	8.90	3.40	1.20	34.20	R1	
166	200	VI 5	D5	1653	剥片	2.40	2.75	0.80	3.90	R1	199・201と接合
167	556	V・VI	C2	2690	剥片	3.05	5.30	1.10	14.90	R1	
168	74	V・VI	B3	1616	剥片	4.80	3.25	1.10	12.30	R1	
169	549	VI 4	C2	2752	剥片	4.65	4.40	1.10	18.60	R1	
170	551	V5	B5	6	剥片	6.70	4.00	1.40	38.20	R1	
171	581	V・VI	B3	1684	剥片	5.80	2.50	0.75	8.50	R1	
172	562	V5	B5	58	剥片	6.40	3.20	1.10	18.50	R1	
173	588	V・VI	D2	4171	剥片	7.70	4.15	1.55	36.40	R1	
174	584	VI 4	B2	2931	剥片	8.75	4.00	1.45	39.40	R1	
175	198	VI 4	B2	2963	剥片	9.00	3.20	0.95	49.10	R1	
176	539	V・VI	D2	4184	石核	5.90	3.40	2.20	46.10	R3	
177	558	VI 4	B2	2956	剥片	11.70	3.20	1.40	40.70	R1	
178	540	V4	C2	3327	石核	2.95	6.10	5.55	84.10	R1	

記書番	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
179	496	V 4	C2	2758	石核	7.16	4.61	3.76	131.50	R1	
180	497	V 2	D3	3776	石核	5.90	7.43	4.41	201.30	R1	
181	498	V 4	B2	2924	石核	6.13	6.22	4.74	126.90	R1	
182	221	V 1	C4	1106	石核	11.50	8.70	3.90	464.00	R1	225と接合
	231	V 5	B5	275	接合資料剥片	9.13	7.59	5.35	377.80	R4	接合資料183-1
	232	V 4	B5	261	接合資料剥片	9.59	3.26	1.29	35.70	R4	接合資料183-2
	233	V 5	B5	294	接合資料剥片	6.34	2.81	1.26	18.30	R4	接合資料183-3
	234	V・V1	B5	80	接合資料剥片	4.38	2.93	1.80	12.40	R4	接合資料183-4
	235	V 5	B5	288	接合資料剥片	6.63	2.74	0.75	16.10	R4	接合資料183-5
	236	V 5	B5	289	接合資料剥片	6.21	2.91	1.53	19.10	R4	接合資料183-6
	237	V 5	B5	270	接合資料剥片	8.53	7.28	3.77	210.10	R4	接合資料183-7
	238	V 5	B5	290	接合資料剥片	3.88	1.25	0.93	3.70	R4	接合資料183-8
	239	V 5	B5	293	接合資料剥片	7.23	4.08	2.43	51.00	R4	接合資料183-9
183	240	V 5	B5	268	接合資料剥片	6.94	3.72	1.16	26.60	R4	接合資料183-10
	241	V・V1	B4	470	接合資料剥片	5.14	1.77	1.12	9.90	R4	接合資料183-11
	242	V 5	B5	273	接合資料剥片	5.39	3.41	3.28	66.20	R4	接合資料183-12
	243	V 5	B5	334	接合資料剥片	5.42	2.98	2.48	32.40	R4	接合資料183-13
	244	V 5	B5	334	接合資料剥片	4.89	3.70	2.76	40.90	R4	接合資料183-14
	245	V 5	B5	138	接合資料剥片	7.25	5.09	2.05	61.40	R4	接合資料183-15
	246	V 5	B5	272	接合資料剥片	7.28	3.88	2.54	75.20	R4	接合資料183-16
	247	V 5	B5	280	接合資料剥片	3.25	3.26	0.72	3.40	R4	接合資料183-17
	248	V 4	B5	266	接合資料剥片	6.76	3.35	1.51	20.60	R4	接合資料183-18
	249	V 5	B5	298	接合資料剥片	6.02	3.39	1.85	24.80	R4	接合資料183-19
	310	V 4	D5	1453	接合資料剥片	6.75	4.71	2.71	87.00	R3	接合資料184-1
	311	V 4	D5	1329	接合資料剥片	5.46	5.29	2.15	36.90	R3	接合資料184-2
	312	V 4	D5	1346	接合資料剥片	5.90	2.66	1.58	26.20	R3	接合資料184-3
	313	V 4	D5	1284	接合資料剥片	4.41	2.81	1.57	16.90	R3	接合資料184-4
	314	V・V1	D5	1333	接合資料剥片	3.84	2.14	1.12	9.70	R3	接合資料184-5
	315	V 5	D5	1396	接合資料剥片	6.27	5.27	1.75	40.10	R3	接合資料184-6
	316	V・V1	C5	955	接合資料剥片	6.22	4.28	2.37	49.30	R3	接合資料184-7
184	317	V 1	D5	1159	接合資料剥片	4.48	3.15	1.57	21.80	R3	接合資料184-8
	318	V 4	C5	963	接合資料剥片	7.25	7.05	3.04	121.30	R3	接合資料184-9
	319	V 5	D5	1352	接合資料剥片	5.30	3.11	1.54	27.00	R3	接合資料184-10
	320	V 4	D5	1359	接合資料剥片	4.73	2.75	1.56	18.20	R3	接合資料184-11
	321	V 4	D5	1375	接合資料剥片	7.54	6.01	2.76	104.50	R3	接合資料184-12
	322	V 2	D5	1366	接合資料剥片	3.79	2.27	1.31	9.80	R3	接合資料184-13
	323	V 5	C5	1015	接合資料剥片	7.44	6.56	5.48	290.30	R3	接合資料184-14
	324	V 4	D5	1314	接合資料剥片	4.67	3.42	1.53	22.80	R3	接合資料184-15
	325	V 5	B5	259	接合資料剥片	10.50	5.07	5.58	198.50	R1	接合資料185-1
	326	V 4	B5	234	接合資料剥片	4.91	3.16	0.67	11.60	R1	接合資料185-2
	327	V 5	B5	195	接合資料剥片	6.49	4.66	2.08	46.30	R1	接合資料185-3
	328	V 5	B5	619	接合資料剥片	6.39	3.17	1.42	32.90	R1	接合資料185-4
	329	V 5	B5	174	接合資料剥片	8.96	2.38	1.45	34.00	R1	接合資料185-5
	330	V 5	B5	186	接合資料剥片	7.31	4.46	3.28	91.90	R1	接合資料185-6
	331	V 5	B5	189	接合資料剥片	7.93	5.09	2.60	110.50	R1	接合資料185-7
	332	V 5	B5	190	接合資料剥片	6.97	2.26	0.97	14.80	R1	接合資料185-8
	250	V 4	B5	126	接合資料剥片	7.50	2.95	1.20	29.80	R1	接合資料186-1
	251	V 4	B5	225	接合資料剥片	3.40	4.15	1.00	9.90	R1	接合資料186-2
	252	V 4	B5	240	接合資料剥片	6.00	3.40	2.40	44.60	R1	接合資料186-3
	253	V 4	B5	242	接合資料剥片	6.45	3.75	1.00	17.80	R1	接合資料186-4
	254	V 5	B5	169	接合資料剥片	7.90	6.75	2.60	162.00	R1	接合資料186-5
	255	V 5	B5	172	接合資料剥片	9.60	6.90	4.30	189.00	R1	接合資料186-6
	256	V 5	B5	181	接合資料剥片	9.20	3.50	1.45	31.90	R1	接合資料186-7
	257	V 5	B5	203	接合資料剥片	5.55	3.35	0.90	15.50	R1	接合資料186-8
	258	V 5	B5	209	接合資料剥片	2.80	1.25	0.70	1.60	R1	接合資料186-9
	259	V 5	B5	231	接合資料剥片	3.75	3.15	1.15	9.00	R1	接合資料186-10
	260	V 5	B5	607	接合資料剥片	6.50	3.90	2.00	51.10	R1	接合資料186-11
	261	V 5	B5	609	接合資料剥片	5.40	5.70	2.10	56.30	R1	接合資料186-12
	262	V 5	B5	612	接合資料剥片	7.40	5.20	3.35	128.60	R1	接合資料186-13
	263	V 5	B5	620	接合資料剥片	5.65	4.00	1.15	22.60	R1	接合資料186-14
	264	V 5	B5	232	接合資料剥片	3.35	1.95	0.50	2.40	R1	接合資料186-15
	265	V 4	B5	219	二次加工剥片	5.20	1.65	0.70	3.70	R1	接合資料186-16
	266	V 4	B5	165	接合資料剥片	8.25	2.05	1.00	20.50	R1	接合資料186-17
	267	V 4	B5	212	接合資料剥片	3.05	2.80	1.20	12.20	R1	接合資料186-18
	268	V 4	B5	237	接合資料剥片	6.40	2.20	1.00	12.30	R1	接合資料186-19
	269	V 5	B5	167	接合資料剥片	9.00	2.10	1.70	21.00	R1	接合資料186-20
	270	V 5	B5	176	接合資料剥片	7.05	2.85	0.75	13.60	R1	接合資料186-21
	271	V 5	B5	179	接合資料剥片	6.25	3.20	2.60	42.30	R1	接合資料186-22
	272	V 5	B5	180	接合資料剥片	6.00	3.55	4.80	98.80	R1	接合資料186-23
	273	V 5	B5	184	接合資料剥片	7.45	4.75	2.15	77.30	R1	接合資料186-24

機器番号	実測番号	順位	出上区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
186	274	VI 5	B5	216	接合資料剥片	4.60	2.45	1.00	13.70	R1	接合資料 186 - 25
	275	VI 5	B5	256	接合資料剥片	3.10	6.90	3.45	84.70	R1	接合資料 186 - 26
	276	VI 5	B5	611	接合資料剥片	5.40	7.35	3.00	118.30	R1	接合資料 186 - 27
	277	VI 4	B5	194	接合資料剥片					R1	接合資料 186 - 28
	278	VI 5	C5	691	接合資料剥片	8.10	7.60	2.50	168.70	R1	接合資料 187 - 1
187	279	VI 5	C5	1021	接合資料剥片	6.40	1.50	2.30	21.80	R1	接合資料 187 - 2
	280	IV	C4	1703	接合資料剥片	4.80	1.30	2.90	18.90	R1	接合資料 187 - 3
	281	VI 4	C5	962	接合資料剥片	6.00	1.00	4.00	25.00	R1	接合資料 187 - 4
	282	VI 4	C5	947	接合資料剥片	6.30	4.00	2.30	96.00	R1	接合資料 187 - 5
	283	VI 5	C5	949	接合資料剥片	5.60	4.80	2.10	30.40	R1	接合資料 187 - 6
	284	VI 5	C5	684	接合資料剥片	8.95	5.90	2.80	117.30	R1	接合資料 187 - 7
	285	VI 5	C5	1035	接合資料剥片	7.10	3.40	5.60	102.30	R1	接合資料 187 - 8
	286	VI 5	C5	1036	接合資料剥片	8.20	3.90	5.20	147.00	R1	接合資料 187 - 9
	287	VI - VII	D5	2030	接合資料剥片	5.70	3.70	0.90	18.10	R1	接合資料 187 - 10
	288	VI 5	C5	1536	接合資料剥片	3.50	5.60	2.00	38.00	R1	接合資料 187 - 11
188	289	V4	C5	924	接合資料剥片	5.10	1.80	1.25	12.30	R1	接合資料 187 - 12
	290	V - VI	C5	897	接合資料剥片	2.20	3.70	0.90	7.80	R1	接合資料 187 - 13
	291	VI 5	C5	1019	接合資料剥片	5.90	6.50	2.10	73.50	R1	接合資料 187 - 14
	292	VI 5	C5	987	接合資料剥片	8.70	7.10	2.90	159.80	R1	接合資料 187 - 15
	293	V - VI	C5	1508	接合資料剥片	3.40	5.90	1.60	18.60	R1	接合資料 187 - 16
	294	VI 4	C5	1018	接合資料剥片	5.70	6.30	4.60	135.00	R1	接合資料 187 - 17
	295	VI 5	C5	1020	接合資料剥片	5.30	7.20	5.00	137.00	R1	接合資料 187 - 18
	296	VI 4	C5	945	接合資料剥片	5.40	3.30	1.20	28.40	R1	接合資料 187 - 19
	297	V5	C5	669	接合資料剥片	6.30	3.80	0.80	9.50	R1	接合資料 187 - 20
	298	V4	C5	661	接合資料剥片	6.40	3.80	0.80	13.70	R1	接合資料 187 - 21
189	299	V5	B5	45	接合資料剥片	2.05	1.64	0.51	1.60	R1	接合資料 188 - 1
	300	IV	B3	1607	接合資料剥片	3.06	2.16	0.74	4.30	R1	接合資料 188 - 2
	301	VI 4	C5	692	接合資料剥片	3.99	2.66	0.56	6.90	R1	接合資料 188 - 3
	302	VI 4	C5	948	接合資料剥片	5.54	4.14	1.02	21.70	R1	接合資料 188 - 4
	303	V4	C5	664	接合資料剥片	4.93	2.71	0.74	8.80	R1	接合資料 188 - 5
	304	VI 5	C5	1679	接合資料剥片	4.43	2.15	0.59	6.40	R1	接合資料 188 - 6
	305	V4	C5	657	接合資料剥片	6.07	4.24	2.15	42.10	R1	接合資料 188 - 7
	306	V4	C5	658	接合資料剥片	5.78	3.97	2.02	39.80	R1	接合資料 188 - 8
	307	V1	C5	704	接合資料剥片	2.82	2.21	0.80	4.60	R1	接合資料 188 - 9
	308	VI 5	C5	1005	接合資料剥片	5.29	4.12	1.14	21.60	R1	接合資料 188 - 10
190	309	VI 4	C5	666	接合資料剥片	4.50	2.13	0.39	4.20	R1	接合資料 188 - 11
	310	VI 5	B5	306	接合資料剥片	4.59	3.11	1.28	19.50	R1	接合資料 188 - 1
	311	VI 5	B5	301	接合資料剥片	3.45	4.13	1.45	23.10	R1	接合資料 189 - 2
	312	VI 5	B5	271	接合資料剥片	5.53	6.37	3.19	105.00	R1	接合資料 189 - 3
	313	VI 4	B5	265	接合資料剥片	6.98	3.10	2.81	55.80	R1	接合資料 189 - 4
	314	VI 5	B5	281	接合資料剥片	3.45	1.82	1.21	6.30	R1	接合資料 189 - 5
	315	VI 4	C3	3076	接合資料剥片	7.20	3.79	2.99	91.90	R4	接合資料 189 - 1
	316	VI 4	C3	2269	接合資料剥片	5.66	5.85	3.42	99.00	R4	接合資料 189 - 2
	317	VI 4	C3	2331	接合資料剥片	4.63	3.14	1.19	12.50	R4	接合資料 189 - 3
	318	VI 2	C3	2213	接合資料剥片	5.74	2.99	1.08	17.70	R4	接合資料 189 - 4
191	319	VI 4	C3	3065	接合資料剥片	8.93	5.22	3.03	191.40	R4	接合資料 189 - 5
	320	VI 5	B5	150	接合資料剥片	4.82	6.19	1.95	59.60	R2	接合資料 191 - 1
	321	VI 5	B4	1552	接合資料剥片	6.25	3.38	1.54	27.00	R2	接合資料 191 - 2
	322	VI 4	B4	1555	接合資料剥片	4.37	4.35	1.35	22.10	R2	接合資料 191 - 3
	323	VI 5	B5	124	接合資料剥片	5.97	6.13	3.75	136.30	R2	接合資料 191 - 4
	324	VI 5	B5	149	接合資料剥片	4.85	3.10	1.58	17.90	R2	接合資料 191 - 5
	325	VI 2	E5	3111	接合資料剥片	4.74	3.08	2.18	44.60	R2	接合資料 192 - 6
	326	VI 5	E5	3119	接合資料剥片	4.92	2.69	1.15	13.00	R2	接合資料 192 - 1
	327	V5	E5	S167-1	接合資料剥片	9.48	4.57	2.54	134.80	R2	接合資料 192 - 2
	328	VI 4	E5	3113	接合資料剥片	4.09	3.06	1.02	10.20	R2	接合資料 192 - 3
192	329	VI 4	E5	3112	接合資料剥片	5.88	4.48	1.20	46.10	R2	接合資料 192 - 4
	330	V2	B5	S167-4	接合資料剥片	7.62	4.89	3.72	108.60	R2	接合資料 192 - 5
	331	VI 2	E5	3111	接合資料剥片	4.74	3.08	2.18	44.60	R2	接合資料 192 - 6
	332	VI 5	E5	2005	接合資料剥片	10.69	4.71	3.48	196.70	R2	接合資料 192 - 7
	333	VI 5	B5	152	接合資料剥片	6.91	4.67	1.97	69.40	R1	接合資料 193 - 1
	334	VI 5	B5	110	接合資料剥片	7.73	6.62	4.55	268.50	R1	接合資料 193 - 2
	335	VI 5	B5	605	接合資料剥片	3.10	1.58	1.12	3.40	R1	接合資料 193 - 3
	336	VI 5	B5	156	接合資料剥片	3.97	2.35	1.10	10.90	R1	接合資料 193 - 4
	337	VI 5	D2	5048	接合資料剥片	6.33	4.57	4.31	195.70	R4	接合資料 194 - 1
	338	V - VI	E3	1949	二次加工剥片	5.58	5.00	1.74	60.70	R4	接合資料 194 - 2
193	339	VI 4	C2	3157	接合資料剥片	10.64	9.13	6.48	606.60	R4	接合資料 194 - 3
	340	VI 1	D2	4817	接合資料剥片	2.58	1.90	1.12	5.60	R4	接合資料 194 - 4
	341	V2	C2	2628	接合資料剥片	4.89	2.65	1.38	20.10	R4	接合資料 194 - 5
194	342	V5	B3	512	接合資料剥片	2.92	2.35	1.01	4.90	R3	接合資料 195 - 1
	343	VI 4	B3	498	接合資料剥片	4.44	3.70	2.07	37.20	R3	接合資料 195 - 2
	344	V5	B3	492	接合資料剥片	3.94	2.95	1.61	15.40	R3	接合資料 195 - 3

報告番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重級	石材	備考
195	463	V - VI	B3	499	接合資料剥片	5.31	3.06	1.75	29.20	R3	接合資料 195 - 4
	464	V4	C3	2259	接合資料剥片	9.13	5.73	4.03	142.00	R3	接合資料 195 - 5
	465	VI 5	B3	483	接合資料剥片	8.76	6.69	3.99	217.30	R3	接合資料 195 - 6
	466	V5	D4	C - 3	接合資料剥片	4.72	3.66	1.34	24.90	R3	接合資料 195 - 7
196	19	VI - VII	D2	4848	ナイフ形石器	5.20	1.80	0.90	7.20	R1	
197	20	VI - VII	E2	4898	ナイフ形石器	(5.10)	2.30	1.00	10.10	R2	
198	54	VI - VII	C2	2801	ナイフ形石器	(4.10)	2.45	0.55	5.20	R1	
199	44	VI - VII	E4	3650	ナイフ形石器	(3.40)	1.30	0.80	3.30	R1	
200	49	Ⅳ - Ⅴ	E3	2538	ナイフ形石器	(3.20)	1.35	0.60	2.20	R2	
201	95	VI - VII	E4	3640	ナイフ形石器	2.90	1.60	0.70	2.70	R1	
202	48	VI - VII	D2	4879	ナイフ形石器	(2.55)	1.10	0.60	1.60	R1	
203	101	VI - VII	C5	4459	ナイフ形石器	2.75	1.45	0.40	1.70	R1	
204	45	VI - VII	E4	3766	ナイフ形石器	(2.35)	0.95	0.80	1.60	R2	
205	97	VI - VII	E4	3764	ナイフ形石器	2.80	1.75	0.60	2.20	R1	
206	166	VI - VII	C2	2791	ナイフ形石器	3.90	2.45	1.00	8.50	R1	
207	98	VI - VII	D4	3982	ナイフ形石器	4.25	1.90	0.80	5.80	R1	
208	47	VI - VII	C5	4461	ナイフ形石器	(4.20)	2.25	0.95	8.20	R1	
209	99	VI 5	D5	2014	ナイフ形石器	4.10	1.75	0.65	4.30	R1	
210	96	VI - VII	E4	3758	ナイフ形石器	3.60	1.85	0.70	3.30	R1	
211	534	Ⅳ 5	E4	3685	ナイフ形石器	3.60	1.70	0.70	2.60	R1	
212	100	VI 5	C5	2429	ナイフ形石器	2.65	1.00	0.40	0.90	R1	
213	22	Ⅳ 4	B5	102	ナイフ形石器	(5.35)	2.90	0.90	10.60	R1	
214	160	VI - VII	C3	3238	洞片尖頭器	6.95	3.00	1.45	24.20	R1	
215	134	VI - VII	E2	5058	角錐状石器	4.05	1.85	1.00	8.20	Ch	
216	144	VI - VII	C3	3345	角錐状石器	4.35	1.45	0.90	5.30	R1	
217	132	VI - VII	C4	3292	角錐状石器	(2.40)	1.30	1.20	4.80	R4	
218	116	Ⅳ 5	D5	2013	角錐状石器	(4.90)	2.00	1.90	17.00	R4	
219	119	VI - VII	D4	3473	角錐状石器	7.50	2.00	1.20	17.00	R2	
220	591	Ⅳ 4	C2	2866	尖頭器	9.35	4.10	2.60	76.30	H2	
221	21	VI 1	E5	5323	ナイフ形石器	(7.90)	2.35	1.60	25.00	R1	
222	161	VI - VII	E2	4899	洞片尖頭器	6.40	3.15	1.25	19.90	R1	
223	159	VI - VII	C2	2790	洞片尖頭器	9.80	3.50	1.60	45.60	R1	
224	162	VI - VII	E2	4904	洞片尖頭器	8.80	3.25	1.50	28.60	R1	
225	579	VI 5	C2	2883	洞片尖頭器	8.25	3.50	1.60	35.80	R1	
226	148	Ⅳ 4	E4	3688	台形石器	2.85	1.55	0.50	2.70	R1	
227	168	VI - VII	C3	3241	搔器	4.00	3.85	2.00	28.60	R1	
228	184	VI - VII	R2	2985	搔器	5.80	3.50	1.40	22.50	R1	
229	574	VI - VII	C2	3221	削器	7.35	5.65	1.15	36.30	R1	
230	178	VI 5	C2	2888	削器	6.55	3.15	2.45	34.20	R1	
231	177	VI 4	C2	2852	削器	7.50	5.70	1.30	48.70	R1	
232	588	VI - VII	D4	3468	削器	6.90	4.65	1.45	38.00	R2	
233	571	VI - VII	E4	3642	削器	8.40	4.45	1.75	46.50	Tu	
234	577	VI - VII	C2	2837	削器	9.80	5.50	2.30	111.50	R1	
235	532	VI 4	C2	2857	二次加工洞片	3.35	2.05	1.15	5.50	Qz	
236	226	VI 4	C2	2863	二次加工洞片	4.60	3.85	1.50	19.90	R1	
237	23	VI 5	B3	2393	二次加工洞片	5.70	3.40	1.55	28.60	R1	
238	221	VI - VII	D3	3819	二次加工洞片	6.00	3.70	1.95	26.20	R4	
239	222	VI - VII	D4	3596	二次加工洞片	6.45	3.10	1.25	21.20	R2	
240	590	VI - VII	D2	4869	二次加工洞片	9.15	3.60	1.35	37.00	R1	
241	531	Ⅳ 1	E3	2600	洞片	1.70	1.10	0.40	0.70	Qz	
242	42	VI - VII	C3	2330	洞片	3.90	1.35	0.95	3.20	R1	
243	46	VI 5	C3	2390	洞片	(4.00)	1.30	1.05	4.60	R3	
244	43	VI - VII	C5	2423	洞片	(4.10)	1.85	1.20	5.60	R1	
245	563	VI - VII	R2	2972	洞片	4.50	3.70	1.00	12.60	R1	
246	552	VI - VII	C2	2799	洞片	2.40	3.85	1.10	8.60	R1	
247	548	VI - VII	E5	3129	洞片	4.70	6.00	1.10	23.20	R1	
248	560	VI - VII	D3	3818	洞片	6.50	3.60	1.40	34.40	R1	
249	587	VI 4	B5	198	洞片	6.35	4.50	1.70	22.20	R2	
250	557	VI - VII	D2	4839	洞片	11.70	3.40	1.20	47.30	R1	
251	553	VI - VII	C2	2811	洞片	6.00	2.85	0.85	10.90	R1	
252	185	VI - VII	B2	3147	石核	8.25	4.95	2.40	107.60	R2	
253	543	VI 1	E3	2580	石核	5.35	5.95	3.50	93.90	R2	
254	499	VI 4	B2	3005	石核	5.99	4.63	5.02	101.00	R1	
255	542	VI 1	E3	2581	石核	3.65	5.90	3.80	83.50	R2	
256	408	V2	C3	2099	接合資料剥片	1.40	3.48	1.40	6.40	R1	接合資料 256 - 1
	409	VI 4	C2	2733	接合資料剥片	4.96	3.89	1.70	31.90	R1	接合資料 256 - 2
	410	VI 4	C3	3318	接合資料剥片	5.54	3.52	1.70	23.70	R1	接合資料 256 - 3
	411	VI 4	C3	3064	接合資料剥片	4.59	6.46	4.90	177.30	R1	接合資料 256 - 4
	432	VI 4	B2	2928	接合資料剥片	7.18	5.11	2.10	70.40	R1	接合資料 257 - 1
	433	VI - VII	C2	2812	接合資料剥片	5.08	2.66	0.83	14.80	R1	接合資料 257 - 2
	434	VI 4	B2	2937	接合資料剥片	6.58	5.07	2.19	72.60	R1	接合資料 257 - 3
	435	VI 4	D4	3463	エンドスクレーパー	6.11	4.31	2.11	62.60	R1	接合資料 257 - 4
	445	VI 4	C3	2267	接合資料剥片	5.91	3.26	1.01	18.40	R4	接合資料 258 - 1
	446	VI 4	C2	2731	接合資料剥片	10.46	5.28	3.11	200.90	R4	接合資料 258 - 2

報告書番号	実測番号	期位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考	
258	447	VI・Ⅶ	C2	3224	接合資料剥片	9.41	6.01	2.94	233.00	R4	接合資料 258 - 3	
	412	VI・Ⅶ	D2	4833	接合資料剥片	3.11	2.29	1.20	8.40	H2	接合資料 259 - 1	
	413	VI・Ⅶ	D2	4826	接合資料剥片	6.32	3.57	2.07	44.90	H2	接合資料 259 - 2	
	414	VI・Ⅶ	D2	4829	接合資料剥片	7.64	5.10	3.63	131.10	H2	接合資料 259 - 3	
	415	VI・Ⅶ	D2	4864	接合資料剥片	7.71	4.52	2.51	86.50	H2	接合資料 259 - 4	
259	416	VI・Ⅶ	D2	4851	接合資料剥片	4.28	3.55	1.17	20.90	H2	接合資料 259 - 5	
	489	VI 2	C3	2202	接合資料剥片	7.31	5.04	2.32	62.00	R1	接合資料 260 - 1	
	490	VI 4	C2	3330	接合資料剥片	4.84	1.95	1.54	13.00	R1	接合資料 260 - 2	
	491	VI 4	C3	2345	接合資料剥片	4.21	4.05	1.51	13.10	R1	接合資料 260 - 3	
	492	VI 4	C3	2226	接合資料剥片	6.19	5.06	1.46	37.90	R1	接合資料 260 - 4	
260	493	VI 4	C3	3253	接合資料剥片	4.73	2.27	1.19	10.10	R1	接合資料 260 - 5	
	494	VI・Ⅶ	C3	2308	接合資料剥片	3.96	1.75	0.75	5.30	R1	接合資料 260 - 6	
	467	V・Ⅷ	C5	964	接合資料剥片	3.77	2.94	1.03	9.50	H1	接合資料 261 - 1	
	468	VI 5	D5	1646	接合資料剥片	7.67	4.70	2.54	57.70	H1	接合資料 261 - 2	
	469	VI・Ⅷ	E4	3761	接合資料剥片	6.21	4.37	2.03	54.80	H1	接合資料 261 - 3	
261	470	VI・Ⅷ	E4	3756	接合資料剥片	7.15	4.73	4.44	125.10	H1	接合資料 261 - 4	
	471	V・Ⅷ	E4	3617	接合資料剥片	4.53	4.07	1.99	24.90	H1	接合資料 261 - 5	
	472	V・Ⅷ	E4	3617	接合資料剥片	3.11	2.70	1.22	9.70	H1	接合資料 261 - 6	
	473	V2	E4	3609	接合資料剥片	2.52	1.57	0.89	2.90	H1	接合資料 261 - 7	
	474	V2	D4	3389	接合資料剥片	4.06	1.72	2.20	9.70	H1	接合資料 261 - 8	
262	475	VI・Ⅷ	E4	3643	接合資料剥片	3.69	2.91	1.38	11.90	H1	接合資料 261 - 9	
	476	V2	D4	3376	接合資料剥片	4.88	4.29	3.08	49.30	H1	接合資料 261 - 10	
	477	VI・Ⅷ	E4	3767	接合資料剥片	6.28	5.67	3.39	97.20	H1	接合資料 261 - 11	
	478	V・Ⅷ	D4	3417	接合資料剥片	2.59	3.18	2.13	11.10	H1	接合資料 261 - 12	
	479	VI 2	D4	3446	接合資料剥片	3.47	3.65	1.77	15.30	H1	接合資料 261 - 13	
263	480	VI・Ⅷ	E4	3635	接合資料剥片	10.66	5.99	6.30	582.10	H1	接合資料 261 - 14	
	481	VI 4	C3	2217	接合資料剥片	9.37	7.07	2.55	156.00	Sb	接合資料 262 - 1	
	482	VI 4	C2	2709	接合資料剥片	8.28	7.01	2.05	137.10	Sb	接合資料 262 - 2	
	483	VI 4	C2	2710	接合資料剥片	3.97	2.95	1.35	15.00	Sb	接合資料 262 - 3	
	484	VI・Ⅷ	C2	2781	接合資料剥片	10.50	4.44	1.90	78.40	Sb	接合資料 262 - 4	
264	485	VI・Ⅷ	C2	2782	接合資料剥片	7.19	4.36	2.70	70.20	Sb	接合資料 262 - 5	
	486	VI・Ⅷ	C2	3217	接合資料剥片	2.82	2.78	2.74	17.20	Sb	接合資料 262 - 6	
	487	VI・Ⅷ	C2	3339	接合資料剥片	3.96	2.85	0.80	7.90	Sb	接合資料 262 - 7	
	488	维 4	C2	2869	接合資料剥片	8.69	5.27	2.25	86.10	Sb	接合資料 262 - 8	
	489	维 5	C2	4202	ナイフ形石器	4.20	1.35	0.65	3.50	R2		
265	490	维 5	C2	4208	ナイフ形石器	4.90	1.40	0.65	3.70	R1		
	491	维 5	C2	4399	ナイフ形石器	4.00	1.30	0.40	1.90	R1		
	492	112	IX a4 C4C2	3629	ナイフ形石器	4.15	1.40	0.75	3.60	R2		
	493	536	E5	5565	ナイフ形石器	4.60	1.35	0.70	3.40	R1		
	494	111	D5	5549	ナイフ形石器	3.65	1.20	0.50	2.20	R1		
266	495	537	维 5	4445	ナイフ形石器	3.80	1.55	0.70	3.00	R1		
	496	535	维 5	5364	ナイフ形石器	2.80	1.05	0.50	1.30	R1		
	497	113	维 5	4974	ナイフ形石器	(4.10)	2.20	1.05	7.50	R2		
	498	106	维 5	4673	ナイフ形石器	2.35	1.00	0.45	1.00	R1		
	499	104	维 5	3886	ナイフ形石器	2.60	0.95	0.50	1.00	R1		
267	500	57	维 5	4929	ナイフ形石器	(4.50)	1.40	0.50	2.50	R2		
	501	55	维 5	4628	ナイフ形石器	3.00	1.15	0.65	1.30	R2		
	502	53	维 5	4528	ナイフ形石器	(2.65)	1.20	0.50	1.50	R1		
	503	56	维 5	4658	ナイフ形石器	2.65	1.50	0.65	2.20	R1		
	504	60	维 5	5525	ナイフ形石器	4.70	2.40	0.80	7.70	R1		
268	505	58	维 5	5254	ナイフ形石器	G10	1.15	0.55	1.90	R1		
	506	61	维 5	5593	ナイフ形石器	(2.60)	1.25	0.60	1.70	R1		
	507	62	维 5	5692	ナイフ形石器	(2.30)	1.00	0.60	1.20	R1		
	508	59	维 5	5495	ナイフ形石器	(2.80)	1.25	0.60	1.60	R2		
	509	63	IX a1 D5	5327	ナイフ形石器	(2.90)	1.80	0.50	2.00	R2		
269	510	51	维 5	4323	ナイフ形石器	(4.50)	1.50	0.85	5.30	R1		
	511	50	维 5	4298	ナイフ形石器	(3.20)	1.65	0.60	2.90	R2		
	512	1	IX b1 C4, 2	3934	ナイフ形石器	5.15	2.20	0.75	8.50	R1		
	513	24	维 5	5362	ナイフ形石器	5.10	1.45	0.70	3.60	R1		
	514	25	维 5	4697	ナイフ形石器	6.35	1.95	0.90	8.20	R1		
270	515	64	IX b1 D4	5649	ナイフ形石器	3.20	1.90	0.80	3.40	R2		
	516	110	维 5 E2	5521	ナイフ形石器	4.70	1.20	0.70	2.90	R1		
	517	568	D2	5351	搔器	4.25	3.70	0.75	11.90	R1		
	518	189	维 5 D2	5350	搔器	5.00	3.05	1.90	24.30	R1		
	519	567	维 5 D4	5181	搔器	5.25	4.70	1.35	30.60	R1		
271	520	196	维 5 C2	4335	搔器	4.75	3.70	1.60	24.40	R1		
	521	188	维 5 C3	4917	搔器	6.50	4.90	1.30	33.10	R2		
	522	189	维 5 D2	5346	搔器	5.80	6.40	2.15	83.50	R1		
	523	191	IX a1 E4	5641	搔器	5.00	2.55	1.10	11.60	R2		
	524	565	IX a5 C2	5324	搔器	6.25	6.90	2.05	68.40	R1		
272	525	300	109	维 5 E2	5409	搔器	3.80	2.20	0.85	7.60	R1	

品目番号	実測番号	層位	出土区	取り上げ番号	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	備考
301	570	Ⅳ 5	D5	5538 - 5543・5563	攝器	4.85	4.00	1.15	18.70	R2	
302	187	Ⅳ 5	C2	4431	攝器	4.50	5.85	1.75	38.20	R4	
303	169	Ⅳ 5	C3	5701	削器	3.40	2.80	0.90	8.20	R1	
304	186	Ⅳ 5	C2	4310	削器	6.55	4.85	1.95	52.30	R1	
305	102	Ⅳ 1	E3	2545	削器	3.35	2.25	0.60	4.00	R2	
306	197	Ⅳ 5	C4	5627	削器	4.80	3.25	1.30	14.90	R2	
307	52	Ⅳ 5	C2	4438	削器	(3.05)	3.50	0.80	8.80	R1	
308	564	Ⅳ 5	D4	5086	削器	13.25	5.55	1.80	142.00	R1	
309	228	Ⅳ 5	D4	5078	敲石	(8.80)	3.50	2.35	95.80	Sb	
310	330	Ⅳ 5	C2	4115 - 4286	二次加工調片	2.70	1.55	0.70	2.10	Qz	
311	533	Ⅳ 5	C2	4235	二次加工調片	2.50	1.00	0.80	1.50	Qz	
312	214	Ⅳ 5	D5	5559	二次加工調片	5.50	2.10	1.60	22.70	R2	
313	212	Ⅳ 5	D5	5535	二次加工調片	5.80	2.80	2.00	31.90	R2	
314	179	Ⅳ 5	D4	5088	二次加工調片	6.60	2.65	0.95	12.60	R1	
315	223	Ⅳ 5	C3	4956	二次加工調片	6.90	2.90	1.15	16.40	R1	
316	224	Ⅳ a	D4, 5	4018 - 4021・4023	二次加工調片	9.85	3.50	1.30	27.60	R4	
317	213	Ⅳ 5	D5	5562	石核	4.80	3.30	1.80	20.40	R2	
318	541	Ⅳ a1	E4	5639	石核	4.25	5.20	3.75	75.80	R2	
319	566	Ⅳ 5	C5	4487	石核	7.00	7.00	2.55	98.10	R1	
320	495	Ⅳ 5	C2	4225	石核	9.83	6.95	6.31	838.50	R4	
321	333	Ⅳ 5	D4	5822	接合資料調片	4.30	2.21	1.47	11.00	R2	接合資料 321 - 1
	334	Ⅳ 5	D4	5431	接合資料調片	3.71	1.83	1.36	6.00	R2	接合資料 321 - 2
	335	Ⅳ 5	D4	5428	接合資料調片	3.14	1.55	1.13	5.50	R2	接合資料 321 - 3
	336	Ⅳ 5	D4	5437	接合資料調片	2.08	1.88	0.97	3.50	R2	接合資料 321 - 4
	337	Ⅳ 5	D4	5459	接合資料調片	4.46	3.88	2.19	30.10	R2	接合資料 321 - 5
322	338	Ⅳ 5	D4	5442	接合資料調片	4.21	3.51	1.12	13.90	R2	接合資料 321 - 6
	339	Ⅳ 5	D4	6013	接合資料調片	1.93	1.54	0.60	1.50	R2	接合資料 321 - 7
	340	Ⅳ 5	D4	5433	接合資料調片	7.03	4.54	1.06	40.00	R2	接合資料 321 - 8
	341	Ⅳ 5	D4	5071	接合資料調片	4.39	3.90	1.50	20.40	R2	接合資料 321 - 9
323	390	Ⅳ 5	D4	5120	接合資料調片	2.90	2.75	0.60	4.30	R2	接合資料 322 - 1
	391	Ⅳ 5	D4	5188	接合資料調片	4.40	2.35	1.10	5.60	R2	接合資料 322 - 2
	392	Ⅳ 5	D4	5189	接合資料調片	2.70	2.35	0.70	3.70	R2	接合資料 322 - 3
	393	Ⅳ 5	D4	5469	接合資料調片	4.00	6.40	4.50	128.80	R2	接合資料 322 - 4
324	394	Ⅳ 5	D4	5485	接合資料調片	4.40	3.15	1.03	14.70	R2	接合資料 322 - 5
	395	Ⅳ 5	D4	5488	接合資料調片	3.88	5.68	2.06	39.40	R2	接合資料 322 - 6
	396	Ⅳ 5	D4	5494	接合資料調片	6.23	8.47	5.70	270.40	R2	接合資料 322 - 7
	400	Ⅳ 1	D4	5065	接合資料調片	3.70	4.20	3.30	4.50	R2	接合資料 324 - 1
325	401	Ⅳ 5	D4	5452	接合資料調片	2.90	2.45	0.90	7.20	R2	接合資料 324 - 2
	402	Ⅳ 5	D4	5661	接合資料調片	2.95	2.85	0.70	59.50	R2	接合資料 324 - 3
	403	Ⅳ 5	D4	5107	接合資料調片	3.90	4.85	2.00	36.00	R2	接合資料 325 - 1
	404	Ⅳ 5	D4	5461	接合資料調片	3.53	3.82	2.35	25.30	R2	接合資料 325 - 2
326	405	Ⅳ 5	D4	5475	接合資料調片	2.34	1.78	0.99	3.40	R2	接合資料 325 - 3
	406	Ⅳ 5	D4	5477	接合資料調片	2.33	1.80	0.85	22.60	R2	接合資料 325 - 4
	407	Ⅳ 5	D4	5480	接合資料調片	3.70	3.68	1.25	22.50	R2	接合資料 325 - 5
	423	Ⅳ 1	C5	3874	接合資料調片	6.22	4.27	1.75	44.00	R2	接合資料 326 - 1
327	424	Ⅳ 5	C5	4502	接合資料調片	5.42	3.74	1.50	21.40	R2	接合資料 326 - 2
	425	Ⅳ 5	C5	4540	接合資料調片	4.56	4.09	1.15	13.80	R2	接合資料 326 - 3
	426	Ⅳ 5	C5	4553	接合資料調片	3.53	3.10	0.90	8.70	R2	接合資料 326 - 4
	427	Ⅳ 5	C5	4568	接合資料調片	2.15	0.87	0.80	1.50	R2	接合資料 326 - 5
328	428	Ⅳ 5	C5	4622	接合資料調片	2.65	3.55	1.05	10.60	R2	接合資料 326 - 6
	429	Ⅳ 5	C5	4624	接合資料調片	2.56	1.40	0.75	2.00	R2	接合資料 326 - 7
	430	Ⅳ 5	C5	4654	接合資料調片	4.45	2.73	0.90	9.70	R2	接合資料 326 - 8
	431	Ⅳ 5	C5	4993	接合資料調片	1.56	1.73	0.65	1.60	R2	接合資料 326 - 9
329	441	Ⅳ 5	C5	3901	接合資料調片	4.84	3.46	0.57	11.50	R2	接合資料 327 - 1
	442	Ⅳ 5	C5	4682	接合資料調片	4.32	2.44	0.47	4.90	R2	接合資料 327 - 2
	443	Ⅳ 5	C5	3882	接合資料調片	2.95	2.23	0.74	4.00	R2	接合資料 327 - 3
	444	Ⅳ 5	C5	4680	接合資料調片	4.40	2.87	0.66	7.20	R2	接合資料 327 - 4
328	445	VI 1	C3	2241	用途不明な器	10.4	2.70	1.25	42.7	Ss	
329	446	VI 5	B5	303	敲石	15.1	4.80	3.30	346.0	Ss	
330	447	V 4	C4	2442	敲石	13.0	6.60	3.90	413.3	Gr	
331	448	VI - V	C4	2047	敲石	9.55	6.05	4.85	440.7	Ss	
332	449	VI - V	C2	3185	敲石	6.50	5.70	3.65	191.2	Ss	
333	450	V 4	C5	1028	敲石	21.0	5.95	5.45	1010	Ss	
334	451	VI - V	C2	3184	敲石	6.60	5.85	4.85	256.80	Ss	
335	452	VI - V	C2	3183	敲石	6.80	6.00	4.60	248.0	Ss	
336	453	V 1	C4	1694	敲石, 滑石	6.50	6.45	4.30	256.1	Ss	
337	454	V 1 - V	C2	3182	台石	14.3	23.60	5.35	262.6	Ss	
406	—	V 1	—	1120	礫石核	2.75	3.40	3.05	32.70	An	
407	—	V 45	A3	402	磨石	7.90	9.10	3.70	352.8	Gr	
408	—	V 1 - V	B2	3255	不明	12.05	7.00	3.05	410.4	Ss	
409	—	V 1 - V	B1	2417	石瓶	19.00	12.50	4.90	1.717	Gr	
410	—	V - VI	B4	913	石瓶	13.60	16.85	5.50	1.667	Ss	

## 第2節 繩文時代

アカホヤ火山灰（Ⅲ層）の下位層となるIV層面において、縄文時代早期の集石遺構58基、炉穴9基の遺構、及びそれらの遺構と包含層から縄文土器片や石鏃、黒曜石、チャート製チップ等の遺物を確認した。チップは総重量で約620g、数量にして約620個である。

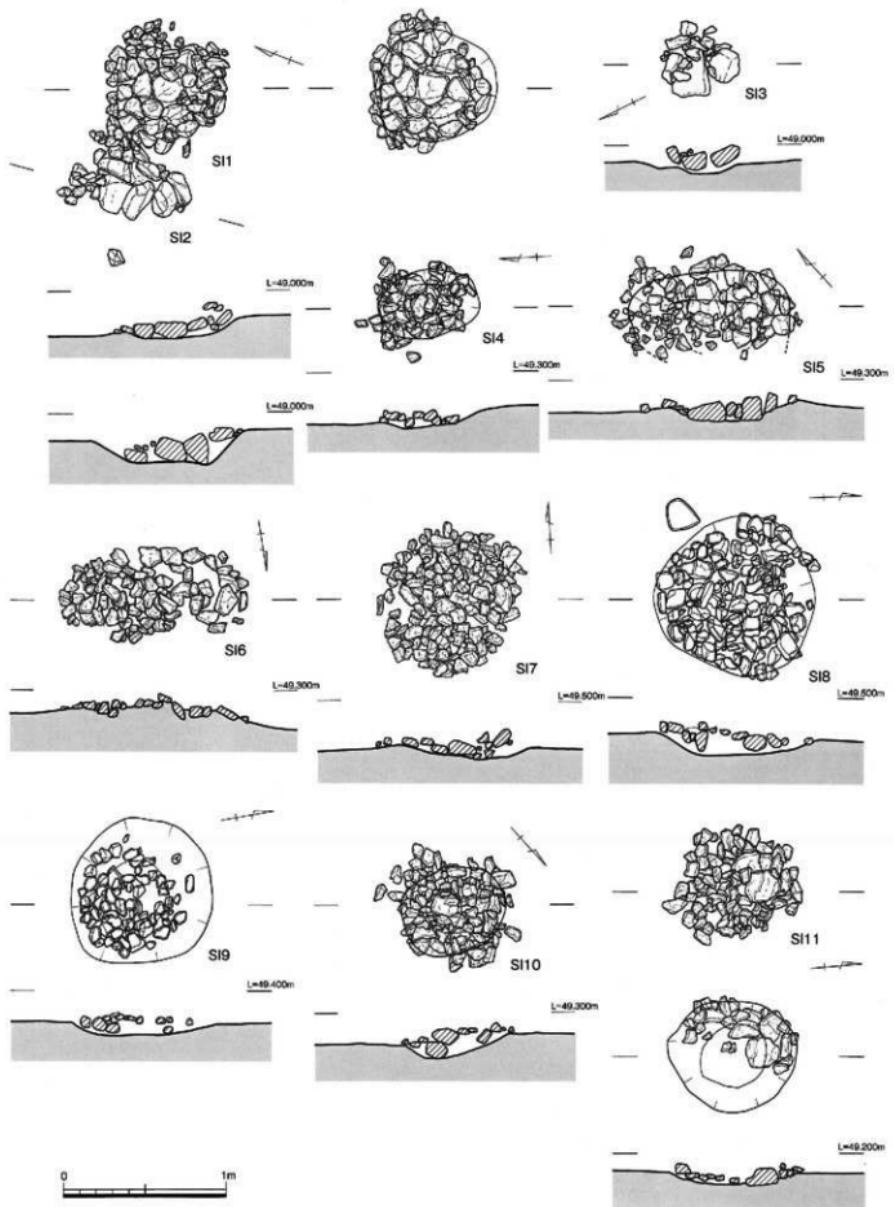
### 1 遺構

#### (1) 集石遺構（第76図～第83図）

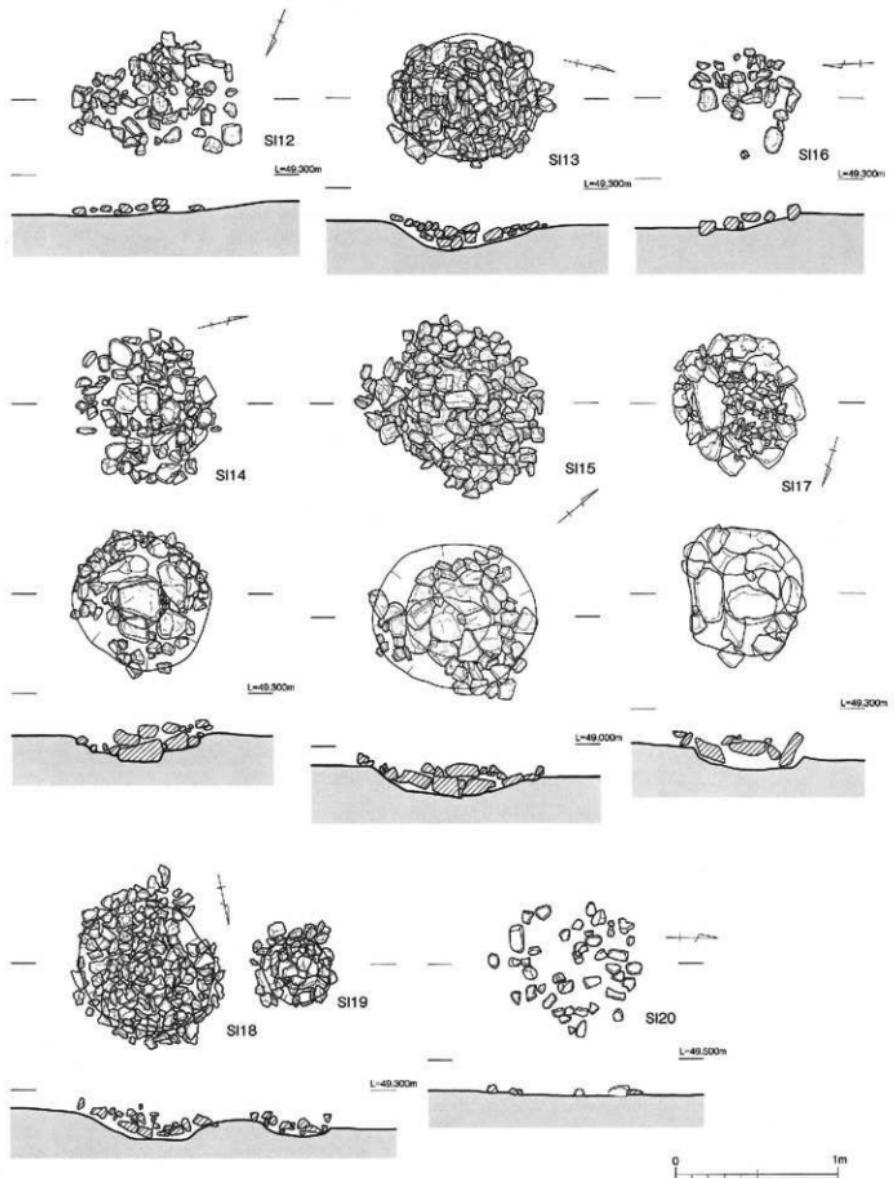
集石遺構は、調査区の平坦面に散在する拳大の礫群を除去する過程で西側の斜面を除く標高48.4m～48.6mの範囲のほぼ全面(C,D,E-2,3,4,5)にわたって検出した。とくに、調査対象区のC2,D2区には密集度が高く、統いてC3,D3,E5区、C4、D4区と続く。緩斜面となっている東側のE2、3、4、5区にも若干検出されたものの急斜面となるAB1から5区には見られなかった。以上によって北側の標高の高い平坦面に偏在する分布状況がみてとれる。散礫群の分布範囲は、重力の及ぼす長年の経年変化とともになうクリープ現象の影響は少なかったと見え、遺構の分布位置関係と相関関係にある。検出した集石遺構の遺構範囲などの法量、掘り込み・配石・炭化物の有無等については、第6表に示した。集石遺構の形態他について、先例に新知見を加える実例には乏しいが、本遺跡の集石遺構の有り様、実態から抽出できる事項を以下のように述べる。遺構の中には、遺構本来の用途（通常、ストーン・ポイリングと推定されている）のために礫を予め集積して準備されたかのような状態を示すと考えられるもの(SI 4, 12, 50)がみられた。いずれも、掘り込みをもたずに平面上に集積され、礫の集積範囲自体が小規模である。遺構底面または斜面（側面）に敷かれる中・大礫（通常「配石」と呼称される）がみられるものは58基中35基（60パーセント）を示し、配石のあるものは浅い円形もしくは楕円形の掘り込みを有する。掘り込みの深さは、その97パーセントが30cm未満であり10cm未満の極めて浅い掘り込みも33パーセントみられる。一方、掘り込みがなく平坦面に集石する例が58基中12基（20パーセント）みられる。遺構底面に配置される中礫、大礫のなかには、故意に抜き取られていると考えられるもの(SI 5, 27, 38)がある。配石がみられないものは拳大の礫が充填されているのであるが、掘り込みは平均20cm未満と相対的に浅いことがわかる。また、外見上、集石遺構全体が赤化著しい事例が2件(SI32, 35)見られるが、赤化よりもむしろ白化したものが多く一概に被熱の度合いを推し量る指標にはならないようである。石材は、砂岩、花崗斑岩を主体としながら、ホルンフェルス、頁岩、チャートがあり、いずれも上流域の岩帯を母体とする石材であり、現在でも容易に周辺の解析崖から採集できる素材である。なお、年代測定(AMS法)を実施したSI37の炭化物からは9,000年(B.P.)という値が得られている。整理にあたって集石遺構を構成する岩石の礫間の接合作業を実施していないために、果たして何基が縄文早期のなかでも同時期の所産であるかどうか判断する材料に欠ける恨みがあるが、遺構の周辺から少量出土した土器や石鏃などの生活用具から、少なくとも谷を隔てて東へと続く尾根部に比べて集石遺構を営むのに適地であったことが窺われる。



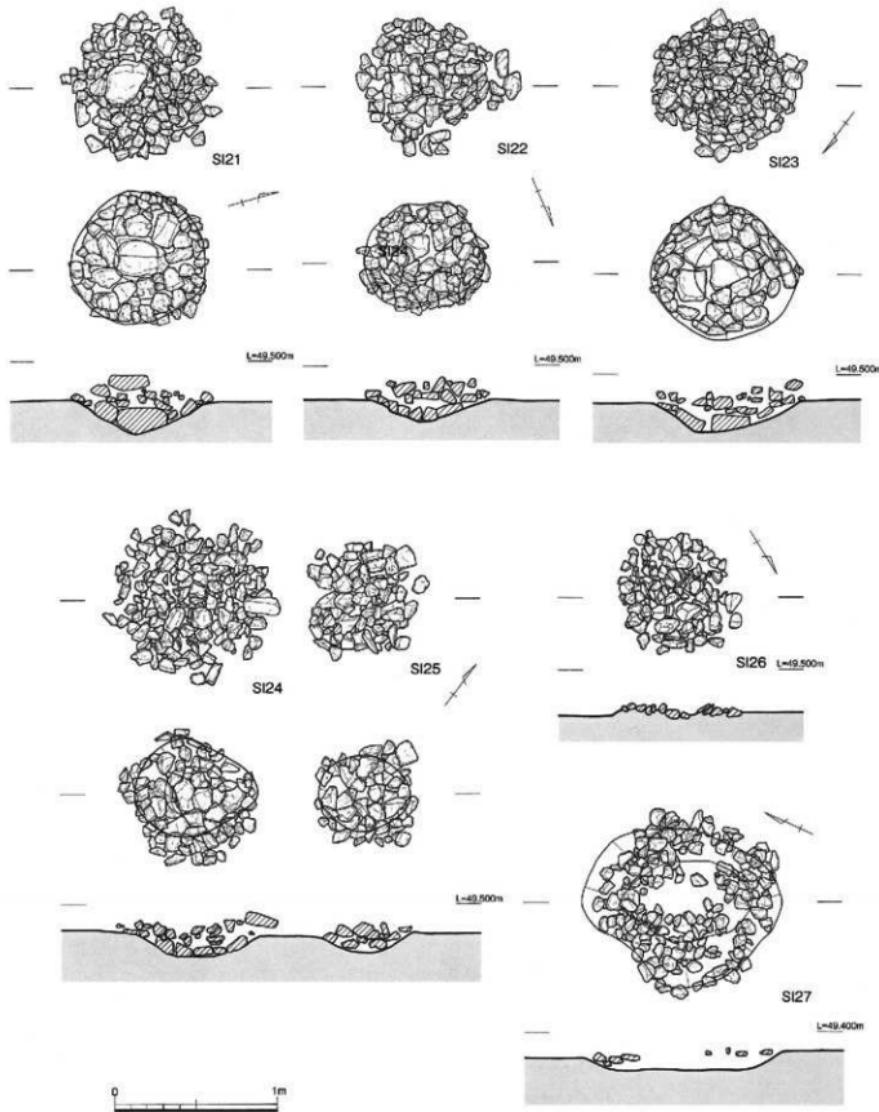
第75図 集石遺構・炉穴・窯群の検出状況図 (1/250) ※朱点は窯群



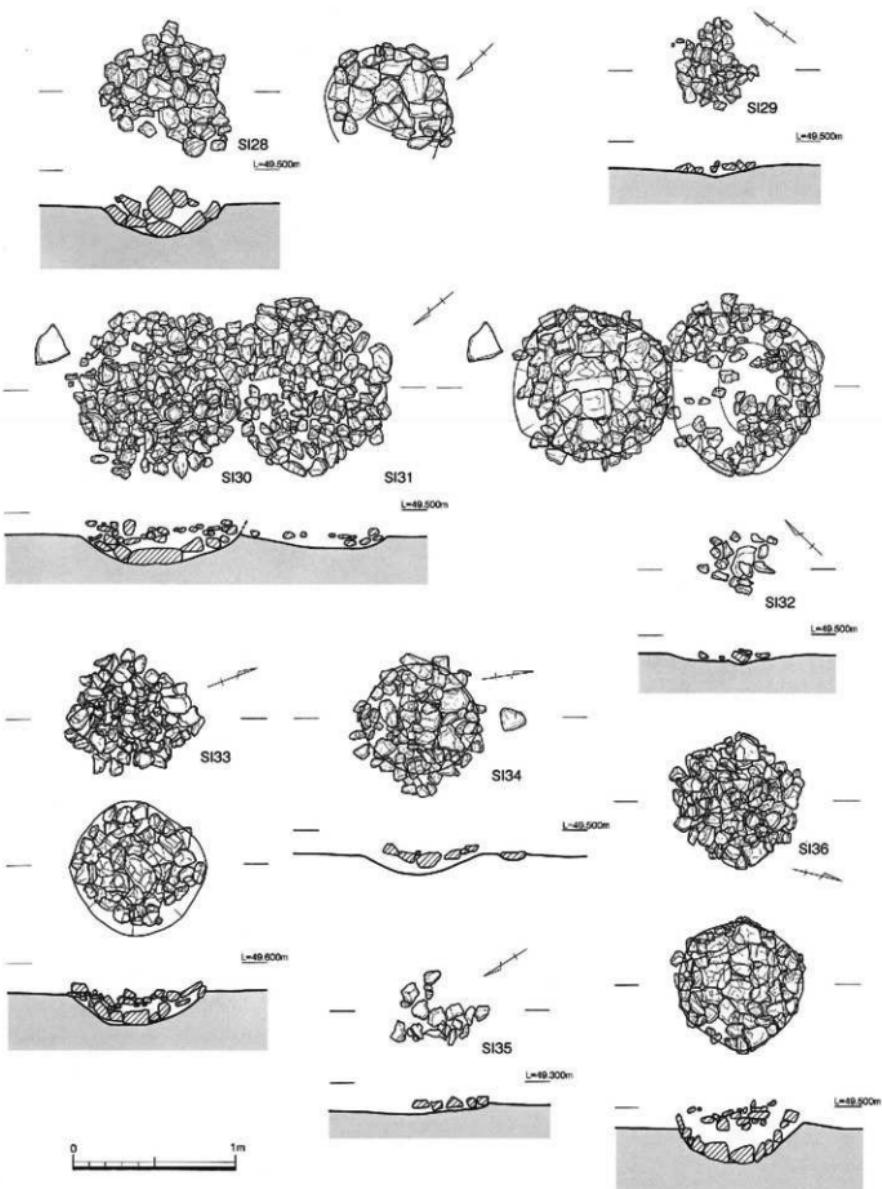
第76図 集石造構実測図① 1/30



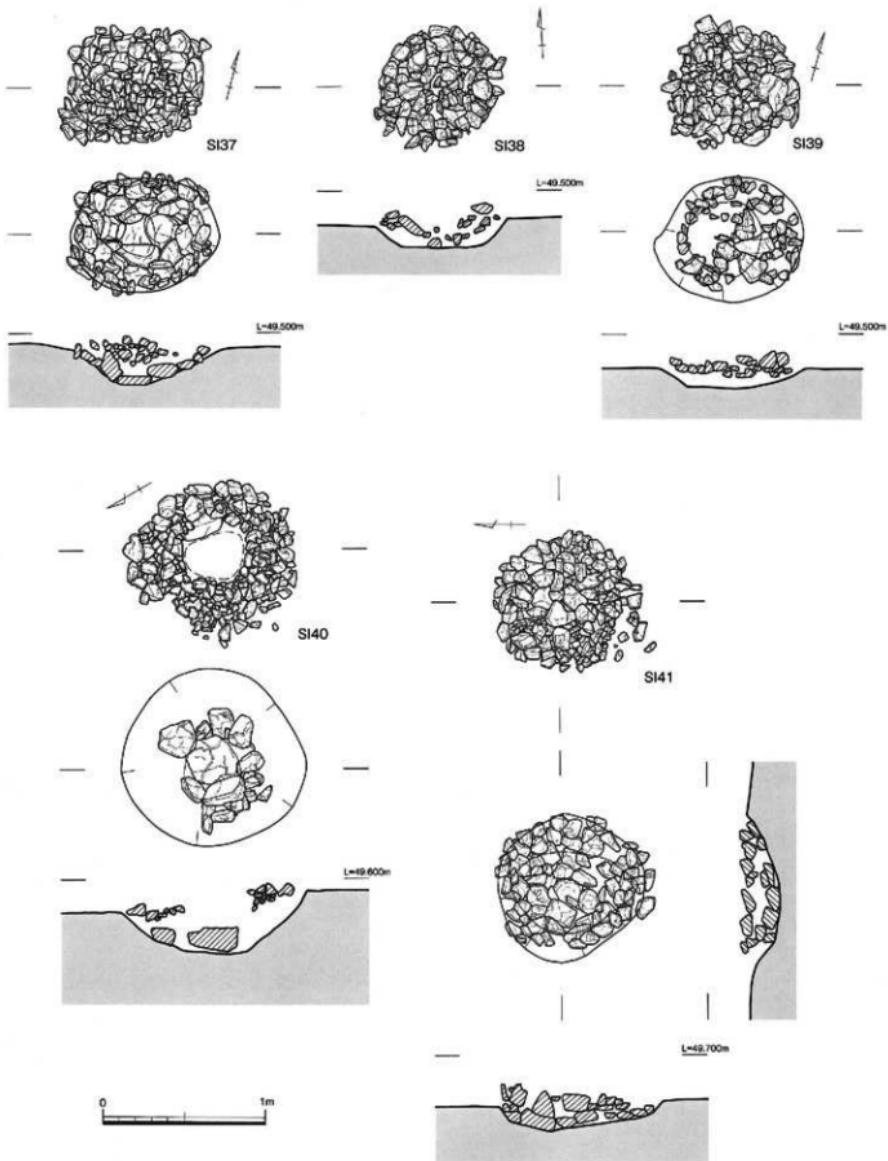
第77図 集石造構実測図② 1/30



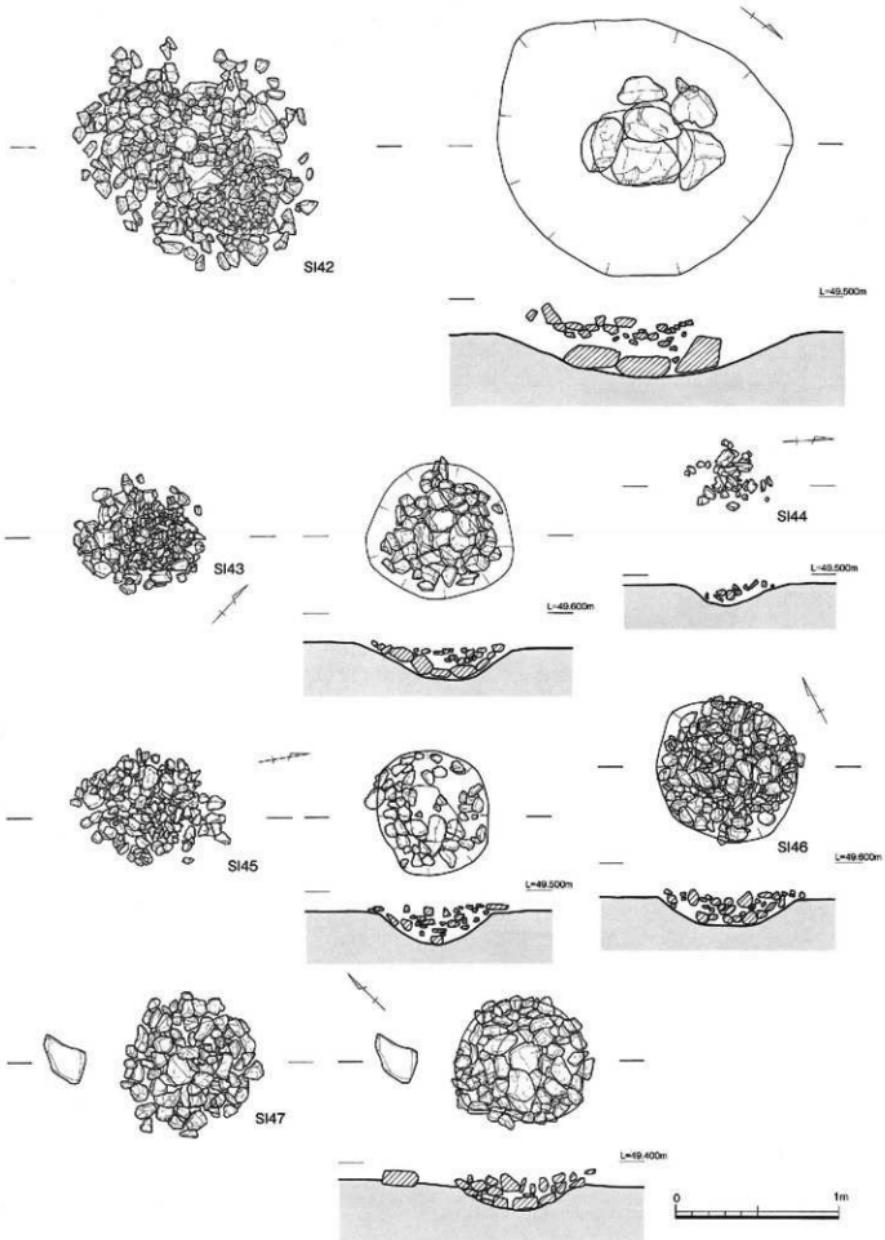
第78図 集石遺構実測図③ 1/30



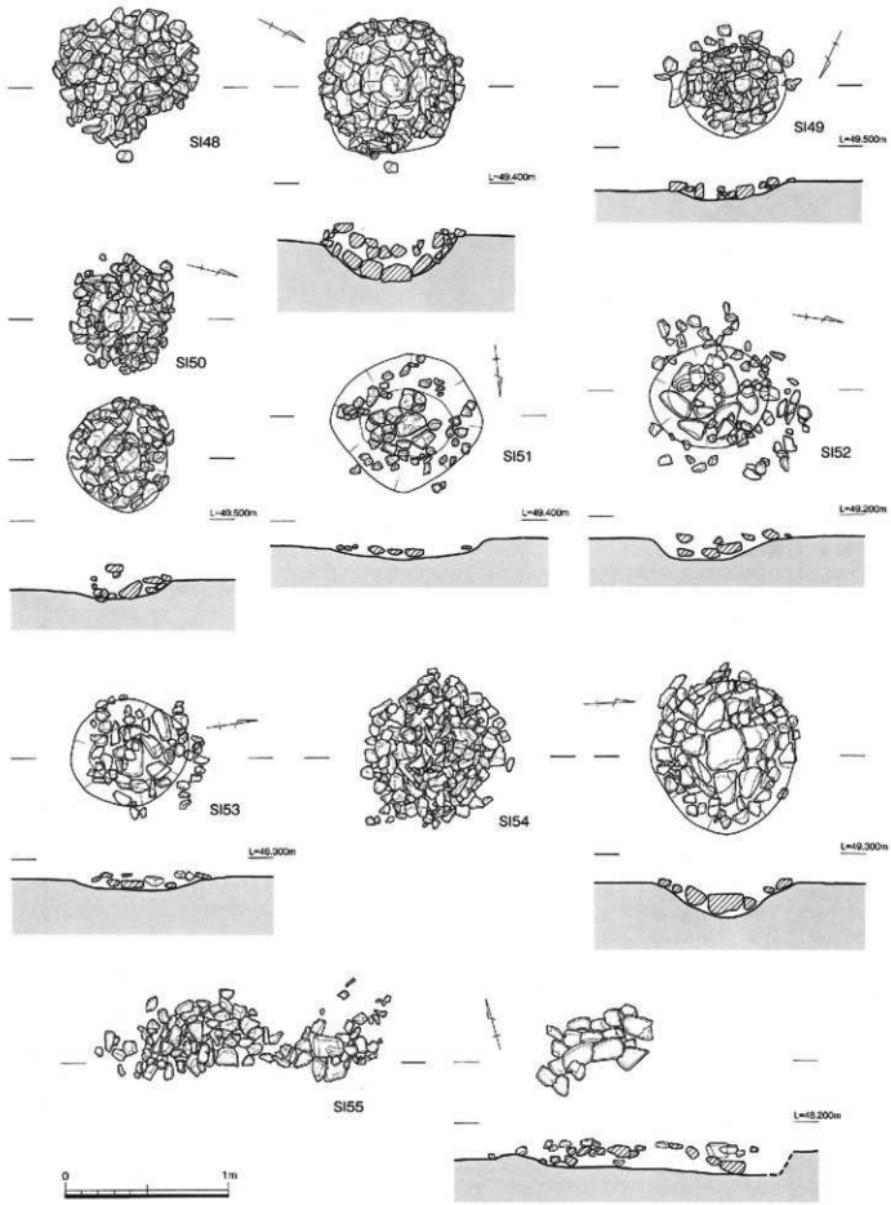
第79図 集石造構実測図④ 1/30



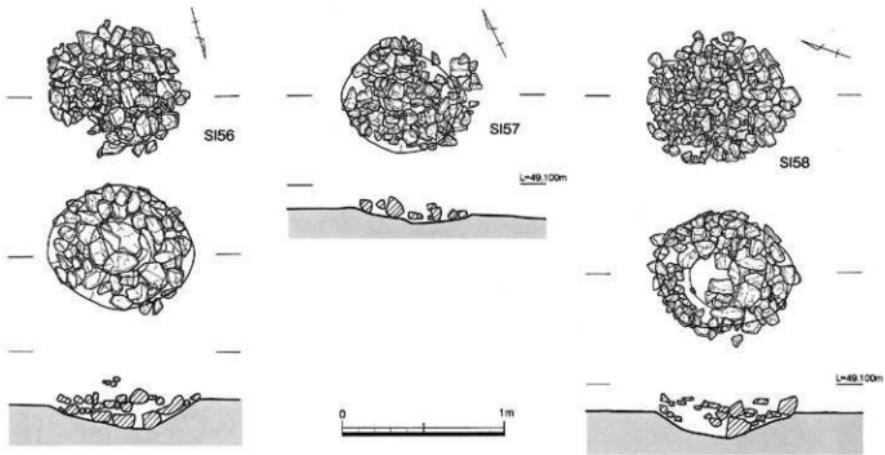
第 80 図 集石遺構実測図⑤ 1/30



第81図 集石造構実測図⑥ 1/30



第 82 図 集石遺構実測図⑦ 1/30



第83図 集石遺構実測図⑧ 1/30

表5 打製石器観察表

遺物番号	層位	器種	タイプ	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
352	IV	打製石器	I b	(1.20)	1.40	0.30	0.30	ch	
353	IV	打製石器	I b	1.55	(1.25)	0.30	0.40	ch	
354	IV	打製石器	I b	1.90	1.70	0.35	0.90	ch	
355	IV	打製石器	I b	1.50	1.25	0.25	0.30	ob	桑ノ木津留産
356	IV	打製石器	II b	1.95	1.65	0.30	0.70	ch	
357	IV	打製石器	II b	(1.65)	L15	0.30	0.40	ch	
358	IV	打製石器	II b	1.90	L30	0.30	0.50	ch	
359	IV	打製石器	II b	1.80	L30	0.50	0.70	ch	
360	V 3	打製石器	II b	(1.85)	1.60	0.40	0.70	ch	
361	IV	打製石器	II b	2.40	1.45	0.30	0.70	ch	
362	IV	打製石器	I a	(1.90)	1.80	0.40	1.10	ch	
363	IV	打製石器	II b	(2.20)	1.85	0.35	1.00	ch	
364	IV	打製石器	II a	2.20	1.75	0.55	1.90	ch	
365	IV	打製石器	II a	2.30	1.85	0.65	2.10	ch	
366	IV	打製石器	II b	1.85	1.35	0.30	0.40	ch	
367	IV	打製石器	III b	1.80	1.40	0.40	0.70	ch	
368	IV	打製石器	III b	2.10	(1.45)	0.30	0.60	ch	
369	IV	打製石器	II b	2.25	1.50	0.30	0.50	ch	
370	IV	打製石器	II b	2.20	1.36	0.30	0.60	ch	
371	V 5	打製石器	II b	2.25	(1.50)	0.25	0.60	ch	
372	IV	打製石器	II b	1.45	1.30	0.30	0.40	ch	
373	IV	打製石器	III b	2.50	1.40	0.30	0.70	ch	
374	IV	打製石器	III a	(2.35)	1.80	0.40	1.40	ch	
375	IV	打製石器	III b	(2.80)	1.90	0.35	1.40	R1	
376	IV	打製石器	IV a	2.90	2.25	0.85	4.70	ch	
377	IV	打製石器	IV a	2.55	1.65	0.45	1.70	ch	
378	IV	打製石器	V	(2.30)	(1.35)	0.40	1.10	ch	
379	IV	打製石器	V	(3.80)	(1.80)	0.70	3.60	ch	
380	IV	打製石器	I a	2.75	(2.00)	0.50	2.00	ch	
381	IV	打製石器	I a	2.45	(1.85)	0.75	1.90	ch	
382	IV	打製石器	V	(2.65)	(1.75)	0.40	1.30	ch	

## (2) 炉穴 (SP 1 ~ 9)

集石遺構と散礫を除去し、下層 (V層) の掘り下げを行う過程で、5群9基の炉穴を検出した。炉穴は、集石遺構を検出した調査区であるところの東西の斜面部を除く平坦面である C,D-2 ~ 5区から検出されているが、純然たる平坦面ではなく5群とも東西両側の斜面地にかかる緩傾斜地に営まれているという特徴がある。なお、炉穴遺構の最深掘り込み（底床部）はⅤ層に達している。また、各炉穴は遺構上面に集石遺構をもたず、本遺跡においては集石遺構との関連は薄いと思われる。1号炉穴 (SP 1) の炭化物から得られたAMS法による年代測定値は9.150年±50であり、集石遺構より古い值得いている。

### 1群炉穴 (SP 1) (第85図)

西斜面に近いC3区の西端で検出した。長さ（東西）177cm、最大幅85cm、検出面からの深さ40cmを計る東側の径が大きい長楕円形の炉穴である。1群はこのSP 1基のみであり明瞭な単独遺構である。東端に炉部があるために径がやや大きく造られている。炉部の床底には半径35cm、厚さ10cmの規模で焼土が堆積している。この焼土から西側の床底にかけては焼土と多量の炭化物混じりの層が約5cm内外の厚さで広がっている。焼成後の焼土と燃え残りを搔き出した状態を想定することができる。

### 2群炉穴 (SP 2, 3, 4) (第85図)

2群はD、E-3区が接する地点で検出した3基からなる一群である。

SP 2は、長さ210×幅85cmの規模で東西にのびる深さ（検出時）30cmの炉穴で、東端をSP 4に削られ、SP 2がSP 3の中央付近を切る関係にある。炉部を西側に造り、床底には90cm×60cm、厚さ3~5cmの範囲で焼土が残っている。焼土の上面には9点の拳大の焼礫が乗る。床底の一方には70cm×60cmの範囲で焼土と炭化物混じりの厚さ10cmの層が堆積しており、これも残滓を搔き出した状態を残すものであろう。なお、SP 2の床底面は上位白斑ローム (Ⅶ層) に達している。SP 3は中央部をSP 2に切られる長さ220cm×幅70、深さ25cm（検出時）規模の炉穴で、北東・南西に延びる。南西端を炉部としており、床底に75cm（推定）×55cm（推定）の範囲で焼土が厚さ20cmで堆積する。焼土中に一辺10cmの角礫を含む。東端は、これも搔き出した痕跡と思われる炭化物混じりの焼土が堆積している。SP 4は、炉部の一部が残存するもので全体の約3/4が削平を受けている。床底に半径35cm規模で焼土が厚さ10cmで堆積している。

### 3群炉穴 (SP 5, 6, 7) (第86図)

3群はD、E-4、5区が接する地点で検出した3基からなる一群である。

SP 5は床底が僅かに残存するもので、長さ240cm（推定）、幅60cm（現状）、深さ4cm～14cmを計る。中央に80cm×50cmの楕円形状の浅い掘り込み（床面との比高10cm）がみられる。この遺構については他の遺構に共通してみられる焼土、炭化物等が出土していない。SP 6は、切り合い関係からこの3基の中では時期を最も古く設定できる遺構である。長さ200cm、幅80cm、深さ25cm（検出時）を計る。中央付近がややくびれており蕭状を呈する。焼土は火床となる炉部に80cm×60cmの楕円形状に12cmの厚さで堆積している。3群中最大規模であるSP 7は、長さ290cm、幅85cm～110cm、深さ35cmを計る。火床である炉部は東端にあるが、中央から後部よりも浅い掘りこみがみられ、焼土

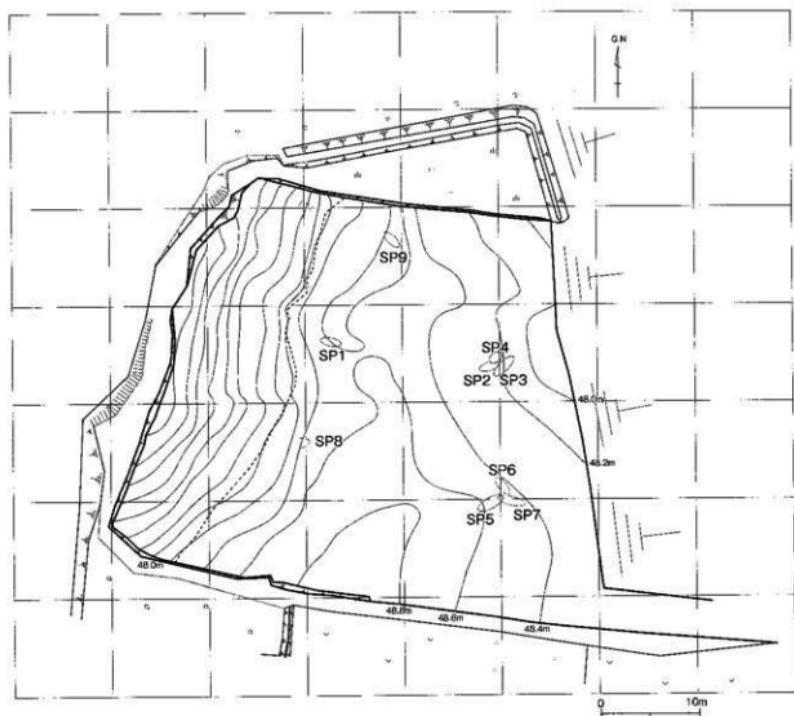
はこの二箇所の掘り込みを結ぶ全面に堆積している。東端炉部での焼土の堆積 15cm、西側掘り込み中の堆積 10cm である。焼土色（炭化物等の混入状況）の観察から東側炉部を使用した後、西側炉部を統いて使用したとみることができる。すなわち、一つの炉穴の中で時期を経て 2 箇所の火床を使用したことがわかる事例である。

#### 4 群炉穴 (SP 8) (第 86 図)

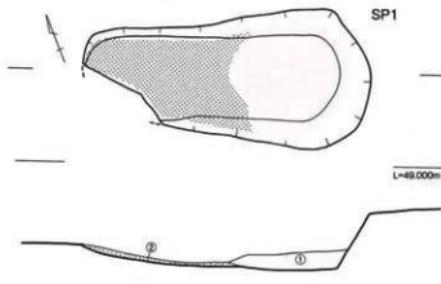
4 群は B、C 4 区の境界付近で検出した炉部の一部が残存する 1 基 (SP 8) である。残存する炉部以下は現代の排水施設工事により削平を受けていた。炉部とみられる火床には縄文早期の集石遺構のように径 65cm、深さ 20cm にわたる砾の集積がみられ、焼土は集石直下に 5 cm ~ 10 cm 厚で堆積していた。

#### 5 群炉穴 (SP 9) (第 86 図)

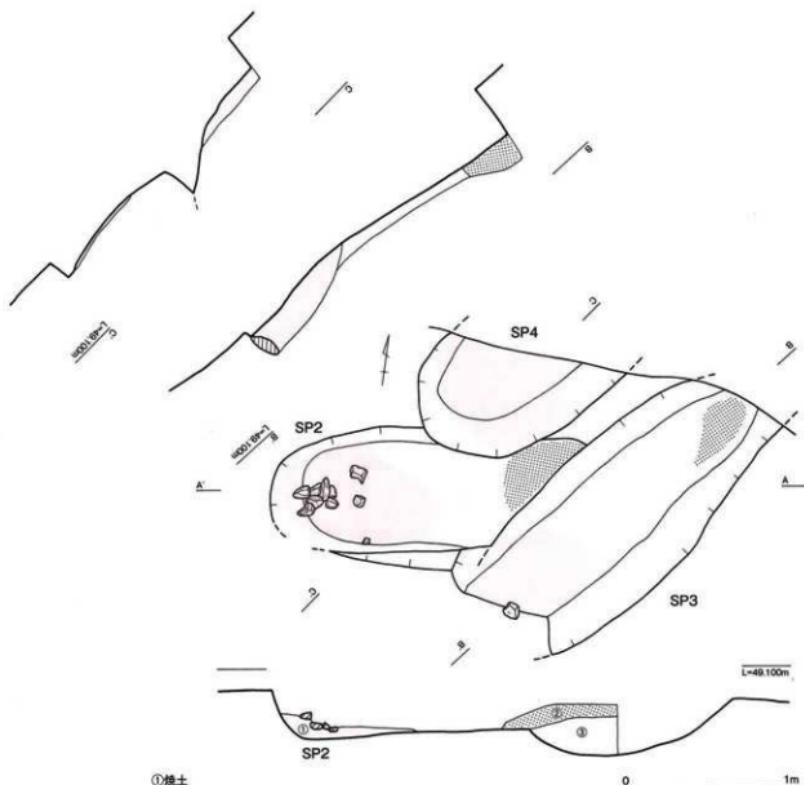
SP 9 は長さ 290cm、幅 60cm ~ 95cm、深さ 45cm (検出時) を計る。炉部は南端にあって 70cm × 55cm の楕円形状に焼土が堆積する。



第 84 図 炉穴分布図 (1/500)

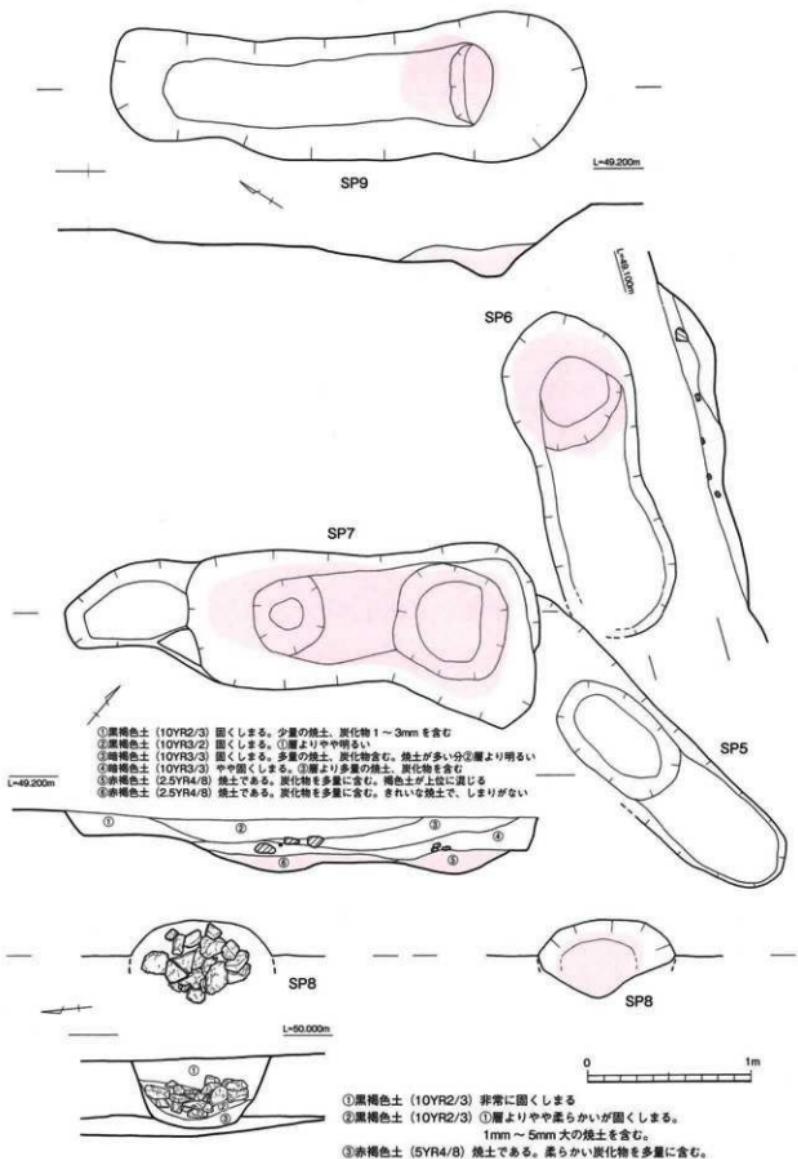


- ①燒土に炭化物が少量混じる  
②やや固くしまる。燒土、炭化物に多量の黒褐色土が混じる



- ①燒土  
②掘き出した焼土（炭化物含む）  
③非常に固くしまった黒褐色土。1mm～1cm 大の焼土ブロックや炭化物を含む

第85図 炉穴 (SP1.2.3.4) 実測図



第 86 図 炉穴 (SP5.6.7.8.9) 実測図 (1/30)

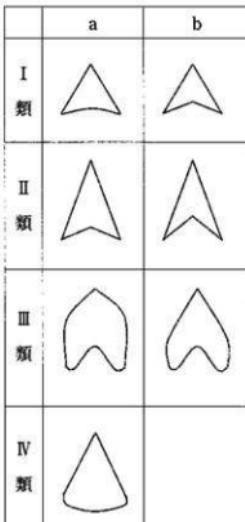
## 2 遺物

### (1) 縄文土器 (第 87 図)

338 ~ 347 は第Ⅳ層～第V層上面から出土した縄文時代早期の土器片である。338 ~ 342 は口縁端部を丸く調整する深鉢形土器の口縁部である。やや風化はしているが、外面に横・斜め方向の貝殻条痕文を施し、内面には指頭痕や貝殻条痕文のあとナデ調整を施している。339 には粗く疎な貝殻条痕文、340、341 には斜方向の細く密な条痕文が見られる。343、344 は堅緻で薄手の円筒土器の口縁部で、口縁端を平坦に調整し、刻み目を施す。344 では、条痕のあとに縱方向の貝殻復縁文を施し、さらに短く細い貼付文を三段に付ける。345 は深鉢の口縁部で他に比べてやや薄手となる。調整は外内面ともにナデが施されている。346 は深鉢の胴部である。調整は外面に斜め方向の貝殻条痕文を施し、内面には指頭痕や貝殻条痕文のあとナデを施している。347 は深鉢の底部である。調整は外内面ともにナデ調整となっている。

### (2) 石 器 (第 87・88 図)

348 ~ 351 は第Ⅳ層～第V層上面から出土した縄文時代早期の石器である。348 は流紋岩製 (R1) の長 3.4cm、幅 0.8cm を測る錐である。表裏両面から細かな剥離を加えて下端を錐状に尖らせている。349 は無斑晶安山岩製の長 3.4cm、幅 0.8cm を測る小型細身の尖頭器である。薄手の剥片の表裏両面から調整を加えている。このような小型の尖頭器は「鉛」的機能を連想させる。隣接する遺跡である延岡市小川町に所在する山田遺跡からこれに酷似する資料が数点出土している。350、351 は砂岩製の敲石である。350 は折損品で長楕円形の円窪の先端全面に漬痕が観察できる。351 は扁平円窪の側縁全面に叩きで生じたと思われる漬痕が廻っている。とくに、上下端に大きな漬痕がみられる。352 ~ 382 は打製石錐で、総数 31 点が出土した。打製石錐の出現初期形態となる I a 類に類似する三角形錐は出土していない。石材は 29 点がチャート製、その他、流紋岩製が 1 点、黒曜石が 1 点である。黒曜石は桑ノ木津留産である。形状をタイプ別に分けると右図のように分けることができる。31 点のタイプ別と計測値は表 5 に示している。



#### ○形状分類

I 類：外形がほぼ正三角形を呈するもの。

a : 扱りが曲線的で浅い      b : 扱りが直線的で深い

II 類：外形が二等辺三角形を呈するもの。

a : 扱りが浅く曲線的      b : 扱りが直線的で深い

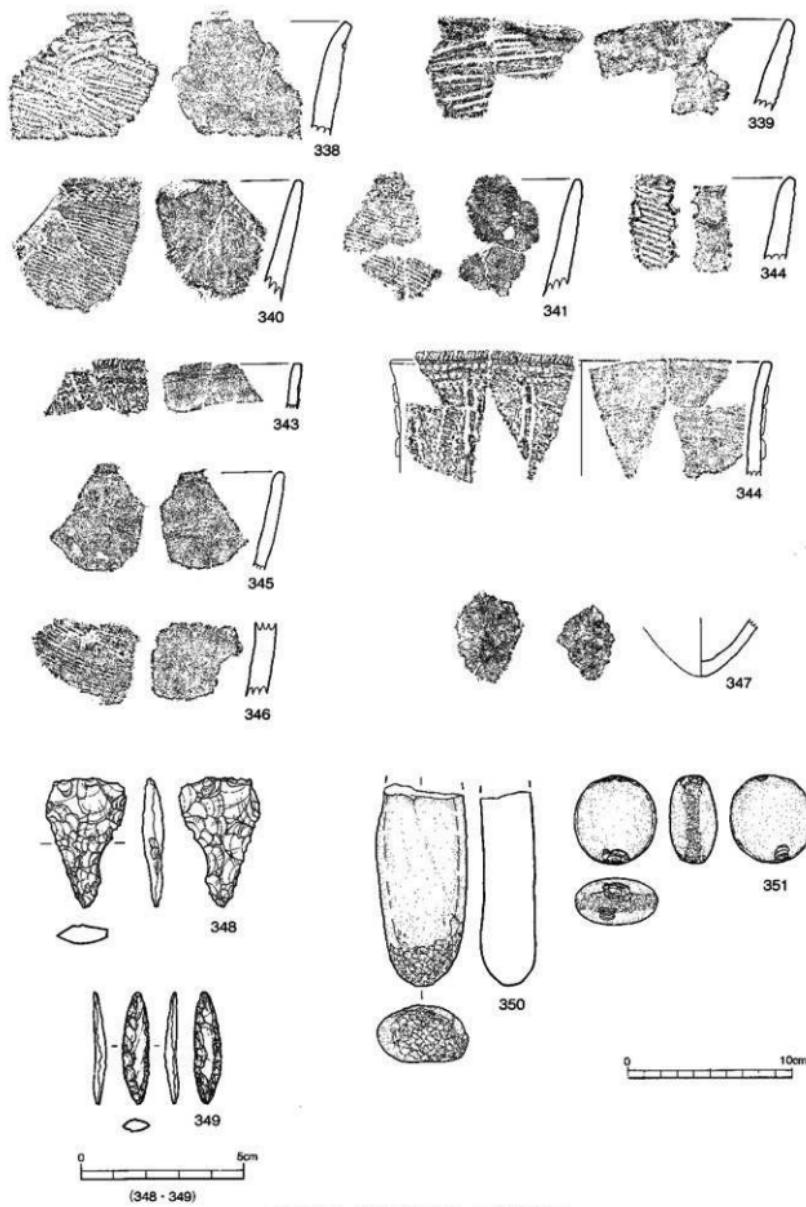
III 類：両側縁が外に膨らむ曲線である。

a : 中央部が最大幅となる      b : 基部付近が最大幅となる

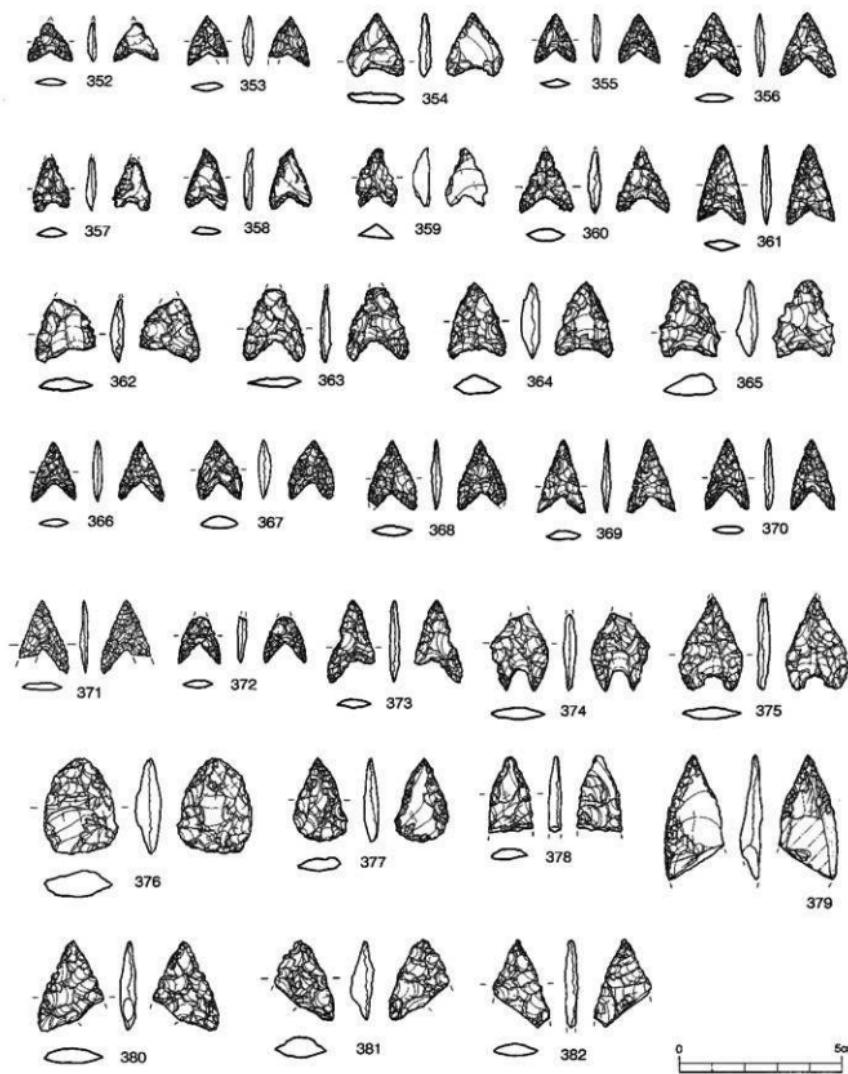
IV 類：基部が外に膨らみ丸みがある。(扱りがない)

V 類：欠損または不明なもの。

打製石錐形状模式図



第 87 図 桶文早期土器・石器実測図



第88図 打製石器実測図

表6 鑿石遺構(縄文早期) 計測表

※振り込みの深さのタイプ別 A : 0 ~ 0.09m B : 0.1 ~ 0.19m C : 0.2 ~ 0.29m D : 0.3m以上

遺構 No.	時期	検出層	範囲(縦の範囲) 最大長×最大幅 (m)	周長(回り込み) 最大長×最大幅×深さ (m)	振り 込みの 有無	振り 込みの 深さ	配石	炭化 物	特 徴	
									SIIと接する	配石が丁寧に施される
1	縄文時代早期	N層下部	0.83 × 0.73	0.7 × 0.75 × 0.06	○	A	○	×	SIIと接する	配石が丁寧に施される
2	縄文時代早期	N層下部	0.78 × 0.63	—	×	—	○	×	配石の一端のみが残存	—
3	縄文時代早期	N層下部	0.49 × 0.48	—	×	—	×	×	配石の一端のみが残存	チャートの原石を含む(No.1726)
4	縄文時代早期	N層下部	0.67 × 0.58	0.6 × 0.42 × 0.06	○	A	×	×	配石範囲が小規模である	準偏縫の可能性
5	縄文時代早期	N層下部	1.16 × 0.59	1.0 × (0.5) × 0.07	○	A	○	×	配石も若干残存するが、抜き取られ破壊	—
6	縄文時代早期	N層下部	1.15 × 0.57	—	×	—	×	×	発生頻度の豊穴住居で削平されている	—
7	縄文時代早期	N層下部	0.92 × 0.95	—	×	—	×	○	同サイズの縫が密集する	—
8	縄文時代早期	N層下部	1.04 × 0.79	1 × 1 × 0.16	○	B	○	○	浅い削り込み中には同じサイズの縫が密集する	—
9	縄文時代早期	N層下部	0.71 × 0.6	0.69 × 0.81 × 0.07	○	A	○	○	—	やや小さな同サイズの縫が密集する
10	縄文時代早期	N層下部	0.84 × 0.75	0.64 × 0.54 × 0.08	○	A	×	×	配石は存在しているが、樹木により破壊	—
11	縄文時代早期	N層下部	0.79 × 0.7	0.78 × 0.68 × 0.08	○	A	○	○	配石が一方に偏っている	炭化物少量あり
12	縄文時代早期	N層下部	1.02 × 0.7	—	—	—	—	—	—	縫に集積 単偏縫の可能性
13	縄文時代早期	N層下部	1.04 × 0.78	0.91 × 0.78 × 0.15	○	B	×	○	配石は存在しているが、樹木により破壊	—
14	縄文時代早期	N層下部	0.94 × 0.7	0.83 × 0.86 × 0.19	○	B	○	×	中央付近に大礫を配置する	—
15	縄文時代早期	N層下部	1.14 × 0.93	1.02 × 0.88 × 0.12	○	B	○	○	—	後世の掘削や崩壊により崩れている部分あり、配石の表面が削られていいる
16	縄文時代早期	N層下部	0.68 × 0.42	—	—	—	×	○	縫に集積 单偏縫の可能性	—
17	縄文時代早期	N層下部	0.83 × 0.88	0.69 × 0.71 × 0.08	○	A	○	○	数個の大礫を配置する 配石を水平にするためから~6cmの小砾を12個以上置く	—
18	縄文時代早期	N層下部	1.05 × 0.84	0.87 × 0.79 × 0.15	○	B	○	○	SIIに隣接	—
19	縄文時代早期	N層下部	0.54 × 0.51	0.39 × 0.4 × 0.06	○	A	○	○	SIIに隣接 比較的小さな縫が密集	—
20	縄文時代早期	N層下部	0.83 × 0.82	—	—	—	—	—	—	偏めで偏縫 単偏縫の可能性
21	縄文時代早期	N層下部	0.95 × 0.9	0.83 × 0.82 × 0.2	○	C	○	○	大礫を中心部に配石する 炭化物は1mm弱が無く微量	—
22	縄文時代早期	N層下部	1.0 × 0.83	0.73 × 0.63 × 0.14	○	B	○	○	中程度の深さを5、6cm直立石して、集積している	—
23	縄文時代早期	N層下部	0.9 × 0.95	0.91 × 0.83 × 0.2	○	C	○	○	大礫3点を配石した後に集積している 1mm前後の炭化物を微量確認	—
24	縄文時代早期	N層下部	1.03 × 1.07	0.76 × 0.61 × 0.16	○	B	○	○	やや規則的な小さなSIIと隣接している	—
25	縄文時代早期	N層下部	0.65 × 0.68	0.57 × 0.46 × 0.1	○	B	×	○	SII4と隣接している	—
26	縄文時代早期	N層下部	0.75 × 0.71	—	—	—	—	—	平面的に集積するタイプである	—
27	縄文時代早期	N層下部	1.1 × 1.15	1.23 × 0.97 × 0.1	○	A	×	○	配石がないが、抜き取られている可能性 大き目の配石を生き残り後に再利用か	—
28	縄文時代早期	N層下部	0.83 × 0.62	0.71 × 0.74 × 0.2	○	C	○	○	掘り込みは小規模であるが、配石する縫に大礫を使用する	—
29	縄文時代早期	N層下部	1.0 × 1.0	0.96 × 0.91 × 0.17	○	B	○	○	大礫3点を配石した後に集積している 1mm前後の炭化物を微量確認	—
30	縄文時代早期	N層下部	0.86 × 1.10	0.9 × 1.0 × 0.07	○	A	○	○	Kuでは「ぐらんぐらん」が土石、配石がしっかり残る 1mm以下の炭化物を確認	—
31	縄文時代早期	N層下部	0.49 × 0.57	—	—	—	—	—	Kuでは「ぐらんぐらん」に接する 埋り込みがある。大礫による配石が残る	—
32	縄文時代早期	N層下部	0.57 × 0.42	—	—	—	—	—	埋り込みが複数ある 全部熱をうけ変化している	—
33	縄文時代早期	N層下部	0.85 × 0.71	0.83 × 0.82 × 0.19	○	B	○	○	小塊状に集積する 全部熱をうけ変化している	—
34	縄文時代早期	N層下部	0.77 × 0.85	0.72 × 0.69 × 0.12	○	B	○	○	埋り込み部に平石を塞ぎて貼り付けるタイプ	—
35	縄文時代早期	N層下部	0.63 × 0.33	—	—	—	—	—	炭化物1mm後で既に既存あり 配石なし、抜き取られた可能性	—
36	縄文時代早期	N層下部	0.75 × 0.84	0.76 × 0.8 × 0.24	○	C	○	○	石すべて赤化、破損、砂質	—
37	縄文時代早期	N層下部	0.83 × 0.7	0.92 × 0.7 × 0.22	○	C	○	○	1mm程度の微量の炭化物あり 配石は大きめの縫を使用	—
38	縄文時代早期	N層下部	0.74 × 0.65	0.8 × 0.8 × 0.15	○	B	○	○	埋り込み既に平石を塞ぎて貼り付けるタイプ 1~3mm大の炭化物を微量確認	—
39	縄文時代早期	N層下部	0.84 × 0.82	0.92 × 0.78 × 0.13	○	B	○	○	配石は抜き取ったのか、配列が解である	—
40	縄文時代早期	N層下部	1.05 × 1.02	1.14 × 1.1 × 0.37	○	D	○	○	配石が角部で密に集積する 中央底に土縫を配し、中縫を並べている 中央埋柵	—
41	縄文時代早期	N層下部	0.83 × 0.9	0.89 × 0.9 × 0.2	○	C	○	○	軽微な傷跡が密に集積する	—
42	縄文時代早期	N層下部	1.56 × 1.28	1.81 × 1.57 × 0.25	○	C	○	○	最大規格の遺構で中央付近に大礫を配置する典型的なタイプ	—
43	縄文時代早期	N層下部	0.82 × 0.68	0.9 × 0.85 × 0.19	○	B	○	○	配石と埋り込みの間に少し隙間がある 地上土あり	—
44	縄文時代早期	N層下部	0.44 × 0.45	0.55 × 0.55 × 0.12	○	B	×	—	偏めて小規模な集積であり、微細が異なる可能性あり	—
45	縄文時代早期	N層下部	1.0 × 0.66	0.78 × 0.72 × 0.28	○	C	○	○	明瞭な配石状態を示さないで残存する 悪条件に經る縫が小さい	—
46	縄文時代早期	N層下部	0.85 × 0.9	0.95 × 0.85 × 0.16	○	B	○	○	比較的小さな縫が配石ごとに密に集積する	—
47	縄文時代早期	N層下部	0.84 × 0.9	0.77 × 0.75 × 0.15	○	B	○	○	軽微な傷跡を示す	—
48	縄文時代早期	N層下部	0.88 × 0.95	0.81 × 0.81 × 0.28	○	C	○	○	中央に大きな石を配置する典型的なタイプ 別縫の縫はやや小さくなる	—
49	縄文時代早期	N層下部	0.77 × 0.66	0.67 × 0.56 × 0.05	○	A	×	—	小規模に集積するタイプ	—
50	縄文時代早期	N層下部	0.61 × 0.75	0.5 × 0.7 × 0.07	○	A	○	○	单偏縫の可能性	—
51	縄文時代早期	N層下部	0.64 × 0.52	—	—	—	—	—	密集成がやや薄である 他の軽微な傷跡がある	—
52	縄文時代早期	N層下部	0.86 × 0.72	0.62 × 0.75 × 0.15	○	B	○	○	中央付近に15~15cmの配石あり	—
53	縄文時代早期	N層下部	0.77 × 0.72	0.65 × 0.72 × 0.09	○	A	○	○	タール?付着 中央に長円形の配石あり	—
54	縄文時代早期	N層下部	0.81 × 1.0	0.9 × 0.95 × 0.2	○	C	○	—	中央に大きな石を配置する典型的なタイプ 縫は密に集積する	—
55	縄文時代早期	N層下部	0.72 × 0.72	—	—	—	—	—	南北半分を小縫によって切られている	—
56	縄文時代早期	N層下部	0.79 × 0.86	0.76 × 0.9 × 0.08	○	A	○	○	中央付近に大礫を配置し、集積する典型的なタイプ	—
57	縄文時代早期	N層下部	0.85 × 0.66	0.71 × 0.69 × 0.05	○	A	×	○	縫の大きさが繋いでおり、埋り込みが集積する	—
58	縄文時代早期	N層下部	0.94 × 0.79	0.85 × 0.7 × 0.15	○	B	○	○	配石が底部全面に及んでいない 半分近くが欠落している	—

### 第3節 弥生時代

#### 1 遺構

##### (1) 1号竪穴住居跡〈SA 1〉(第90図)

アカホヤ火山灰層(Ⅲ層)からⅣ層にかかる中間層を検出面として、発掘区最北端のC2-D2区において竪穴住居跡1軒を検出した。住居跡の北辺が調査区外となるため完全検出には至っていないが、東西4.0m、南北4.0m(推定)規模の方形住居、乃至南北辺が若干長い長方形住居となろう。上位層は耕地開削と耕作によって削平を受けたものと推察され、検出面から床面までの深さ平均9cmと非常に浅い。主柱と考えられる柱穴は4箇所ほぼ対応して検出された。柱穴の深さは、深いもので床面から50cmを計測する。住居跡のほぼ中央には60cm×40cmの楕円形の浅い窪みがあり、24cm×30cm×18cmの礫石が据置されていた。焼土を含む土層範囲は住居中心部から150cm×130cmの範囲に円形に広がり、焼土本体は中央窪みの中心から北東に70cm離れて26cm×34cmの楕円形に広がる。遺物は、小岩疊とともに土器の細片が住居内一面から検出されている。住居遺構は調査区内検出遺構の全時代を通じてこのSA1が唯一の検出例であり、南側発掘区からも検出がないことから、住居跡群は地形的にみて北へさらに延びる舌状丘陵の先端部に位置するものと推測している。

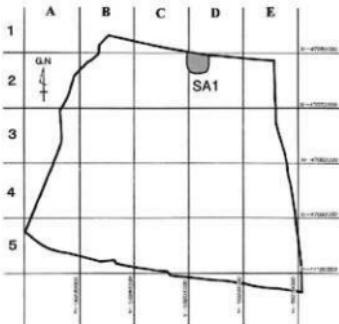
#### 2 遺物

##### (1) 竪穴住居跡(SA 1)出土の遺物(第91-92図)

竪穴住居跡(SA 1)から出土した遺物には土器と石器がある。土器の器種には、甕、壺、高杯、鉢形があり、石器では台石および石斧がある。削平によって上層が破壊されていたため細片が多かったが接合作業によって復元できたもの、および図面上で復元可能であったもの、口縁部、底部その他特徴的部位について91、92図に記載する。なお、法量その他のデータを表7に記載する。

##### 弥生土器

383から388は甕である。383はほぼ完形に近く復元できた唯一の甕である。口辺が緩やかにだるく外反する口縁部をもち、胴部の中央よりやや上部に最大径をもちながら底部へと延びる。口径と胴部最大径がほぼ同じ値をもつ。口縁部は波打ち、平面に作られていないところに粗雑な印象を受ける。底部は小振りな平底となる。384は口縁部を欠損するもので、胴部の張りが383より大きい。385から388は底部である。385は比較的明瞭な平底、386、387は小振りな平底、388は不安定に突出した平底となる。389から397は壺である。389は383の甕とほぼ同じ全高をもつ壺で、口縁は頸部が長くラッパ状に大きく開く。口縁端部は平坦に整形される。胴部の最大径は胴部上位の肩部にある。壺形にもかかわらず胴部中央から下部にかけて煤痕が顕著にみられる。390は口縁が短く外反する壺である。肩部から下を欠いており全貌は不明である。391は口縁部のみの出土である。橢描の波状文が1単位、波長が長く雜に付けられている。392は頸部に×××状の貼付縫目を有するもので比較的大きな壺となろう。393は、

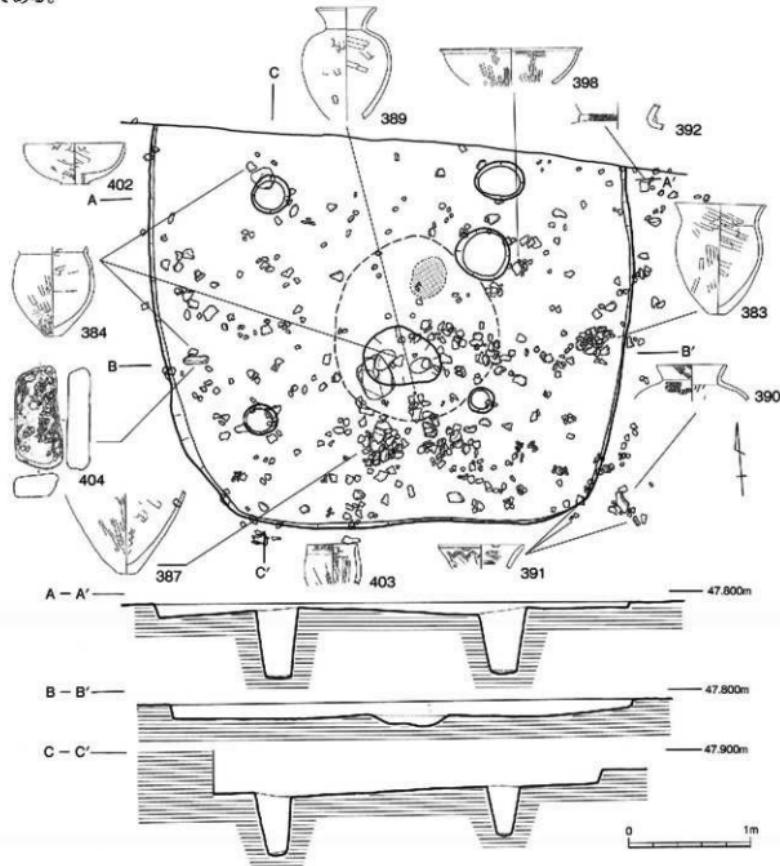


第89図 1号竪穴住居跡位置図(1/1000)

肩部に丁寧なヘラミガキが施されている。394から397は底部である。395には丁寧なヘラミガキが見られる。398から401は高坏である。398は口縁端部が短く急反する碗状を呈する坏部である。内外面ともヘラミガキとなる。399は裾部となる。400は脚部片、401は裾部片である。402、403は鉢である。402は椀状を呈し、底部を小さく貼り付高台状に造る。口縁が歪んでおり雑な造りである。403は、直口縁となるもので口縁内外をナデ調整、胴部をヘラナデで仕上げている。

#### 石器

404は最大長20.2cm、幅9.7cm、重量1666.7gを計る台石で片面に溝痕が見られる。405は表裏両面からの剥離痕が明瞭にみてとれる長さ6.5cm(現存長)、幅4.8cmの流紋岩製打製石斧折損品の上端部である。



第90図 1号竪穴住居跡 (SA1) 実測図 (1/40)